

今治明德短期大学 研究紀要

第33集

目次

日本語専攻の学生が抱く対日意識 —中国の大学における日本語学習者調査から—伊 月 知 子.....	1
柑橘類の多面的利用に関する研究～製菓素材としての検討～武 田 秀 敏.....	13
青年期における身体意識について —短大生男女を対象とした質問紙調査から—寺 川 夫 央.....	31
健全な食料生産をめざして V 湛水水田の水生甲殻類発生へのごみ焼却施設 (クリーンセンター) 地点における風向の影響徳 永 英 幸.....	45
短大生の食に関する意識と実態中居由香、寺川夫央、阿部清子、河野弘美、原 映子.....	59
昭和10年代における朝会行事の運営と実際野 口 学.....	69
母語話者の類似度評価に基いた韓国語助詞「lo」の計量的意味分析濱 田 亮 輔.....	79
「パパ」と「たあたん」——『ことばと文化』再考向 井 久 幸.....	89
霊能者ドリス・コリンズの霊視・霊的治療とその人生観渡 部 英 機.....	95
教員活動報告(2008.4.1～2009.3.31).....	105

平成21年3月

今 治 明 徳 短 期 大 学

日本語専攻の学生が抱く対日意識 —中国の大学における日本語学習者調査から—

伊 月 知 子

The Consciousness about Japan of Japanese Major Students : Investigation for Japanese Learners of Chinese Universities

Tomoko ITSUKI

はじめに

国際交流基金日本語国際センターの2006年海外日本語教育機関調査結果によると、中国国内の日本語学習者は約68万人であり、中でも高等教育機関、いわゆる大学で学ぶ人が40万人を超えていることが特徴として挙げられている。また、宿久・周(2007)によれば、現在日本語学科を設置している大学は全国約2,300校のうち358校であり、そこで教えている教師の数は約3,000人、学生数は約14万7,000人に上るといふ。

中国の教育機関で行われる日本語教育は、すべて国家教育部が制定する学習指導要領に細かく規定されている。大学における日本語教育のうち、日本語専攻1,2年生には2001年に改訂された「高等院校日語專業基礎階段教学大綱」が対応し、3,4年生には2000年に制定された「高等院校日語專業高級階段教学大綱」が対応している。日本語非専攻に対応するものには2000年改訂の「大学日語教学大綱(第二版)」と1993年制定の「大学日語(第二外语)教学大綱」がある⁽¹⁾。これらの学習指導要領には教育の目的や目標、学生に求められる到達レベル、授業で教える項目等が非常に詳細かつ具体的に提示されており、教師が教案を作成したり出版社が教科書を編集したりする際の重要な指針となっている。

現在の日本語専攻における日本語教育の特色は、2001年の「高等院校日語專業基礎階段教学大綱」を見ると明らかである。その「前言」には以前の教学大綱との違いとして、(1)「社会文化を理解する能力の養成」を教育目的として明確にしたこと、(2)教育内容の項目に「社会文化」を新たに追加したこと、の2点が挙げられている。こうした学習指導要領の改訂に伴い、新しい教科書が続々と編集・出版され、教育現場では徐々に古い教科書と入れ替わって新教科書が採用され始めている。

以上のような事情から、日本語専攻で行われる授業は国家教育部の方針が学習指導要領を通して直接反映されており、そこで学ぶ学生は新教科書による新しい日本語教育をいち早く教授されることになり、その影響を大きく受けると思われる。そこで、新しい教科書が採用されつつある中で、実際に日本語専攻で学ぶ学生が日本に対してどのような関心や知識を持っているか、また彼らが授業や教科書を通じて日本語学習による何らかの影響を受けているかどうかについて調べるため、大学の日本語専攻に所属する1年生から4年生までの学生に対する調査票配布による意識調査を実施した。

調査は日本語学習調査と対日意識調査に分けられ、まず日本語学習調査では学習目的や学びたい日本に関する知識について尋ねた。対日意識調査では、日本語・日本・日本人のそれぞれに対する好感度と知っている日本人・日本事情を尋ね、さらに日本語学習期間が1年以上になる2年生以上の学生に対して、日本語学習の前後で日本語・日本・日本人に対するイメージが変化したかどうかについて、その理由とともに尋ねた。

今回の調査結果を基にして、学生の日本語学習に対する意識と日本や日本人に対する関心や知識について量的および質的分析を行い、さらに彼らの日本語学習の経験がそれらに及ぼす影響について考察する。

1. 調査の対象と方法

調査は、中国の4都市4大学の日本語専攻に所属する1年生から4年生までの学生896人を対象とし、調査票配布の形で行った⁽²⁾。調査協力大学は、大連外国語学院日本語学院（遼寧省大連市）・中国人民大学（北京市）・済南大学（山東省済南市）・浙江工商大学（浙江省杭州市）の4大学である。調査時期は2007年9月から11月である。調査対象の構成は以下の通りである。

表1 地域別男女比と平均年齢

地 域	男		女		合 計	
	人数	平均年齢	人数	平均年齢	人数	平均年齢
大 連	88	(20.2)	309	(20.0)	397	(20.1)
北 京	44	(20.0)	58	(19.6)	102	(19.8)
済 南	43	(20.7)	110	(20.6)	153	(20.6)
杭 州	46	(20.0)	187	(19.8)	233	(19.9)
計	221	(20.2)	664	(20.0)	885	(20.1)

注) 年齢不明の6人を除外する。

表2 地域別各学年の人数

地 域	学 年				合 計
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
大 連	104	167	61	59	391
北 京	29	21	23	29	102
済 南	38	40	36	41	155
杭 州	126	0	80	28	234
計	297	228	200	157	882

注) 学年不明の9人を除外する。

2. 日本語学習に対する意識

日本語の学習目的について、全体では「就職に有利だから」が最も多く74.1%を占め、次いで「専門知識を身につけるため」52.2%、「日本人と交流するため」46.8%となっている。各学年とも「就職に有利だから」が最も多く、1年生が69.0%、2年生が77.2%、3年生が77.8%、4年生が74.5%である。学年別に見られる特徴として、1年生は「趣味だから」と「日本のドラマや歌を聞いて分かるため」が二番目に多く、どちらも47.5%となっており、「日本語は重要な言葉だから」の41.1%と「面白そうだから」の25.9%も上級生より際立って高い割合を示している。これは、1年生にとって日本語や日本文化に対する興味が日本語学習を始める動機になっているからであると言える。

また2年生以上では、「専門知識を身につけるため」が2年生50.9%、3年生59.6%、4年生58.0%と各学年とも半数を超えており、「能力試験合格のため」も2年生28.1%、3年生26.8%、4年生31.8%となり、1年生の12.1%に比して高い。これらには、2年生以上の各学年で7割を超える「就職に有利だから」という回答にも見られるように、高学年の日本語に対する技能面の実利性を重視する傾向が伺える。

表3 学年別にみた日本語学習目的 (%)

項 目	学 年				全 体
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
1. 単位取得のため	14.5	35.1	38.4	39.5	29.7
2. 進学のため	14.5	39.0	24.2	28.7	25.6
3. 専門知識を身につけるため	45.1	50.9	59.6	58.0	52.2
4. 就職に有利だから	69.0	77.2	77.8	74.5	74.1
5. 日本語は重要な言葉だから	41.1	14.5	10.6	8.9	21.6
6. 日本文化を理解するため	44.8	42.5	34.3	33.8	39.9
7. 日本が好きだから	15.2	21.1	19.2	10.2	16.7
8. 面白そうだから	25.9	13.6	13.6	14.6	18.0
9. 簡単そうだから	3.0	2.6	2.5	1.9	2.6
10. 日本へ行くため	26.6	36.8	24.7	26.8	28.9
11. 能力試験合格のため	12.1	28.1	26.8	31.8	23.1
12. スピーチコンテストで受賞するため	0.3	3.5	1.0	1.9	1.6
13. 趣味だから	47.5	26.8	28.3	22.9	33.4
14. 日本人と交流するため	40.4	57.5	45.5	45.2	46.8
15. 日本のドラマや歌を聞いて分かるため	47.5	33.3	29.8	29.9	36.7

次に、学びたい日本の知識を尋ねたところ、全体と2年生以上ではともに「日本企業・日本的経営」が最も多く、全体が58.6%、2年生が60.2%、3年生が56.0%、4年生が61.1%であった。これに対して1年生で最も多いのは「日本語学」の76.4%であり、日本語学習に対する期待の高さが表れている。全体では「礼儀・マナー」の56.4%や「日本人の考え方」の51.8%等が顕著で、最も多い「日本企業・日本的経営」と並んで現代日本人の行動習

慣や思考方式に対する関心が高いと言える。

また、ここでも1年生の「娯楽（アニメ・ゲームなど）」の60.5%、「芸能（映画・テレビ・歌手など）」の58.1%、「流行・ファッション」の54.1%等が際立ち、他の学年に比べて日本の若者文化に強い興味を示していることが分かる。

「日中関係」については、全体が54.9%、1年生が55.1%、2年生が58.4%、3年生が51.5%、4年生が54.1%といずれも5割を超え、全学年を通して日中関係に対して常に関心を持ち、社会情勢や政治動向に注目していることが伺える。

表4 学年別にみた学びたい日本の知識（%）

項 目	学 年				全 体
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	
1. 日本語学	76.4	23.0	21.0	15.9	39.2
2. 伝統文化	51.7	40.7	48.5	37.6	45.6
3. 文学作品	40.5	32.3	31.0	42.7	36.6
4. 古代の歴史	27.0	20.8	21.0	20.4	22.9
5. 近代の歴史	22.3	19.5	19.5	13.4	19.3
6. 最近のニュース	27.7	25.7	36.0	35.7	30.5
7. 経済動向	53.0	41.6	43.5	45.9	46.6
8. 科学技術	34.1	29.2	29.5	25.5	30.3
9. 日本企業・日本的経営	57.8	60.2	56.0	61.1	58.6
10. 歴史上の人物	21.6	19.0	23.5	17.8	20.7
11. 現在の有名人	20.9	21.7	20.0	8.9	18.8
12. 青年の日常生活	52.4	42.0	46.0	42.0	46.4
13. 日中関係	55.1	58.4	51.5	54.1	54.9
14. 地理・環境	25.7	25.7	26.0	22.9	25.3
15. 生活様式	42.2	58.0	50.0	36.3	47.0
16. 芸能(映画・テレビ・歌手など)	58.1	34.5	39.5	26.8	42.2
17. 憲法	5.7	5.3	4.5	6.4	5.5
18. 政治	18.6	15.5	14.0	10.8	15.4
19. 流行・ファッション	54.1	51.3	48.5	42.7	50.1
20. 教育制度	15.9	16.4	12.5	11.5	14.4
21. 観光地(名所旧跡など)	53.7	42.0	49.5	46.5	48.5
22. 礼儀・マナー	64.9	50.9	55.5	49.7	56.4
23. 日本人の考え方	47.0	58.0	56.0	46.5	51.8
24. 娯楽(アニメ・ゲームなど)	60.5	41.6	47.5	42.0	49.4

3. 日本・日本人への関心

ここでは日本語専攻の学生が持つ関心の傾向を具体的に調べるため、知っている日本人と日本事情を以下の項目の中から選び、「知っている」ものに○を、「よく知っている」ものに◎を記入してもらった。項目は日本人 36 人、日本事情 16 件とした。

知っている日本人

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ・赤川次郎 | ・芥川龍之介 | ・安倍晋三 | ・大江健三郎 | ・岡村寧次 |
| ・香川照之 | ・上川隆也 | ・唐沢寿明 | ・川喜多長政 | ・木村拓哉 |
| ・小泉純一郎 | ・倅田來未 | ・小林多喜二 | ・酒井法子 | ・鈴木保奈美 |
| ・高倉健 | ・田中角栄 | ・田中耕一 | ・手塚治虫 | ・東条英機 |
| ・中田英寿 | ・中野良子 | ・夏目漱石 | ・浜崎あゆみ | ・福沢諭吉 |
| ・福田康夫 | ・福原愛 | ・松井岩根 | ・宮崎滔天 | ・宮崎駿 |
| ・村上春樹 | ・森鴎外 | ・森村誠一 | ・矢野浩二 | ・山口百恵 |
| ・湯川秀樹 | | | | |

知っている日本事情⁽³⁾

- | | | | |
|------------|----------|----------|----------|
| ・秋篠宮悠仁親王誕生 | ・お台場 | ・おたく | ・北朝鮮拉致問題 |
| ・京都議定書 | ・クールビズ | ・憲法第 9 条 | ・小泉構造改革 |
| ・自由民主党、民主党 | ・耐震偽装問題 | ・対中国 ODA | ・フリーター |
| ・漫画喫茶 | ・薬害エイズ訴訟 | ・USJ | ・ライブドア事件 |

「知っている」との回答には名前を聞いたことがあるという程度も含まれるので、ここでは「よく知っている」と答えたものだけを抽出し、回答が多かった順に日本人は 10 位まで、日本事情は 7 位まで集計した。

表 5 の「知っている日本人」を見ると、各学年とも現在の総理大臣に対する認知度が高く、調査当時の総理大臣であった「安倍晋三」の他、「小泉純一郎」が全体で 54.5% と最も多く、その動向に注目していたことが分かる。またアニメ映画の巨匠「宮崎駿」や歌姫「浜崎あゆみ」、キムタクこと「木村拓哉」らも上位を占め、日本の芸能への関心の高さが表れている。その一方で「東条英機」や「田中角栄」といった日中の歴史における主要な人物や、「山口百恵」に見られる昔の日本映画等の影響もいまだに続いている。このように学生の関心が政治や歴史、芸能に向いているという傾向は、彼らが学びたいと思う日本の知識についての調査結果と重なると言える。

また、「夏目漱石」と「芥川龍之介」が 3、4 年生の高学年によく知られている背景には、日本語の教科書の影響があると思われる。日本の近現代作家の作品は高学年の教科書に登場することが多く、事実、調査した大学で使われている教科書『新大学日本語』には夏目漱石の「吾輩は猫である」と芥川龍之介の「蜘蛛の糸」が収録されている⁽⁴⁾。

表 6 の「知っている日本事情」では、どの学年も上位に「京都議定書」「漫画喫茶」「おたく」「フリーター」の項目が挙がっている。これらは時事ニュースや現代日本事情として授業の中で取り上げられやすい事柄であるためと思われる。

表5 学年別にみた知っている日本人

1 年生 (%)	2 年生 (%)	3 年生 (%)	4 年生 (%)	全 体 (%)
1 小泉純一郎 59.0	1 宮崎駿 65.4	1 宮崎駿 55.7	1 小泉純一郎 60.0	1 小泉純一郎 54.5
2 安倍晋三 43.2	2 小泉純一郎 51.4	2 小泉純一郎 48.5	2 安倍晋三 60.0	2 宮崎駿 53.8
3 宮崎駿 41.7	3 浜崎あゆみ 51.4	3 木村拓哉 47.4	3 木村拓哉 57.5	3 安倍晋三 46.2
東条英機 41.7	4 安倍晋三 43.8	4 浜崎あゆみ 42.3	4 宮崎駿 56.3	4 木村拓哉 43.0
5 浜崎あゆみ 36.7	5 木村拓哉 44.9	5 安倍晋三 41.2	5 夏目漱石 50.0	5 浜崎あゆみ 41.3
村上春樹 36.7	6 東条英機 38.3	6 東条英機 34.0	6 芥川龍之介 40.0	6 東条英機 37.6
7 木村拓哉 30.2	7 酒井法子 29.0	7 夏目漱石 33.0	7 村上春樹 37.5	7 村上春樹 35.9
8 田中角栄 18.0	8 福田康夫 36.2	8 村上春樹 32.0	8 浜崎あゆみ 36.3	8 夏目漱石 25.1
9 酒井法子 15.8	山口百恵 36.2	9 酒井法子 27.8	9 東条英機 35.0	9 酒井法子 24.6
高倉健 15.8	10 中田英寿 20.6	10 田中角栄 23.7	10 酒井法子 31.3	10 山口百恵 20.0

表6 学年別にみた知っている日本事情

1 年生 (%)	2 年生 (%)	3 年生 (%)	4 年生 (%)	全 体 (%)
1 京都議定書 53.7	1 京都議定書 36.2	1 おたく 45.6	1 北朝鮮拉致問題 47.8	1 京都議定書 37.6
2 漫画喫茶 32.8	2 漫画喫茶 29.8	2 漫画喫茶 40.4	2 フリーター 39.1	2 漫画喫茶 32.1
3 おたく 19.4	3 おたく 23.4	3 北朝鮮拉致問題 38.6	3 京都議定書 32.6	3 おたく 25.7
4 フリーター 14.9	4 自由民主党・民主党 19.1	4 京都議定書 24.6	4 漫画喫茶 23.9	4 北朝鮮拉致問題 23.9
5 自由民主党・民主党 9.0	5 フリーター 17.0	5 憲法第9条 22.8	5 憲法第9条 23.9	5 フリーター 22.5
6 お台場 7.5	6 お台場 14.9	6 フリーター 21.1	6 自由民主党・民主党 21.7	6 自由民主党・民主党 16.1
秋篠宮悠仁親王誕生 7.5	7 小泉構造改革 12.8	7 自由民主党・民主党 17.5	7 お台場 21.7	7 憲法第9条 13.8

さらに、授業以外で日本について調べたことの有無を尋ねたところ、全体で70%以上、2, 3, 4年生の各学年で80%以上、一番少なかった1年生でも60%近くが「ある」と答えた(図1)。何を使って調べたかを尋ねると、各学年とも圧倒的に多いのは「インターネット」であり、全回答者896人のうち約半数にあたる487人がこれを挙げている(図2)。次に多いのが「日本のビデオや映画」を挙げた415人と「本(中国で出版されたもの)」を挙げた350人であった。その他、「日本のラジオやテレビ番組」と「中国の新聞や雑誌」を挙げる人も多い。全体的に見ると、映画やテレビ等の映像メディアは日本で制作されたものを見て、本や新聞・雑誌等の刊行物は中国で出版されたものを読んでいるようである。またインターネットの使用が極めて多いことから、インターネット上の情報による影響を受けやすく、その影響は非常に大きいと見るべきであろう。したがって、日本語専攻といえども情報収集に関しては一般の人と差がないと思われる。

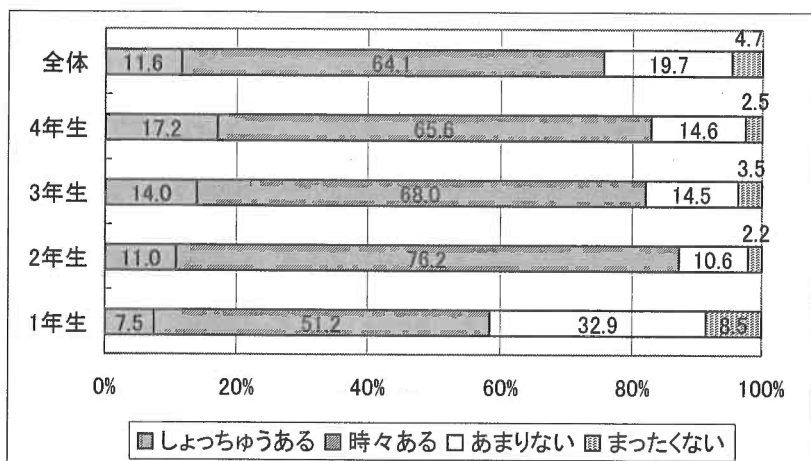


図1 学年別にみた授業以外で日本について調べたことの有無 (%)

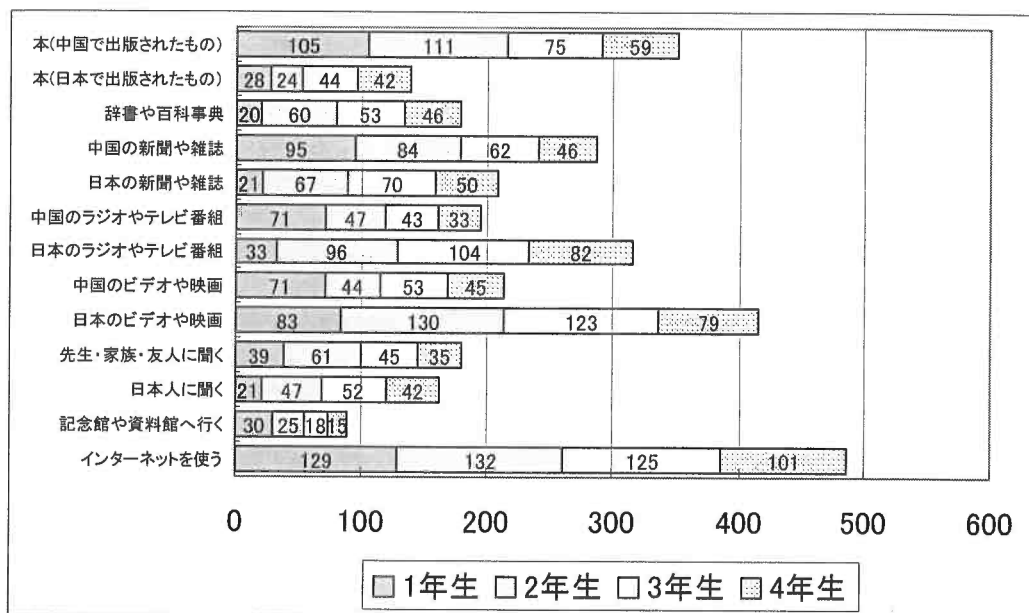


図2 日本について調べる際に何を使ったか (回答数)

4. 学生の意識や関心に対する日本語学習の影響

まず、日本語・日本・日本人のそれぞれに対する好感度を尋ねた(図3, 4, 5)。

「日本語」に対する好感度では、どの学年も「非常に好き」と「ある程度好き」を合わせて「好き」と答えた人が7割を超えている。とくに学習期間が1年に達した2年生は90.7%を占め、最も高い好感度を示した。3年生と4年生の「好き」という回答はそれぞれ85.4%と84.7%であり、2年生に比して「好き」という人がわずかに少なくなっている。学習開始直後の1年生については、「好き」という回答が他学年より少ない71.9%であるが、「どちらでもない」が24.7%と他学年を大きく上回って多いことから、学習期間が短くてまだ分から

ないと感じている学生が多いと考えられる。

「日本」に対する好感度では、「好き」という回答が2年生で最も多い63.0%となり、3年生は62.0%、4年生は61.9%である。一方、「好き」という回答が2年生以上の各学年とも5割を超えているのに対し、1年生は48.0%に留まっている。

「日本人」に対する好感度では、「非常に好き」という回答の占める割合が1年生1.7%、2年生1.8%、3年生3.0%、4年生3.2%であり、「日本語」「日本」に対する好感度に比べてどの学年でも極めて低い割合となっている。「非常に好き」と「ある程度好き」を合わせた「好き」という回答を見ても、1年生18.6%、2年生51.8%、3年生55.0%、そして4年生では50.3%となり、これは2、3年生よりも若干少なくなっている。

この質問に付け加えて「日本人の知り合いがいるか」と尋ねたところ、「いる」と回答した人においても「好き」という回答が50.0%、「非常に好き」という回答はわずか3.6%しかなかった(図6)。

以上から、「日本語」「日本」「日本人」のいずれに対しても概ね2、3年生で好感度が上昇し、4年生で若干下がる傾向が見られる。また、日本人との接触は一見好感度の上昇に貢献するように思われるが、実際は必ずしも好感度を上げるとは限らないということも、この結果から言えるであろう。

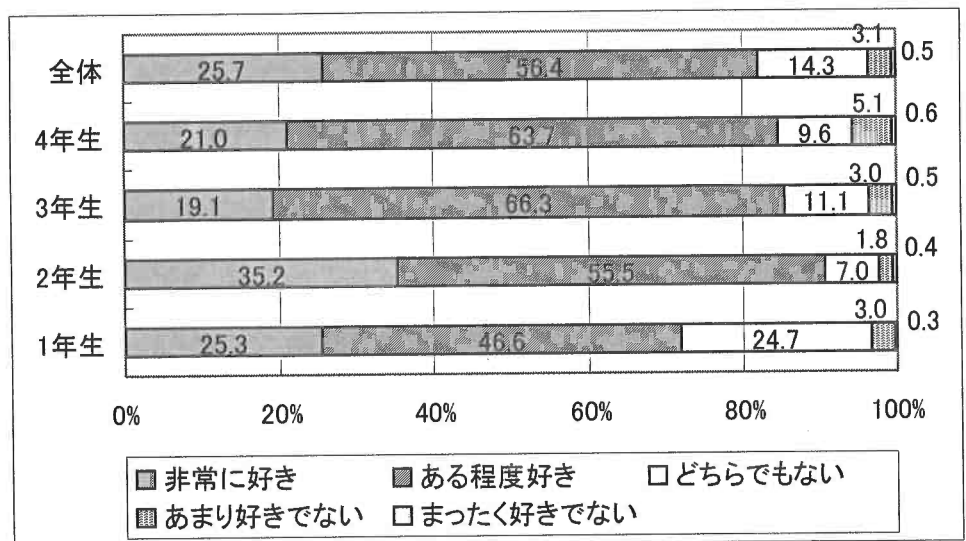


図3 学年別にみた「日本語」に対する好感度 (%)

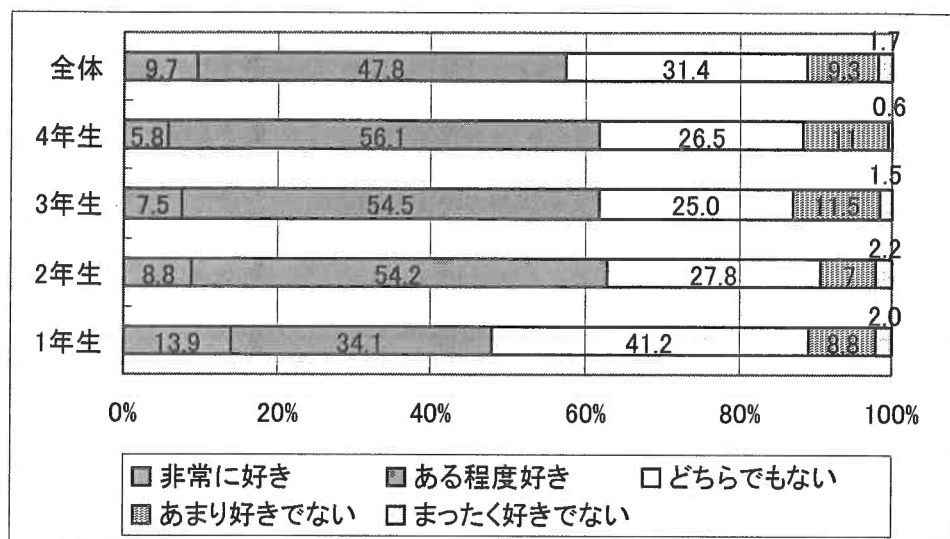


図4 学年別にみた「日本」に対する好感度 (%)

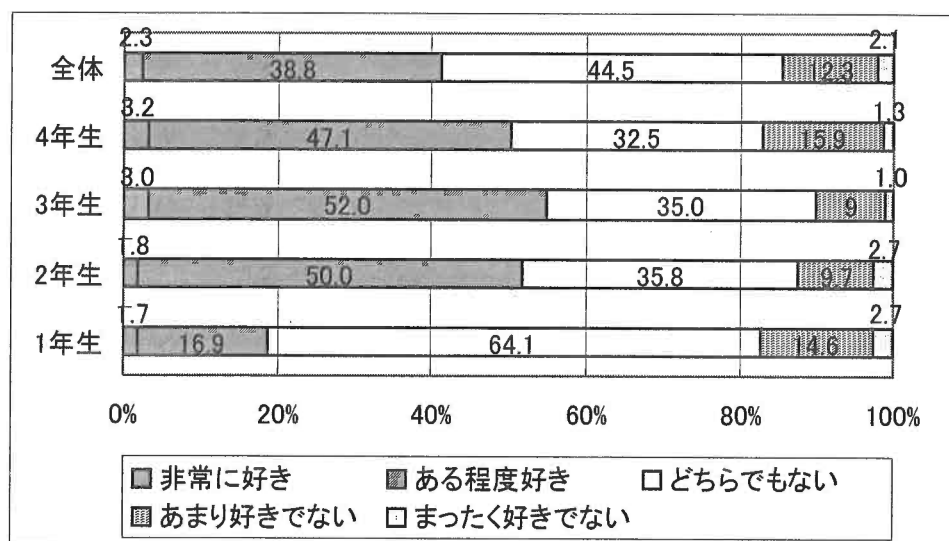


図5 学年別にみた「日本人」に対する好感度 (%)

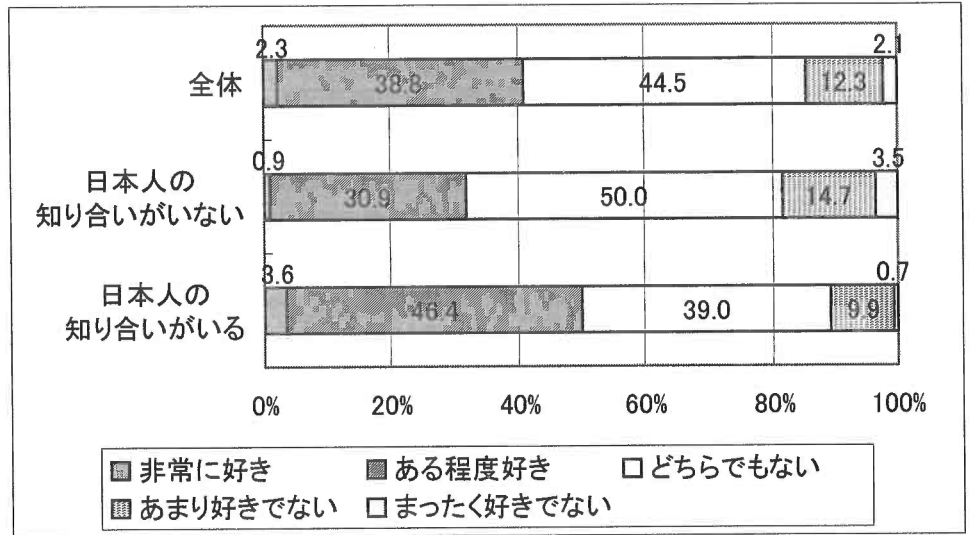


図6 日本人の知り合いの有無による「日本人」に対する好感度（％）

次に、2年生以上の学生に対して「日本語学習の前後で日本語・日本・日本人に対するイメージが変化したか」を尋ね、併せてその理由を自由記述の形で答えてもらった。図7を見ると、「非常に変わった」または「ある程度変わった」と答えた人が圧倒的に多いことが分かる。全体と各学年のいずれも「変わった」という回答は90％前後を占める。「変わった」と答えた人の理由の中で、「日本・日本人に対する理解が深くなった」という意見が各学年とも最も多かった。2年生で次に多いのが「日本や日本人のイメージが改善された」といった好感度の上昇を挙げる意見であった。3、4年生では「現在の日本は自分の思った日本とまったく違うということに驚いた」(3年生)等の見方や認識が変化したことを述べる意見が多く見られた。その他、「勉強する前は、日本が中国を侵したことしか知らなかった」(3年生)、「以前は歴史のせいで日本人が好きではなかったが、日本人の先生と長い間交流したから、考えがある程度変わった」(3年生)、「以前はそう思わなかったが、日本国民は平和を愛していると思う」(4年生)というように自身の歴史認識を交えて回答しているものもあった。

その一方で、イメージが「非常に変わった」と回答した人の中にも上のようなプラスイメージではなく、たとえば「日本人ははっきり言わない」(4年生)や「日本の文化や歴史などをよく知るようになったが、中国を害したことは忘れられない」(4年生)等、日本人に対するマイナスイメージを挙げるものや依然として変わらない歴史認識を持ち続けているという意見も見られた。とくに高学年においてこれらの回答が見られることは、長期間日本語を学習し、直接日本人と交流した経験があっても、学習以前の日本や日本人に対するイメージをなかなか払拭できないことを示していると言える。また、この調査を実施した年の4年生における好感度が2、3年生よりも低くなっているという特徴も現れており、これには4年生に当たる学生にとって多感な時期に日中間の事件や出来事が衝撃的なニュースとして伝わり、彼らの対日意識に影響したとも考えられる。この点については、今後さらに検討する必要がある。

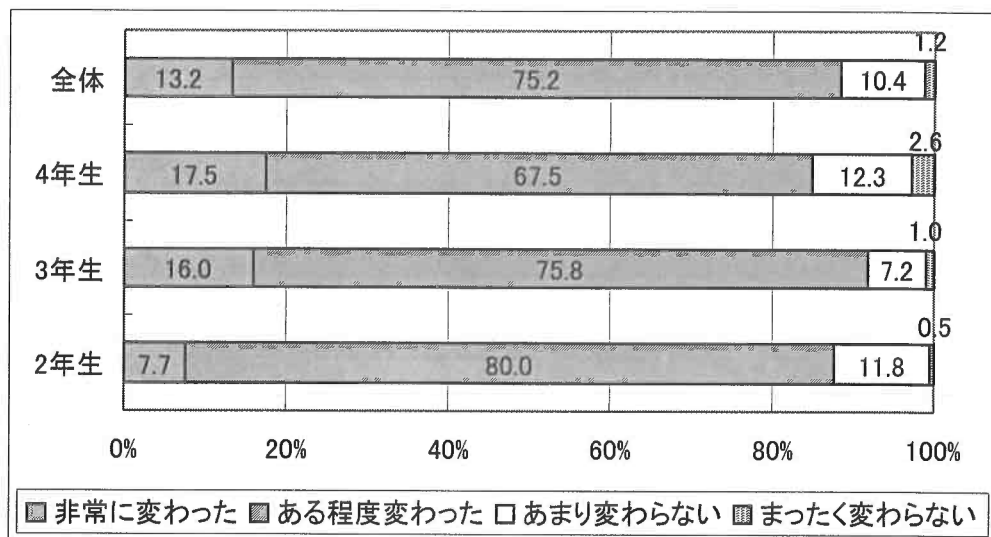


図7 学年別にみた学習前後の日本語・日本・日本人に対するイメージの変化 (%)

おわりに

以上の日本語学習調査と対日意識調査に対する分析と考察により、日本語専攻で学ぶ学生の日本語と日本・日本人に対する意識について、以下の傾向が指摘できる。

1. 日本語学習については、1年生の日本語や日本文化に対する興味・趣味といったものが学習の動機になっており、学年が上がるにつれて将来の就職等を考えて日本語の技能面における実利性を重視するようになっていく。したがって、実際のコミュニケーション場面で必要となる現代日本人の行動習慣や思考方式に対する関心が高くなり、同時に現在の日中関係にも常に注目している様子が伺える。
2. 学生の興味・関心は日本の政治や芸能に向いており、よく知っている日本人についてもその関心の方向がよく表れている。一方で、日本人作家や最近の日本の社会現象に対する認知度が高くなるという傾向には、明らかに日本語学習の影響が認められる。また、約半数の学生がインターネットを利用しているという点では、情報収集の方法において一般の人と差がないと言える。今後、日本語専攻の学生におけるインターネット以外の日本語学習による影響を見極めていくことが必要である。
3. 学生の好感度は、高い方から順に「日本語」>「日本」>「日本人」となる。「日本人」に対する好感度は非常に低いだけでなく、日本人との交流が好感度を上げることに貢献するとは限らないということも明らかになった。全体的に、学習が進んで知識が増える2, 3年生は好感度が上昇するが、4年生はそれよりも若干下がる。また、約9割の学生が日本語学習による対日イメージの変化を自覚している。そして、変化の理由に日本や日本人に対する深い理解や新たな認識を挙げる人が多い中、日本人に対するマイナスイメージや学習以前と変わらない歴史認識を持ち続ける高学年の学生がいることから、日本語学習の経験があってもこれらのイメージや認識はなかなか変えられないという事実も明らかになった。

今後の課題としては、学年ごとに学生がこれまでの成長する過程で見聞きした日中関連二

ユース等による対日意識に対する影響について検討することと、学生の持つ対日意識と実際の授業や教科書の内容との関連性をさらに検討することを挙げる。

〈注〉

- (1)中国の大学で日本語を学ぶ学生は、外国語学部等の日本語専攻に所属する学生と、日本語非専攻で選択科目の第1外国語あるいは第2外国語として日本語を学ぶ学生とに分けられる。日本語非専攻とは日本語専攻以外の英語専攻や理工系を指す。
- (2)調査票は日本語版と中国語版を用意し、入学直後の1年生には中国語版を、2年生以上には日本語版を配布した。
- (3)項目の中で「お台場」「おたく」「北朝鮮拉致問題」「京都議定書」「クールビズ」「対中国ODA」「フリーター」「漫画喫茶」「葉害エイズ訴訟」「USJ」「ライブドア事件」には、中国語による訳あるいは短い説明を付けた。
- (4)「吾輩は猫である」は2年生後期用教科書『新大学日本語 第四冊』の第18課課文に、「蜘蛛の糸」は2年生前期用教科書『新大学日本語 第三冊』の第16課課文に収録されている。

〈参考文献〉

- (1)伊月知子(2008)「中国の高等教育日本語専攻用教科書『大学日語』と『新大学日本語』 —教科書の比較から日本語教育の変容を探る—」『愛媛大学国際交流センター報』2, 11－21, 愛媛大学国際交流センター
- (2)教育部高等学校外語專業教学指導委員会日語組編(2001)『高等院校日語專業基礎階段教学大綱』大連理工大学出版社
- (3)国際交流基金日本語国際センター(2007)2006年海外日本語教育機関調査結果 日本語教育国別情報 中国 (<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2007-2008/china.html>) (2009年1月)
- (4)宿久高・周異夫(2007)「日本語教育の中の文学と文化—中国における日本語教育の現状と課題—」『日本語教育』133, 28－32, 日本語教育学会

謝辞

本研究の調査にご協力くださった大連外国語学院日本語学院、中国人民大学、済南大学、そして浙江工商大学の先生方および学生の皆様に心より感謝致します。

柑橘類の多面的利用に関する研究 ～製菓素材としての検討～

Study on a Possible Application of Citrus Fruits to Sweets

武 田 秀 敏

はじめに

橘本（きつもと）神社（和歌山県海南市下津町）は、菓子之神様、田道間守（たじまもり）を祭っている。奈良時代、田道間守は天皇の命により不老長寿の靈果を探し求めて中国に渡り、持ち帰ったのが「橘」（脚注参照）でこれを当地に植えたのが神社の由来になっている¹⁾。上代（飛鳥～奈良時代）の頃、果実や木の実を久多毛能（くだもの）と呼びおやつ代わりにしていたところから、菓子のはじまりは果物であったことがわかる。ちなみに、果物はフルーツで通じるが古風な言い方をすれば水菓子となる。

フルーツは今日でも製菓材料として重要な位置を占め、特に冷菓には欠かせない。柑橘類についてみると、その栽培地域が世界に広く分布していることから製菓への利用も盛んで、特にオレンジピール（果皮の砂糖漬け）は洋菓子に盛んに用いられている。ちなみに日本で柑橘類を使った歴史ある菓子は“夏みかんの丸漬け”（有限会社 光国本店、萩市、大正5年発売）や、プンタンを砂糖漬けにして単独に製品に仕上げた“ボンタンアメ”（セイカ食品株式会社、鹿児島市、大正15年発売）等がある。

愛媛県は和歌山県と共にミカン生産において双璧をなす程に柑橘栽培の盛んな県であるが、これを使った製菓はあまり見かけない。製菓は生食用やジュース、缶詰等、既存の加工食品に比べて一般に付加価値が高く、柑橘利用菓子が観光資源に恵まれる本県の定番菓子に成長すれば、生産者のみならず製菓関連産業の活性化にも繋がる。このような視点から、ここでは主に温州ミカン、伊予カン、ポンカン、ネーブルの製菓材料としての利用を検討した。その結果、これらの一次加工品を調整した後、それを組み込んだ製菓をいくつか創出したので報告しておきたい。

[[脚注] ここでの「橘」はタチバナであるともダイダイであるとも小ミカン（ヤツシロミカン）であるとも言われ、定かではない。温州ミカンの起源は田中長三郎²⁾の文献調査および現地調査によれば、鹿児島県長島（現鹿児島県出水郡長島町）が原生地とされる。1936年に当地で推定樹齢300年の古木（太平洋戦争中に枯死）が発見されたことからこの説で疑いないとされるようになった。発見された木は接ぎ木されており、最初の原木は400～500年前に発生したと推察される。中国から伝わった柑橘の中から突然変異して生まれたとされ、親は明らかではないが、近年のゲノム解析の結果クネンボと構造が似ているとの研究がある³⁾。

柑橘類をめぐる一次加工品の状況

海外ではオレンジパルプ(繊維質を含む果汁, ピューレとも称する), オレンジペーストといった一次加工品が流通している. 国内において, トマトについてはこれら一次加工品の農林規格があり, トマトピューレやペーストは入手できるがオレンジピューレやオレンジペーストは見ることがない. 2004年に愛媛県でミカンピューレを利用した「みかん食パン」(いろは屋, 愛媛県松山市)が発売され, 徐々に普及しているというが, “ミカン王国” 愛媛県においてすらミカンピューレの加工業者は見つからなかったという⁴⁾. ミカンの加工利用, とりわけ製菓素材としての利用が拡大するには, 製菓業者が利用しやすい各種の一次加工品の普及・流通が求められている.

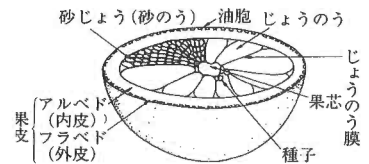
製菓材料に用いた一次加工品の調製

1 果皮の一次加工

(1) 搾り下ろし果皮

(処理工程) 果実洗浄→搾り下ろし→冷凍保存

収穫後の果実を洗浄後, おろし金で表面の果皮を研削して組織片を得た. これを味噌漉しに通し, 粒子の均一な組織片を密封容器に入れて用時まで冷凍保存 (-18℃) した.



[図1]

(2) 柑橘ピール(果皮の砂糖漬け)

(処理工程) 洗浄・剥皮→果皮のカット→1%塩酸浸漬(脱苦味処理)→煮熟→ビン詰→冷却

レモン, イヨカン, ポンカン, ネーブルを水洗浄した後, 果皮を包丁で剥皮, これを2mm角ほどのみじん切りにした(以後果皮切片). 柑橘類の苦味成分であるナリンジンは, 配糖体であり希塩酸で容易に加水分解されて苦味が消失する⁵⁾. この目的で, みじん切り果皮を45℃の0.8%塩酸に20分間浸漬した. この後, 塩酸の除去を目的に40℃の温水に30分晒し, 次に果皮切片と同量の果汁と, 果皮と果汁を合わせた重量の7割に相当する砂糖を加えて加熱し, 煮つめ液の糖度が70%に達したら火を止め, 直ちに煮沸殺菌したビンに詰め込んで密封した. ビンは, まず熱水に漬け, 次いで水道水を注いで徐々に冷却して人肌ぐらいで取り出し, 自然放冷により乾燥させた.



[図2]

(3) ペクチンの抽出利用

(処理工程) 剥皮→果皮の1%塩酸浸漬→水洗浄→熱水抽出→ろ過→ろ液の回収

柑橘類のペクチンは果肉より, 果皮及びじょうのう膜



[図3]

に多く含まれ、希塩酸に浸漬すると可溶化しやすくなる⁶⁾。そこで、果皮の厚い晩柑類（ここではイヨカン）の果皮を40℃の1%塩酸に20分浸漬した。浸漬液をきり、果皮を水洗して塩酸を除去した後、1.5倍量の熱水を加えて10分ほど煮沸し、熱いうちにステンレス網で漉し、網の目が200メッシュのもので再度漉して清澄なペクチン液を得た。ここで得られたペクチン液は、ミカンジャムやミカンナパージュ（艶出しジャム）の調製に用いた。

2 果肉の一次加工

(1) 果肉のコンポート

〈処理工程〉①（じょうのうタイプ）洗浄・剥皮→じょうのう分離→酸・アルカリ処理（じょうのう膜除去）→水晒し→蜜漬け→ビン詰→殺菌→冷却 ②（砂のうタイプ）洗浄・剥皮→じょうのう分離→じょうのう膜除去→水晒し→攪拌（砂のう分離）→蜜漬け→ビン詰→殺菌→冷却

（じょうのうタイプ）果肉コンポートの加工に向く柑橘は、じょうのう（図1）を分離しやすいものがよく（温州ミカン、イヨカン、ポンカンなど）、これを一個ずつに分離した後、定法⁷⁾により希塩酸・希苛性ソーダ液に順次浸漬してペクチンからなるじょうのう膜を溶解・剥離した（図2～4）。じょうのうと、これの重量の半分量に相当する30%ショ糖溶液をビンに詰め、蒸し器に入れてビンの中心温度が95℃に達して5分間保持した後、濡らした軍手を着けて速やかにピンを密封し、次いで前述の通り冷却した。通常、生の果肉糖度は10%前後であるが、開封時の製品糖度は23%前後であった。これを本稿ではじょうのうタイプ、すなわちじょうのうの形態を保持した柑橘コンポート（シロップ漬け）とする。

（砂のうタイプ）砂のうタイプを調製する場合には、水晒しのときにホイッパー等で強くかき混ぜてじょうのうをほぐし、砂のうに分離した（図5、6）。この後は水をきり、じょうのうコンポートと同様に処理した。なお、開封して果肉を取り出した後のシロップは、糖度30%になるように屈折糖度計で確認しながらショ糖を追加して再利用した。



じょうのう膜除去
ポンカン

〔図4〕



〔図5〕



〔図6〕

(2) 柑橘パルプ（ピューレ）

〈処理工程〉洗浄・剥皮→じょうのう分離→じょうのう破砕・裏漉し→通過物の回収

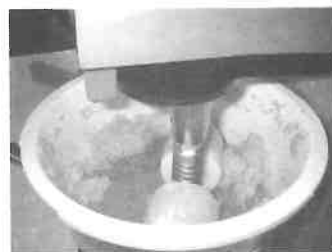
果実類及び果菜類のパルプ（ピューレ）は、果実を砕いて裏ごしし、果皮及び種子を除去したものを指す。果肉の繊維質を含みドロドロしているので果泥と表記する場合もある。図7には、裏ごし装置を使ってパルプを分離している様子を示した。

3 果肉と果皮ペクチンの利用

(1) 耐熱ミカンジャム

〈処理工程〉ミカンパルプ+ペクチン抽出液+砂糖+耐熱ペクチン→加熱濃縮→ビン詰→冷却

ミカンジャムは、通常の柑橘マーマレードの製造法⁶⁾に準じるが、果皮切片を加えずに加熱濃縮した。また、ここでは焼き菓子に使用してもだれないように、耐熱性ペクチン（大日本住友製菓株式会社より恵与）を製品重量の2%添加した。



〔図7〕

(2) ミカンナパージュ（艶出しジャム）

〈処理工程〉材料混合→加熱濃縮→ビン詰→冷却

ナパージュは菓子表面の艶出しや保護のために塗るもので、アプリコットで作る清澄なナパージュ・ヌートルや赤スグリで作るナパージュ・ルージュが知られている。ここでは、柑橘の豊富なペクチンと清澄濃縮果汁（えひめ飲料株式会社、愛媛県松山市、より恵与）の酸味を活かしてミカンの艶出しジャムを調製して用いた。具体的には、イヨカン果皮から前述のように調製したペクチン抽出液と清澄濃縮果汁を3:1（容積比）の割合で混合したものに、混合物重量の7割に相当する砂糖を加え、糖濃度65%に達するまで濃縮した。この後、前述の手順に従ってビン詰めした。

一次加工品の製菓への利用

1 柑橘ピールの利用

(1) ピール配合白あん 通常の白並あんといヨカンピールを配合比3:1の割合で混ぜて火取ったものを、“いよかん”（レシピ編29項）及び“しまなみ”（レシピ編30項）のあんに用いた。なお、しまなみの場合、これにさらに抹茶も加えて用いた。

(2) 摺り下ろし果皮 ネーブル果皮を摺り下ろし、冷凍したものを“いよかん”（レシピ編29項）のかるかん種に配合比で3%程加えた。



〔図8〕

2 ミカンパルプ（ピューレ）の利用

(1) 白生あんと等量のミカンパルプ、及び6割の砂糖を加えて火取り、ミカンあんとして“くず饅頭”に用いた。

(2) 温州ミカンのパルプといヨカンペクチン抽出液で作った耐熱性“ミカンジャム”は、折込パイ生地で作る洋菓子、ショソソ・オ・ポム（レシピ編21項）のフィリングとして、またデボジットクッキーの一種であるロシアンケーキ（レシピ編23項）のトッピングとして用いた。



〔図9〕

3 イヨカンコンポートの利用

- (1) じょうのうコンポートは、空焼きしたタルトレット（パート・ブリゼ）に入れてアパレイユ（液状クリーム）を注いだ焼き菓子に用いた（レシピ編 24 項）。
- (2) 砂のうコンポートは、カスタードクリームを詰めたタルトレットのトッピングに利用したり（レシピ集 25 項）、クッキー生地配合（図 8）した（レシピ集 22 項）。また、砂のうコンポートをカスタードクリームに配合した後、ホイップクリームと合わせて口溶けを良くし（図 9）、タルトレット（レシピ集 26 項）及びシュークリーム（レシピ集 30 項）のフィリング（詰め物）にも用いた。

考 察

柑橘を利用した菓子として、国内では果皮（ピール）の砂糖漬け、果汁及び果肉のゼリー菓子、あるいは寒天ゲルを利用したミカン羊羹ないし外郎などが出回っている。他に缶詰にしたじょうのうを使ったフルーツロールもよく知られている。また、砂のうに分離して粒状にした飲料やゼリーはあるが、これを利用したペストリーは日常あまり見かけない。一方、柑橘類の製菓レシピ集も二・三出版されているが^{9, 10)}、果肉の利用に関してはアップルパイのように切片を直接焼き菓子に利用する程度で、これを高次加工して利用する試みはない。柑橘類は、じょうのう膜を簡単に除去できないことに加え、多汁質で保存性の悪いことが、多面的な利用を妨げている一因と考えられる。

本研究ではこの問題を改善する方法としてまず、果肉をじょうのう及び砂のうのコンポート（蜜漬け）に一次加工した後、これを焼き菓子の素材に組み込むことを試みた。次に、果肉パルプとペクチン抽出液だけでジャムを調製し、焼き菓子に利用することを試みた。オレンジマーマレードは、果皮切片を加えて製品に若干の苦味を持たせるのが特徴であるが、製菓材料において苦味はむしろ邪魔になる。果皮を含まないミカンジャムにすることで、水分活性の低下による保存性の向上と同時に、焼き菓子としての嗜好の広がり期待できる。

また本研究では、白あんにイヨカンピールを加えた製菓も試みた。和菓子に用いるあんは一般にフシの無い均質な滑らかさが求められる。また、茶に供する場合、香りは一般に控え目のものが求められる。「かるかん饅頭」の製法を応用した“いよかん”は、フシになるピールを敢えてあんに加えたものであり、また和洋折衷菓子「シベリア」をイメージした“しまなみ”では、ピールのフシと抹茶の香りを付与した。調製法により柔らかなピールを作るとも可能であり、あんと調和させることは十分可能と考えられ、機会あるごとに提案したい。

本稿に掲載したレシピのいくつかは、しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会が平成21年2月9日、今治市伯方町で開催した「柑橘類を利用したお菓子づくり」講習会で実習指導した。今後、地域の産直市場等での出店並びに評価が待たれる。

謝 辞

柑橘類の試料をご提供頂いたしまなみグリーン・ツーリズム推進協議会、高野京子氏ならびに愛媛県東予地方局産業経済部今治支局地域農業室しまなみ農業指導班、篠原一恵氏に誌面を借りて厚くお礼を申し上げます。

要 旨

柑橘類の製菓への利用を拡大するために、よく知られているピールの砂糖漬けの他に、イヨカンのじょうのう及び砂のうからコンポートを、ミカンパルプからジャム等の一次加工品をまず調製し、次いでペストリーのフィリングやトッピングとして製菓への二次利用を試みた。その結果、(1) ピールは色彩や風味の面で和菓子の種及び白あんとよく馴染むこと。(2) ミカンパルプは耐熱ジャムに仕上げるによりクッキーのトッピングやパイのフィリングとして有望なこと。(3) 砂のうのコンポートは乳クリームやカスタードクリームに混ぜることにより多様な利用が可能なが分かった。

Two types of orange compote from segments and granulated segments, orange jam from pulp and orange peel were processed from few kinds of Japanese citrus and applied to Western pastries and Japanese confections in order to find their intended use as sweet ingredients. Custard cream containing the compote from granulated segments was found to be useful as fillings of pies, tartlets and cream puff and toppings of Russian cake. While the orange peel from IYOKAN was applicable as flavor and accessory when it was incorporated into An of Japanese confections. From these trials it is suggested that Japanese citrus were available stuff of sweets when they were processed into peel, compote or jam and jarred for long-term storage.

Key words: Japanese citrus, Japanese confections, Western sweets, Orange compote, Orange jam. Orange peel.

参考文献

- 1 みかんあれこれ http://www.mint-j.com/fruit/03/3_15.htm, 2009.1月現在
- 2 田中長三郎,『温州蜜柑譜(A Monograph of the Satsuma Orange)』台北帝国大学,1932年
- 3 御前明良,「紀州有田みかんの起源と発達史」,経済理論,292号,97-118,和歌山大学,1992年
- 4 J-Net21 中小企業ビジネス支援サイト 愛媛ミカンを活用したギャバ入り食パン, <http://j-net21.smrj.go.jp/expand/shigen/jirei/irohaya.html> 2009/01/10現在.
- 5 近末 貢編「図解食品の貯蔵・加工」p130, 医歯薬出版, 1983
- 6 綾野雄幸・岩尾裕之「改定食品の加工と貯蔵」p126, 第一出版, 1980
- 7 食品製造研究会編「図解やさしい食品加工」p93, 農業図書, 1993
- 8 浅利喬泰編「食品加工実習」p26, 樹村房, 1983
- 9 福田里香「オレンジとレモンのお菓子 CITRUS BOOK」文化出版局 1996
- 10 柳瀬久美子「オレンジ, レモン&グレープフルーツのお菓子」雄鶏社 2000

参考資料

- 1 相原一吉 「もっと知りたいお菓子作りのなぜ?がわかる本」文化出版局 (2008)
- 2 堀 正幸 「和菓子教本」日本菓子教育センター (2005)
- 3 日本菓子教育センター教科書部会洋菓子編集委員会「洋菓子教本」日本菓子教育センター(2005)
- 4 中城裕美 「和菓子入門」主婦と生活社(2006)
- 5 渡部長男他「製菓事典」朝倉書店 (1985)

製菓レシピもくじ

洋菓子

1	ミカンジャム入り折込みパイ (ショソン・オ・ボム)	21
2	ミカンの粒入りクッキー (ラング・ド・シャー)	22
3	ミカンジャムのロシアンケーキ.....	23
4	イヨカンのタルト (じょうのうスタイル)	24
5	イヨカンのタルト (砂のうスタイル)	25
6	イヨカンのタルト (砂のう入りカスタード)	26
7	イヨカンのシュークリーム (砂のう入りカスタード)	27

和菓子

1	ミカンあんのくず饅頭.....	28
2	“いよかん” (イヨカンピール入りかるかん饅頭)	29
3	“しまなみ” (イヨカンピール入り抹茶あんのシベリア)	30

菓子名 ミカンジャム入り折込みパイ〈ショソソ・オ・ポム〉

原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
パイ生地	20 個分/8 cm φ	635 g(100%)	・卓上ケーキミキサー ・抜き型(直径8 cm) 1 個 ・めん棒 ・絞り袋(10cm 丸口金) ・ハケ ・冷蔵庫(生地の冷却用)
強力粉	130 g	20	準備
薄力粉	130 g	20	
塩	5 g	0.1	1 小麦粉はフランスパン専用粉が望ましいが無い場合は強力粉と薄力粉の等量混合物でもよい。 2 冷やしたバターは、サイの目(約2cm)切りしておく。 3 食塩は冷水に溶かしておく。 4 オープンは上下とも200℃に予熱
冷水	140 g	22	
バター	230 g	36	
ミカンジャム(注1)	300 g		
注1 本文(16 項)参照	適量		
シロップ			
(砂糖1:水1)			

〔作り方〕

〈折込みパイ生地(ラピッド法)〉

- 1) ケーキミキサーに篩通した小麦粉とサイの目状に切った冷却バター、食塩を溶かした水を入れてミキシング(バター粒が小さく分らなくなる程度まで)。
- 2) パイ生地を取り出してまとめ、ラップでくるんで冷蔵庫で1時間ねかせる。
- 3) 打ち粉をした台に広げ、めん棒で叩いて長方形に伸ばしたら三つ折りにする。再度長方形に伸ばしては三つ折りにする操作を計3 回行う(途中、生地温度が人肌近くに上昇してきたら冷凍庫に入れて冷却する)。
- 4) 3mm 厚に伸ばしたパイ生地から8 cm φの円形抜き型で生地を分割し、各々を更に楕円型に軽く延ばす。
- 5) 楕円生地の半分に10～15gのミカンジャムを山形に載せる(絞り袋に詰めて行う)。
- 6) 生地の縁を水で濡らした後、二つ折りにして縁同士をお押し合わせてジャムを完全に包む。
- 7) (5)を裏返してオープンプレートに移し、半円に見える生地にナイフで浅く葉脈状の模様を入れ、中央部にナイフを突き刺してピケ(空気抜き)を入れる。
- 8) 200℃に予熱したオープンで約15 分焼く。

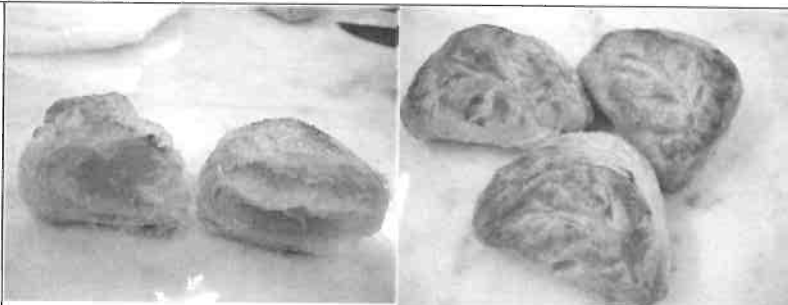
〈仕上げ〉

表面が色よく焼き上がったらオープンから出し、直ぐにシロップを塗り、網にのせて放冷する(パイの熱でシロップの水分が蒸発し、表面に艶が出る)。

〔留意点等〕

1 折込みパイ生地は、バターの融点(26℃～35℃)以下の温度で作業を進めること。生地温度が上がってきたら、冷凍庫で暫く冷却してから再び作業を行う。

2 捏ね生地を暫く休ませると(30～60 分)、水分の浸透が均一になって弾力が低下し、延ばしやすくなる(手打ちうどんの必須行程)。



折込みパイは、バターが可塑性を保つ温度範囲(13～18℃)で生地を調製することが求められる。

菓子名 ミカンの粒入りクッキー (ラング・ド・シャー)

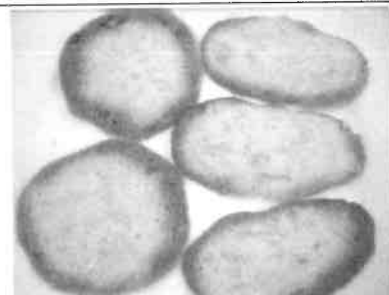
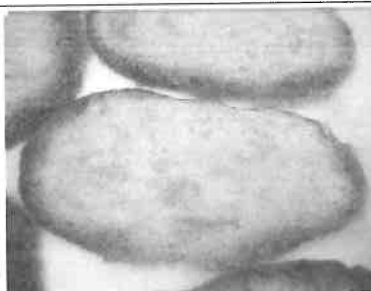
原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
パイ生地	約 30 枚分	252 g (100%)	・ 卓上ケーキミキサー ・ 絞り袋 (7～8 mm の丸口金) ・ オープンシート
バター	60 g	24	準 備 1 バターは室温に戻し柔らかくしておく。 2 オープンを 120℃前後に温めておく 注 1 砂のうコンポートの製造方法は、本文 16 項参照
粉砂糖	50 g	20	
塩	1 g	0.1	
卵白	50 g	20	
薄力粉	50 g	20	
砂のうコンポート (注 1)	40 g	16	

[作り方]

- 1) ケーキミキサーに柔らかくしたバターを入れ、かき混ぜながら半量の砂糖を数回に分けて加える (練り込みパイ生地と同じ要領)。
- 2) 残りの砂糖と分量の卵白でしっかりしたメレンゲを作り、(1)に混ぜる。
- 3) 篩い通した小麦粉を入れ、粉が見えなくなるまで木べらでなじませる (容器の底を湯煎で温めながら行う)。
- 4) 分量の砂のうコンポートを(3)に加えて混ぜる。
- 5) 絞り袋に(4)を詰め、フッ素樹脂加工したクッキングシートを敷いた天板に絞る。
- 6) 120℃前後に予熱したオープンに入れ、バターが融けて広がってきたらオープンの温度を 180℃前後まで上げる。
- 7) 焼き上がったら、パレットナイフで剥がし取り板の上で冷ます(すのこ状の網に置くと曲がる)。

[留意点等]

1 この菓子の製造上の特徴は、オープンの温度を最初低温 (120～130℃) にして油脂をゆっくり融解させ、生地がゆるんで薄く広がったら 170～180℃で焼くところにある。この操作により、薄くパリッと焼き上がる。続けて焼く場合でも、一度温度を下げてから行う。



生地の絞り方により、いろいろな形にすることができる。ラング・ド・シャ (仏語で猫の舌) は、製法上練り込みパイの一種と見ることができる。

菓子名 ミカンジャムのロシアンケーキ

原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
デボジットクッキー	約 20 個分	228g (100%)	・卓上ケーキミキサー
小麦粉(薄力)	100 g	44	・絞り袋三種(ドーナツ口金, 細口, ジャム用)
グラニュー糖	52 g	23	・冷蔵庫(生地 of 冷却用)
全卵	20 g	8.8	準 備
ショートニング	30 g	13	1 オープンは予熱(180℃)しておく.
バター	20 g	8.8	2 全卵は割りほぐして分量を取り, 塩を溶かしておく.
転化糖	5 g	2.2	注 1 調整法は本文参照
食塩	1 g	0.4	
バニラオイル	適量		
ミカンジャム(注 1)			

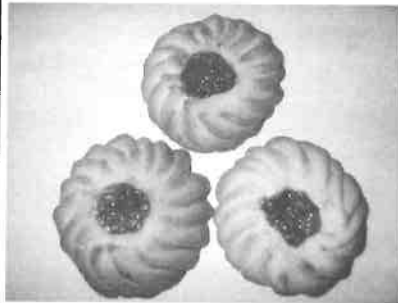
[作り方]

〈クッキー生地〉

- 1) 室温に戻したバターとショートニング, 砂糖, 転化糖をケーキミキサーに入れてよくかき混ぜる.
- 2) 攪拌しながら卵を少量ずつ加え, 最後にバニラエッセンスを適量加える.
- 3) 小麦粉を入れて均質になったら, 絞り袋に詰めてオープンシートを敷いた天板に間隔を空けて絞る.
- 4) ドーナツ状 of 中央部に別の細い口金で生地を薄く絞った後, その上にジャムを絞る.
- 5) 予熱したオープンに入れ 180℃, 10~15 分焼成する.
- 6) 熱いうちにスノコに移して放冷.

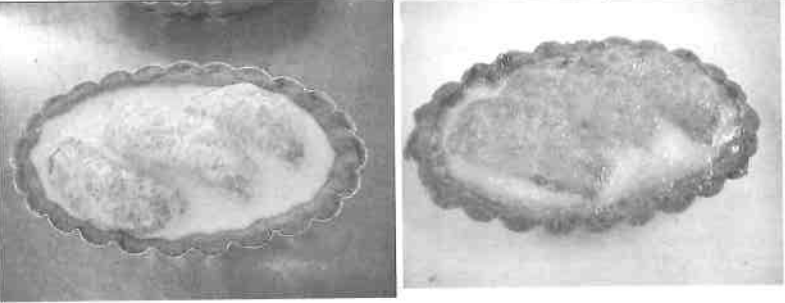
[留意点等]

1 オープンを 200℃に予熱しておくこと. これをしないと, 焼成途中に生地がだれてしまう. ソフトドビスケットは, 固形油脂のクリーミング性(砂糖と攪拌すると空気を抱き込む性質)を活かした製菓. 油脂と砂糖を攪拌後, 卵を加えて攪拌し, 均一な w/o 型の乳化クリームを作るのがコツ.



ケーキ生地のように軟らかく調整した生地を, 絞り出して成形し焼成する. ドーナツ状に絞り出される口金をはめ, 絞り終えたら天板に口金を押しつけて回しながら生地をちぎると, 回転模様の入ったリングに成形できる. トッピングのミカンジャムは, 耐熱ペクチンを利用するとオープン加熱でも流出が起こらない.

菓子名 イヨカンのタルトー (じょうのうスタイル)

原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
<u>練り込みパイ生地</u>	12 個分/8cm φ	447g(100%)	・卓上ケーキミキサー ・抜き型 (直径8cm) ・めん棒 ・ハケ ・タルトストーン (小豆で代用) ・打ち粉
バター	125 g	28	
塩	2 g	0.4	準 備
水	50 g	11	
卵黄	20 g	4	1 バターは冷蔵して硬くしておく。 2 塩は親指とひとさし指でひとつまみが約1～2 g。 3 薄力粉はふるっておく。 4 空焼きの時は、タルトストーンを入れて焼く。米、小豆、大豆などでも代用可 注1 じょうのうコンポートの作り方は本文(16項)参照 注2 ミカンジャム (本文16項参照)
薄力粉	250 g	56	
打ち粉	適量		
<u>液状クリーム</u>		540g (100%)	
全卵	100 g	20	
砂糖	40 g	7	
生クリーム	400ml	73	
<u>じょうのうコンポート(注1)</u>	40 個		
<u>艶出しジャム(注2)</u>			
[作り方] (練り込みパイ生地 (パートブリゼ)) 1) ケーキミキサーに小麦粉とサイの目状に切った冷却バターを入れてミキシング (バター粒が小さく分散してサラサラになるまで)。 2) 水に卵黄と食塩を加えて解きほぐし、(1)に加える。 3) そぼろ状にまとまってくるまでミキシング。 4) 台に取って延ばし、半分に切って重ね合わせて押さえる操作を数回繰り返してひとつにまとめる。 5) (4)をビニール袋にくるんで冷蔵庫で30分以上休ませる。 以後は、パートシュークレ同様にして空焼きタルトを作っておく。 (液状クリーム) 1) 全卵をボールにほぐし入れ、砂糖、塩を加えて混ぜ、溶けたら裏ごしする。 2) (1)に生クリームを入れて混ぜ合わせる。 (組み立て) 空焼きタルトに、コンポートにしたイヨカンのじょうのうを3個入れ、次いで(2)を流し入れて180℃で35～40分焼く。 (仕上げ) 熱いうちに型から外し、冷めたら艶だしジャムをハケで塗る。			
[留意点等] 捏ねて直ぐの生地は弾力があり、無理に延ばして焼くと縮んでしまう。グルテンの弾性が弱まり、延ばしやすくなるまで冷蔵庫で休ませる (30～60分、前日につくっておいでも良い)。			
 パートブリゼは砂糖を加えないパイで、型に敷いて空焼きした後、汁気の多い中身を焼くのに適する。			

菓子名 イヨカンのタルトー（砂のうスタイル）

原材料名	配合量(g)／班	配合比 (%)	器具・装置等
<u>練り込みパイ生地</u>	12 個／8cm φ	547 g(100%)	・卓上ケーキミキサー ・抜き型（直径 8 cm） ・めん棒 ・ハケ ・絞り袋 ・茶こし ・冷凍庫（生地の冷却用）
薄力粉	250 g	46	準備
粉砂糖	100 g	18	
塩	2 g	0.4	1 オープンを余熱(上火 180℃, 下火 150℃) 2 薄力粉は予め篩い通し. 3 バターを室温に戻しておく(砂糖入り練り込みパイのバター温度は、可塑性のある温度範囲, 13～18℃が望ましい) 注1 砂のうコンポートの作り方は本文(15 項) 参照 注2 つや出しジャムの作り方は本文(16 項)を参照
全卵	50 g	9	
卵黄	20 g	4	
バター	125 g	23	
<u>カスタードクリーム</u>		206g (100%)	
牛乳	125 g	61	
卵黄	30 g	15	
グラニュー糖	38 g	18	
薄力粉	7 g	3	
バター	6 g	3	
キルシュ	6 g	3	
バニラのさや	1/2 本		
<u>砂のうコンポート(注1)</u>	200 g		
<u>艶出しジャム(注2)</u>	適量		

【作り方】

〈練り込みパイ生地（パートシュクレ）〉

- 1) 柔らかくしたバターに粉砂糖、塩を加えてミキシング（軽く合わせる程度で空気を含ませない）。
- 2) 全卵と卵黄をときほぐして(1)に加え、油脂と卵の水分が乳化状態になるまでミキシングを続ける。
- 3) 薄力粉を加え、粉が見えなくなるまで混ぜ合わせる。
- 4) 台に取り出し、手のひらですりあわせる。
- 5) ひとつにまとめたら、ラップをして冷蔵庫で 30 分以上休ませる。以後は前項のパートブリゼ同様に処理。

〈カスタードクリーム〉

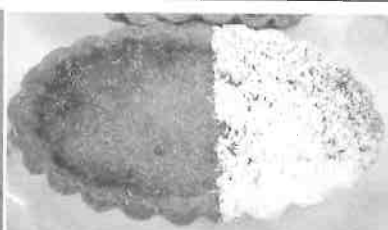
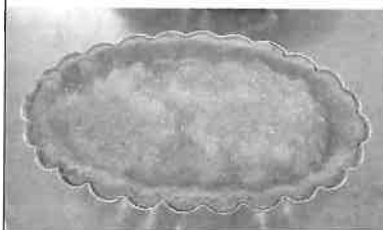
カスタードクリーム（16 項参照）を調製し、火から下ろしてバターを混ぜ終えたらバットに広げて粗熱を取る。

〈組み立て〉

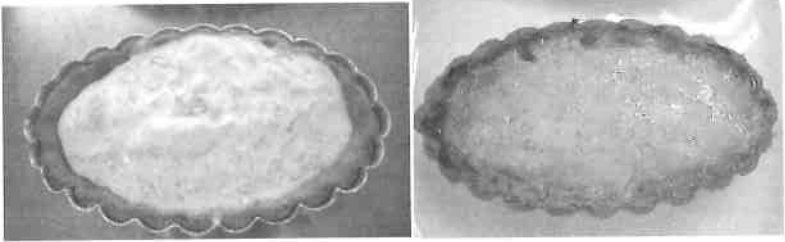
- 1) カスタードクリームを加熱して滑らかに戻し、キルシュを混ぜたら絞り袋に詰め、空焼きタルトに容積の 1/2 量ほど絞り出す。
- 2) 汁気を除いた砂のうコンポートをタルトレットにトッピングし、180℃で約 15 分焼く。
- 3) 熱いうちに型を外して放冷。〈仕上げ〉表面の半分に艶出しジャムを塗り、残りの半分に粉砂糖を振る。

【留意点等】

- 1 タルト生地を型に敷き込んだらフォークで底にピケをする。
- 2 粉砂糖を振る前に、定規などでタルトの半分を隠しておくと、粉砂糖が掛からない。



菓子名 イヨカンのタルト (砂のう入りカスタード)

原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
練り込みパイ生地	12 個/8cm φ		・卓上ケーキミキサー
前項の通り	前項の通り	前項の通り	・抜き型 (直径 8 cm)
カスタードクリーム	125 g	206g (100%)	・めん棒 ・ハケ
牛乳	30 g	61	・冷凍庫 (生地の冷却用)
卵黄	38 g	15	準 備
グラニュー糖	7 g	18	1 オープンを予熱 (上火 180℃, 下火 150℃)
薄力粉	6 g	3	注1 砂のうコンポートの作り方は本文 (15 項) を参照.
バター	6 g	3	注2 艶出しジャムの作り方は本文 (16 項) を参照
キルシュ	1/2 本	3	
バニラのさや	適量		
生クリーム(乳脂肪 48%)	100 g		
砂のうコンポート(注1)	200 g		
艶出しジャム (注2)			
[作り方] 〈練り込みパイ生地(パートシュクレ)〉 イヨカントルト (砂のうスタイル) で用いたタルトと同様にして生地を調製し、空焼きしておく。 〈カスタードクリーム〉 1) バニラビーンズを縦に裂き、種をかきとって鍋の牛乳にさやごと入れ、沸騰する手前まであたためる。 2) 容器に卵黄とグラニュー糖を入れてほぐし、白っぽくもったりするまでホイッパーでしっかりと混ぜる。 3) 小麦粉を加えて静かに混ぜ合わせる。 4) 温めた牛乳の 1/3 量程度を少量ずつ加えてなじませ、残りを一度に加えて混ぜ合わせる。 5) (4)を漉しながら元の鍋に戻す。ここでバニラのさやは取り除く。 6) (5)の鍋をやや強めの中火で再び火にかけ、ホイッパーで絶えず混ぜながら炊き上げる。 7) 火から下ろしてバターを混ぜ終えたら、鍋を冷水にあてて粗熱をとる。 〈ホイップクリーム〉 ボールを氷水にあて、生クリームと砂糖を入れて攪拌し、角の先が柔らかく曲がる状態まで泡立てる。 〈組み立て〉 1) 室温に戻ったカスタードクリームにキルシュと、砂のうコンポートを加えて混ぜる。 2) (1)をスプーンに取り、空焼きタルトに詰める。 3) 180℃で約 15 分焼く。熱いうちに型を外して放冷。 〈仕上げ〉表面に艶出しジャムを塗る。			
[留意点等] タルトの底にフォークでピケをしてから空焼きすると、底が盛り上がるのを防げる。バターでまとまっている生地なので温度が上がると軟らかくなり操作しにくい。冷やして固さを調節する。		 砂のうコンポートには、ネーブルが色、香りの点で優れている。	

菓子名 イヨカンのシュークリーム (砂のう入りカスタード)

原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
シュー生地	25 個/4cm φ	521g(100%)	・卓上ケーキミキサー
薄力粉	120 g	23	・絞り袋 (生地用; 13mm φ の丸口金, クリーム用; 10mm φ の 8 切れ星型口金)
塩	1 g	0.2	・デッキオープン
水	200ml	38	
バター	90 g	17	準 備
全卵	約 200 g(4 個分)	38	1 薄力粉はふるっておく.
塗り玉子	適量		2 バターは室温に戻しておく.
カスタードクリーム※	200 g		3 鶏卵は解きほぐして人肌位まで温めておく (加えたとき生地が冷めないように).
生クリーム※	100 g		4 天板 1 枚に収まる量, バターを塗るか, クッキングシートを敷いておく.
イヨカンコンポート※	200 g		5 オープンの予熱 (上火 200℃, 下火 200℃), 排気口は閉めて焼く.
※前項の要領で調製したカスタードクリームに, ホイップしたクリームと砂のうコンポートを合わせる.			
[作り方]			
〈シュー生地〉			
1) 鍋に水, 塩, バターを入れて沸騰するまで加熱したら火を止める.			
2) 薄力粉を(1)に一度に加えて木べらで素早くかき混ぜ, 均質で滑らかな糊状になるまで更に力強くかき混ぜる.			
3) (2)の鍋を火にかけ, 焦がさないように勢いよくかき混ぜながら生地に火を通し小麦デンプンを完全に糊化させる (触ってもべとつかず, 鍋底に薄い膜ができるようになるまで).			
4) 生地をケーキミキサーのボールに移し, 解きほぐした全卵を加えて粘りがでるまでしっかり混ぜ合わせる (卵は全量を一度に加えず, 加える量で生地の固さを調節する).			
5) 生地を絞り袋に詰めたら, 袋を天板上に垂直に立て一点に丸く円形 (約 4cm φ) に絞り出していく.			
6) 塗り卵にひたしたフォークで上部を格子状に押さえて模様を付け, 同時に高さをそろえる.			
7) 200℃に予熱したオープンで約 25 分焼く (浮き始める最初の 15 分, オープンを開けないように注意する).			
〈カスタードクリーム〉			
イヨカントルトー (砂のう入りカスタードクリームの利用 1) (16 項) と同じ要領で, ホイップクリームとイヨカンの砂のうコンポートを含むカスタードクリームを調製.			
〈組み立て〉			
焼き上がったシューが室温に戻ったら, 高さの 2/3 位の上部に切り目を入れ, 砂のう入りカスタードクリームをたっぷり絞る. 〈仕上げ〉粉砂糖を茶こしに入れて, シューに振る.			
[留意点等]			
シュー生地は糊化した小麦デンプンが皮膜となって蒸気を閉じ込めて膨らむ. それ故, 小麦粉のデンプンを完全に糊化させてよくかき混ぜ, 伸びの良いシュー生地を作ることが大事になる.			
 			

菓子名 ミカンあんのくず饅頭

原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
くず種	20 個分(30g/個)	600 g(100%)	・ ラップ ・ 輪ゴム ・ 大きめのおちょこ
くず粉	70 g	12	
水	70 g	12	準備
上白糖	160 g	26	
熱湯	300 g	50	1 ミカンあんは、白生あんにミカン果汁を加えて均一に混ぜ、硬めの並あんを作る要領で砂糖を加えて火取る。粗熱をとり、30gのあん玉にする。 注1 調整法は本文(15項)参照
ミカンあん		600g (100%)	
白生あん	200 g	33	
ミカンパルプ (ピューレ注1)	200 g	33	
上白糖	200 g	33	

[作り方]

〈ミカンあん〉

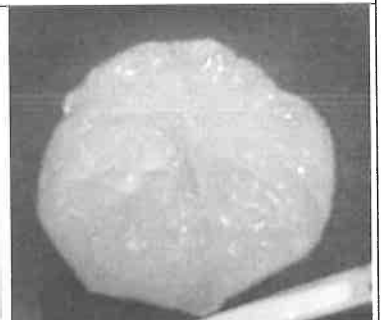
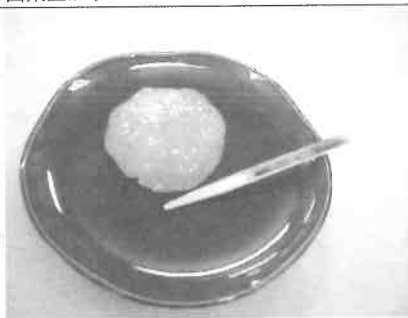
- 1) 分量のミカンパルプをぼうず鍋に入れ火にかけながら砂糖を加えて溶かす。
- 2) 白生あんを加えて火取る。
- 3) あん玉を作れるようになるまで火取ったら、鍋を冷水に当てて粗熱を取る。
- 4) 15gのあん玉にして並べておく。

〈くず種〉

- 1) くず粉を鍋に取り、分量の水を入れて解きほぐす。
- 2) 鍋を火にかけて鍋をかき混ぜながら砂糖を加える。
- 3) 白くべとついてきたら火をとめ、ラップを敷いた大きめのおちょこにスプーンで等量ずつ落とし入れていく。
- 4) ミカンあん玉をくず種にかくれるように軽く押し込む。
- 5) ラップの四方を持って種を包み、漏れ出さないようにねじりながら輪ゴムで止める。
- 6) 熱湯で10分ほど茹で、透明になったら冷水に漬けて冷やす。
- 7) ラップを静かにはがして出来上がり。

[留意点等]

糊化したくず種は、放置すると固くなって作業しにくくなるので、湯せんで保温しながら包あん作業を行う。できあがってから長い間放置しておくと、デンプンが老化して透明感が失われるので、早く賞味するようにする。



くず饅頭は、くずデンプンが糊化したときの透明感を活かした夏の和菓子。オレンジ色を表現するために、白生あんにミカンパルプを加えて火取ったあんを、くず種で包んで清涼感を表現した。

菓子名 “いよかん” (イヨカンピール入りかるかん饅頭)

原材料名	配合量(g)／班	配合比 (%)	器具・装置等
<u>かるかん種</u>	15個分	325g (100%)	・蒸し器
ヤマモ粉 (注1)	20 g	6.2	・ディッシャーか絞り袋, 口金
上新粉	75 g	23	・かるかん椀,
卵白	30 g	9.2	・氷水 (蒸し上がった椀ごと冷却)
柑橘果皮 (準備参照)	10 g	3.1	準 備
砂糖	80 g (種用)	25	1 柑橘果皮 (ネーブルなど) は, 摺り下ろし篩って粒度を揃えて使う.
砂糖	30 g (メレンゲ用)	9.2	2 卵白は 30 g の砂糖を加えて硬めのメレンゲを作っておく.
水	80 g	25	3 白生あんはで並あんを作り, これに柑橘ピールを混ぜ合わせておく. 放冷の後, 15 g の扁平なあん玉にして並べておく.
<u>あん</u>		300g (100%)	5 蒸し始めたら, かるかん椀の冷却水を用意しておく (角バットに冷水を張る)
白生あん	150 g	50	注1 生ヤマモ粉の約 70 g に相当.
砂糖	75 g	25	注2 柑橘ピールは, 本文 (16 項) に記した要領で調製.
水	50 ml	25	
柑橘ピール (注2)	75 g		

[作り方]

〈かるかん種〉

- 1) ヤマモ粉は, 砂糖と混ぜ合わせた後, 分量の水を少量ずつ加えてよく泡立てる.
- 2) (1)に予め調製したメレンゲの全量を加える.
- 3) (2)に摺り下ろした柑橘の果皮 (ネーブルなど香りの強いもの) と上新粉を順次加えて混ぜ合わせる.
- 4) (3)の種をディッシャーですくい取り, かるかん椀に等量ずつ盛りつける.

〈ピール配合白あん〉

- 1) 分量の水をぼうず鍋に取り, 加熱しながら砂糖を加えて溶けたら生あんを入れる.
- 2) 力強くかき混ぜながら, あん玉になる位まで火取る.
- 5) 分量のピールを加えて均一に混ぜたら, 鍋ごと冷水にあてて粗熱をとる.
- 6) 扁平なあん玉を作っかるかん椀の種に載せ, ティースプーンの背で押しつけてあん玉を隠す.
- 7) (6)を蒸し器に並べ, 露取りをして弱火で5分ほど蒸したら, 強火でさらに10分程蒸す.
- 8) 蒸し上がったら, 直ちに椀を冷却水に漬けて粗熱を取る.
- 9) フィルムをのせた手のひらに椀を打ち付けて中身を取り出す.

[留意点等]

- 1 ヤマモ粉は予め砂糖と混ぜ合わせておくと, 玉になりにくい.
- 2 蒸し初めは, 弱火. 初めから強火で蒸すと皮がひび割れるので気をつける.



かるかん (ヤマモで浮かした饅頭, 鹿児島県の定番菓子) を応用した伊予のかるかん. 種にイヨカン果皮の摺り下ろしを, あんにはイヨカンピールを散らしている.

菓子名 “しまなみ” (イヨカンピール入り抹茶あんのシベリア)

原材料名	配合量(g)/班	配合比 (%)	器具・装置等
スポンジ生地	36×51cm	980 g(100%)	・卓上ケーキミキサー ・オープン, 4枚取り天板1枚 ・スパークル
全 卵	400 g	40	
グラニュー糖	250 g	26	
薄力粉	250 g	26	
バター	80 g	8	
しまなみあん		980 g (100%)	
白生あん	500 g	51	1 バターは溶かしておく.
上白糖	250 g	26	2 薄力粉は篩い通ししておく.
イヨカンピール (注1)	100 g	10	3 生クリームは容器を冷却水で冷やしな がら, 硬めにホイップして使う.
抹茶	30 g	3	注1 イヨカンピールの作り方は本文(16 項), 柑橘ピールの製造法に従う.
生クリーム	100 g	10	
水	約 50 ml	5	

[作り方]

〈しまなみあん〉

- 鍋に 50ml 程の水を入れ, これに砂糖の半量を加えて加熱し, 溶けたら生白あんを入れる.
- 残りの砂糖を入れてさらに加熱, 火取り加減がよければ抹茶とイヨカンピールを順に加えて混ぜ合わせ, 火を止める.
- 鍋ごと冷却水に浸して冷やし, 人肌までに冷めたらホイップしたクリームを加えてよく混ぜあわせる.

〈スポンジ生地〉

- ケーキミキサーに分量の全卵と砂糖を入れ, 40℃になるまで湯煎で温めながら卵を割りほぐす.
- ケーキミキサーで全卵を泡立て (共立法), もったりする様になったら溶かしバターを加えて混ぜる
- へらで生地を底からすくい上げながら小麦粉を振り落として混ぜ合わせる.
- 天板に硫酸紙を敷き (四隅は箱になる様に切る), 生地を流し込みスパークルで平らにならす.
- 上火 180℃, 下火 160℃のオープンで 15~25 分焼く
- オープンから取り出し粗熱が取れたら硫酸紙の面を上にして取り板に移してこれを剥がす.

〈組み立て〉

- カステラ包丁で生地を二等分し, 一方にしまなみあんをスパークルで均一に塗る.
- 残りの半分を焼き面が上になるように(1)に重ね合わせる.
- 端を切り落としたり, 好みの大きさに切り分ける.

[留意点等]

焼きむらがないように途中位置を変える. 中央を手のひらで押さえて弾力を感じたら焼き上がっている...焼き足りない場合, オープンから出すと沈み込む感じがする



大正時代に流行った大衆菓子, シベリアのイメージを膨らませたもので, 瀬戸内の 12 月を表している. 島々はミカン畑の緑色にミカンの斑点模様が一面に現れる. 柑橘ピール入り抹茶あんをスポンジ生地でサンドすることで, スポンジ生地を瀬戸内海に, しまなみを抹茶あんに見立てた.

青年期における身体意識について

—短大生男女を対象とした質問紙調査から—

寺 川 夫 央

問題と目的

青年期は思春期に始まるといわれるが、第二性徴が発現するこの時期、著しい変化を遂げる自己の身体をいかに受け止め、どのように評価し、受容していくのかは、青年期を通じての発達課題の一つとなる。身体を受容を規定するものとして、身体への満足感を挙げることができる。青年期における身体への満足感に関しては、これまでさまざまな検討がなされてきた。例えば、青年期では自己の身体への満足度に男女差がみられ、概して女子は男子より身体への不満感が強く、特に第二性徴により変化の大きい部位やサイズの満足度において男女差が大きいことが指摘されている（柴田、1987；斉藤、1993；佐藤ら、1997a；佐藤・寺川、1998）。また、青年期の男女とも身体への不満感が高い者は、自己の性における性役割意識の現実と理想のずれが大きくなっていること、青年中期以降、女性であることを否定している者は受容している者より、身体への不満度が高いことが示唆されてきた（佐藤ら、1996；寺川、1996）。

自己の身体をどう評価するかは、身近な大人や友達ばかりでなく、その背景にあるより大きな社会の価値に左右される。特に、現代における「痩せ志向」は、身体意識に多大な影響を与えている。佐藤・寺川（1995）は、青年期の女子では、8割以上に痩せ願望があり、身体満足度が低いほど自己の身体を太っていると認知し、痩せ願望が強くなっていることを示した。さらに、佐藤ら（1997b）は、SD法による自己の身体イメージにおいて、青年期の女子は男子よりも自己の身体を太く、重いイメージしていること指摘している。また、栗岩ら（2000）によれば、女子において7歳以降は、加齢とともに痩せた体型を標準体型と認識する傾向が強くなるという。

多くの女性が常に痩せたいと願っているという事実は今や自明のことともいえる。しかし、それが客観性を伴わない痩せへの希求となり、自己の身体を実際より太ったものと認識し、標準とする体型をより痩せたものとしてしまう「身体像の歪み」をもたらし、新たな問題を引き起こしている。「身体像の歪み」が基底にあると考えられている摂食障害が、痩せを意識し始める前青年期から青年期の女子に急増し、現代における社会問題となっているのである（Bruch, H., 1987）。向井（1996）によれば、身体的発達が急激に進む思春期前期の女子では、理想の身体像と現実像のずれが大きくなり、食行動異常に結びつきやすいという。また、上長（2007）は、青年前期の男子では実際の体格が肥満傾向にある者ほど体重減少行動を行い、摂食障害傾向が高まるが、女子では、身体満足度の低さが体重減少行動・露出回避行動を高め、摂食障害傾向を助長するという構造を示した。つまり、男子では実際の体格から、女子では身体を受容感としての満足度からダイエット行動に至り、摂食障害へと結びつくことを示している。

このように青年期の身体意識については身体満足度、性役割意識、自己の性の受容、摂食障害との関連などが研究されてきたが、身体への意識が痩せ志向といった社会の価値観とも関連があるものとすれば、変動性の高い現代社会の中で、どのような変化をしていくのであろうか。佐藤・寺川（1998）は青年前期、中期、後期の男女を対象に1995年に行った調査をもとに、身体の満足感と諸要因の関連を検討しているが、それから10年以上が経過した。その後、青年期の身体意識は変化しているのだろうか。

そこで本研究では、1995年の調査と同様の質問紙調査を短期大学生に実施し、今日における青年後期における身体意識の様相を明らかにすることを目的とする。また、調査結果の考察において13年前の調査と今回調査と比較し、相違点を検討する。

方 法

調査対象および方法 短期大学に在籍する学生を対象に、質問紙調査を実施し、そのうち青年期の概念を考慮し24歳以下の回答を分析対象とした。対象者の内訳は男子26名（ライフデザイン学科12名、幼児教育学科13名、不明1名）、女子50名（ライフデザイン学科15名、幼児教育学科34名、不明1名）、計76名であった。対象者の平均年齢は男子 19.2 ± 1.70 歳、女子 19.4 ± 1.58 歳である。

調査時期 2008年7月下旬～8月上旬。

調査内容 質問紙調査の内容は、佐藤・寺川（1998）が用いたものと同様である。当時の調査は1995年7月に実施されたもので、現在との比較検討を行うことが本研究の目的の一つである。

1. **身体満足度**：Secord & Jourard（1953）によるBody Cathexis Scaleをもとに、身体部位、属性、サイズをあらわす32の項目を選んだ（Table 2参照）。各項目について、「今の自分にどのくらい満足しているか」を「たいへん満足している」「かなり満足している」「やや満足している」「どちらでもない」「やや不満である」「かなり不満である」「たいへん不満である」の7段階評定にて回答を求めた。
2. **身体関心度**：身体満足度と同一の32項目について、「今の自分の身体にどのくらい関心があるか」を「たいへん関心がある」から「まったく無関心である」までの7段階評定にて回答を求めた。
3. **SD法による自己の身体イメージ**：山口（1989）の研究を参考にし、SD法の形容詞対24項目について、「今の自分をどのようにイメージしたり、感じたりしているか」を7件法にて回答を求めた。例えば、「強い—弱い」の形容詞対では、「たいへん強い」「かなり強い」「やや強い」「どちらでもない」「やや弱い」「かなり弱い」「たいへん弱い」という7件法を用いた。佐藤・寺川（1998）の3因子別に24の形容詞対をTable 1に示す。
4. **性の受容**：現在の自分の性に生まれて良かったと思うかどうかを「とても良かったと思う」「かなり良かったと思う」「やや良かったと思う」「どちらでもない」「あまり良かったとは思わない」「ほとんど良かったとは思わない」「ぜんぜん良かったとは思わない」の7段階評定にて回答を求めた。
5. **性役割意識**：伊藤（1978）、山口（1985）の研究を参考に、男らしさ（男性性）をあらわす言葉として、行動力のある、たくましい、筋肉質の、冒険心にとんだ、勇敢な、闘

Table 1 自己の身体イメージに用いた形容詞対

第1因子 「評価」 (16項目)

良い—悪い
 *絶望的—希望的
 好きな—嫌いな
 *頼りにならない—頼りになる
 *ばらばらの—まとまった
 うれしい—かなしい
 安心した—不安な
 受け入れられた—拒否された
 美しい—みにくい
 *暗い—明るい
 満ちた—空っぽの
 役立つ—役立たない
 *劣っている—優れている
 *未熟な—成熟した
 *不潔な—清潔な
 *曲がった—まっすぐな

第2因子 「重さ」 (5項目)

太った—やせた
 *軽い—重い
 *角張った—丸みのある
 厚い—薄い
 *鋭い—鈍い

第3因子 「強さ」 (3項目)

強い—弱い
 力のある—力のない
 *もろい—じょうぶな

注：データ処理の段階では*がついた形容詞対は逆転させた数値を用いている。

争的な、の6項目、女らしさ(女性性)をあらわす言葉として、細やかな、おしゃれな、よく気のつく、かわいい、色気のある、声が高い、の6項目を選んだ。各項目について、「今の自分にどれくらいあてはまるか」(現実の男性性・女性性)、「なりたい大人にどれくらいあてはまるか」(理想の男性性・女性性)を「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」まで7段階評定にて回答を求めた。

6. 身長・体重の実際値と理想値、標準だと思ふ体重：現在の身長・体重(以下、「実際値」とする)、理想とする身長・体重(以下、「理想値」とする)、および回答者の身長に対して標準(ふつう)だと思ふ体重(以下、「標準認識値」とする)について、それぞれ具体的な数値での回答を求めた。体重の理想値では、回答者の身長がそのままである場合を想定させた。

結 果

1. 各尺度の検討

身体満足度および身体関心度については、7段階評定の回答に対して、満足度および関心度の高い方から順に7点から1点を与えた。つまり、身体満足度の平均値においては1点～4点までは「不満」、「どちらでもない」の4点をはさみ、4点～7点の範囲は「満足」を示すものとする。身体関心度の平均値においては、1点～4点までは「無関心」、「どちらでもない」の4点をはさみ、4点～7点の範囲は「関心がある」ことを示すものとする。それぞれ得点の範囲は程度の違いを示すものである。32項目の α 係数を算出したところ、満足度では $\alpha = .969$ 、関心度では $\alpha = .975$ といずれも内的整合性が高いことがわかった。そこ

で、身体満足度および身体関心度については、32項目の平均値をそれらの尺度として分析に用いることにした。

SD法による自己の身体イメージについては、佐藤・寺川(1998)による、「評価」「重さ」「強さ」の3因子について、それぞれ因子名を表現する方から順に7点から1点を与えた。各因子における妥当性を検討したところ、「評価」の因子(16項目)では $\alpha = .880$ 、「重さ」の因子(5項目)では $\alpha = .451$ 、「強さ」の因子(3項目)では $\alpha = .722$ であった。「重さ」の因子において値が低くなっていたため、項目間の相関を検討し、「鋭い—鈍い」の項目を削除し、4項目で妥当性を検討した結果、 $\alpha = .638$ と一定の整合性がみられたので、「評価」(16項目)、「重さ」(4項目)、「強さ」(3項目)の3因子を尺度として分析に用いることにした。尺度の数値は、項目の合計値をそれぞれの項目数で除した値を示す。

性の受容度については、自己の性を肯定する順に7点から1点を与えた。数値が高いほど性の受容度が高いことになる。

性役割意識については、7段階評定の回答に対し、あてはまる方から順に7点から1点を与え、「現実の男性性・女性性」(各6項目)の値から「理想とする男性性・女性性」(各6項目)の値を差し引き、合計したものを項目数で除した値を求めた。これらの値は、男性性、女性性それぞれの理想と現実のギャップを示すものと考え、値が高くなるほどギャップが大きいと解釈する。「男性性の理想—現実」は $\alpha = .837$ 、「女性性の理想—現実」は $\alpha = .749$ と高い数値が示され、これらを尺度として用いることにした。

自己の身体サイズについては、体格の指標としてBMI (Body Mass Index) を用いた。その算出式は、体重(kg) / 身長(m)²である。BMIの実際値・理想値・標準認識値は、それぞれ体重の実際値・理想値・標準認識値と現実の身長から算出した。

本質問紙調査では、各項目により、データ欠損値は除いているため、各項目および尺度ごとにデータ数が多少異なる。

2. 身体満足度・身体関心度における各項目の平均値と男女差

男女別に身体満足度32項目、身体関心度32項目の平均値と標準偏差をTable 2に示した。また、項目ごとに男女別の平均値検定を行った結果を併せてTable 2に示した。

身体満足度における全項目の平均値は、男子3.49、女子3.00であり、「どちらでもない」が4点であることを考えれば、いずれも不満を示す数値であった。項目別にみても、平均値が4以上の項目は男子における耳の4.00のみであり、男女ともに残りの項目は全て4未満であり、不満を示す数値となっていた。特に強い不満を示すと考えられる平均値が3未満の項目は、男子では腹(2.92)の1項目であったが、女子では不満の高い順に、ふともも(2.10)、腹・ヒップ(2.37)、おしり・プロポーション(2.39)、体重(2.41)、ウエスト(2.51)、ふくらはぎ(2.59)、体毛(2.71)、胴(2.73)、顔全体(2.84)、鼻(2.85)、腰(2.86)、足(2.90)、腕(2.96)の15項目であった。

身体満足度の32項目について、男女の平均値検定を行った結果、おしり・ふともも・ヒップにおいては0.1%水準、ふくらはぎでは1%水準、鼻・足・ウエストにおいては5%水準で有意な差がみられた。有意差のあった7項目のいずれにおいても女子は男子より得点が低く、不満があることが示された。また、腕・プロポーションでは傾向差が示され、女子は男子より得点が低い傾向にあった。

Table 2 身体満足度・身体関心度 32 項目の男女別平均値と平均値検定の結果

	身 体 満 足 度			身 体 関 心 度		
	男 子	女 子	平均値	男 子	女 子	平均値
	(n=25)	(n=49)	検定	(n=25)	(n=49)	検定
	平均値 (SD)	平均値 (SD)	t 値	平均値 (SD)	平均値 (SD)	t 値
1. 頭	3.60(1.63)	3.20(1.51)	n.s.	4.68(1.60)	4.14(1.38)	n.s.
2. 顔全体	3.40(1.47)	2.84(1.59)	n.s.	5.04(1.40)	4.96(1.27)	n.s.
3. 目	3.50(1.69)	3.02(1.58)	n.s.	4.76(1.54)	5.00(1.28)	n.s.
4. 鼻	3.64(1.47)	2.85(1.24)	2.41*	4.84(1.43)	4.49(1.29)	n.s.
5. 口	3.76(1.51)	3.20(1.51)	n.s.	4.76(1.39)	4.37(1.19)	n.s.
6. 耳	4.00(1.53)	3.92(1.40)	n.s.	4.80(1.41)	3.90(1.34)	2.69*
7. 歯	3.40(1.58)	3.20(1.53)	n.s.	5.00(1.47)	4.65(1.36)	n.s.
8. あご	3.72(1.40)	3.43(1.31)	n.s.	4.52(1.50)	4.24(1.30)	n.s.
9. 首	3.84(1.43)	3.53(1.23)	n.s.	4.24(1.56)	4.18(1.19)	n.s.
10. 肩	3.64(1.50)	3.43(1.35)	n.s.	4.40(1.66)	4.02(1.13)	n.s.
11. 胸	3.60(1.58)	3.10(1.50)	n.s.	4.44(1.50)	4.73(1.40)	n.s.
12. 背中	3.64(1.66)	3.20(1.22)	n.s.	4.48(1.50)	4.33(1.19)	n.s.
13. 胴	3.20(1.56)	2.73(1.34)	n.s.	4.44(1.53)	4.44(1.37)	n.s.
14. 腰	3.28(1.65)	2.86(1.51)	n.s.	4.56(1.56)	4.52(1.44)	n.s.
15. 腹	2.92(1.44)	2.37(1.30)	n.s.	4.80(1.44)	5.00(1.37)	n.s.
16. おしり	3.64(1.66)	2.39(1.20)	3.72***	4.20(1.56)	5.00(1.34)	2.30*
17. 腕	3.64(1.63)	2.96(1.37)	1.90*	4.56(1.33)	4.88(1.53)	n.s.
18. 手	3.76(1.64)	3.37(1.56)	n.s.	4.44(1.50)	4.55(1.29)	n.s.
19. ふともも	3.48(1.61)	2.10(1.16)	4.23***	4.48(1.50)	5.24(1.44)	2.13*
20. ふくらはぎ	3.64(1.68)	2.59(1.53)	2.70**	4.48(1.50)	4.98(1.45)	n.s.
21. 足	3.80(1.58)	2.90(1.60)	2.31*	4.28(1.60)	4.69(1.66)	n.s.
22. 足首	3.68(1.57)	3.42(1.66)	n.s.	4.24(1.59)	4.39(1.64)	n.s.
23. 髪の毛	3.80(1.66)	3.37(1.63)	n.s.	5.00(1.38)	5.27(1.57)	n.s.
24. 体毛	3.08(1.58)	2.71(1.37)	n.s.	4.68(1.49)	4.73(1.52)	n.s.
25. 肌の色	3.84(1.63)	3.49(1.57)	n.s.	4.40(1.50)	4.73(1.52)	n.s.
26. 皮膚	3.54(1.62)	3.22(1.56)	n.s.	4.56(1.58)	4.65(1.47)	n.s.
27. 身長	3.21(1.72)	3.35(1.36)	n.s.	4.68(1.57)	4.73(1.52)	n.s.
28. 体重	3.04(1.68)	2.41(1.50)	n.s.	4.72(1.60)	5.51(1.37)	2.20*
29. バスト(サイズ)	3.63(1.47)	3.00(1.58)	n.s.	4.21(1.59)	5.22(1.48)	2.70**
30. ウエスト(サイズ)	3.42(1.56)	2.51(1.46)	2.44*	4.50(1.53)	5.37(1.38)	2.43*
31. ヒップ(サイズ)	3.63(1.47)	2.37(1.33)	3.66***	4.50(1.53)	5.53(1.24)	3.08**
32. プロポーション	3.08(1.67)	2.39(1.50)	1.80*	4.67(1.61)	5.53(1.31)	2.46*
全項目平均	3.49(1.31)	3.00(0.93)	n.s.	4.60(1.25)	4.71(1.00)	n.s.

注：項目ごとに欠損値データは除いており、各項目により n は若干異なる。* $p < .10$ ** $p < .05$ *** $p < .01$ **** $p < .001$

身体関心度における全項目の平均値は、男子 4.60、女子 4.71 であり、「どちらでもない」が 4 点であることから、いずれも関心があることを示す数値であった。項目別にみても、平均値が 4 以下の項目は女子における耳の 3.90 のみであり、男女ともに残りの項目は全て 4 以上であり、関心があることを示す数値となっていた。特に関心があると考えられる平均値 5 以上の項目は、関心の高い順に、男子では顔全体 (5.04)、歯・髪の毛 (5.00) の 3 項目であり、女子ではヒップ・プロポーション (5.53)、体重 (5.51)、ウエスト (5.37)、髪の毛

(5.27)、ふともも(5.24)、バスト(5.22)、顔全体・腹・おしり(5.00)の10項目であった。

身体関心度の32項目について、男女の平均値検定を行った結果、ヒップ・バストでは1%水準、耳・おしり・ふともも・体重・ウエスト・プロポーションでは5%水準で有意な差がみられた。有意差のあった8項目のうち、耳については、男子が女子よりも、残りの7項目では女子が男子よりも得点が高く、関心が高いことが示された。

3. 自己の身体イメージ・性の受容度・性役割意識における尺度ごとの平均値と男女差

SD法による自己の身体イメージ、性の受容度、性役割意識について男女別の平均値と標準偏差をTable 3に示した。また、尺度ごとに男女別の平均値検定を行った結果を併せてTable 3に示した。

Table 3 各尺度の男女別平均値と平均値検定の結果

	男 子 平均値 (SD) (回答数)	女 子 平均値 (SD) (回答数)	平均値 検定 t 値
自己の身体イメージ			
「評価」の因子	3.71(0.89) (25)	3.84(0.64) (45)	n.s.
「重さ」の因子	4.10(0.81) (25)	4.71(0.75) (47)	3.21**
「強さ」の因子	3.65(1.19) (25)	3.79(0.99) (49)	n.s.
性の受容度	4.09(1.69) (22)	4.84(1.35) (44)	1.96+
性役割意識			
現実の男性性	3.37(1.54) (22)	3.60(1.16) (45)	n.s.
現実の女性性	3.16(1.08) (22)	3.42(1.01) (47)	n.s.
理想の男性性	4.55(1.47) (22)	4.70(0.93) (45)	n.s.
理想の女性性	4.31(1.62) (21)	5.30(0.91) (45)	2.62*
男性性の理想・現実	1.51(1.84) (19)	1.21(1.18) (42)	n.s.
女性性の理想・現実	1.34(1.58) (19)	1.87(1.15) (43)	n.s.

* $p < .10$ ** $p < .05$ *** $p < .01$

自己の身体イメージの「評価」の因子では、16項目の平均値をみると男子では3.71、女子では3.84であり、若干ではあるが評価していないことを示す数値になっていた。「重さ」の因子では、4項目の平均値をみると男子では4.10、女子では4.71であり、どちらかといえば重さを示す数値になっていた。「強さ」の因子では、3項目の平均値をみると男子では

3.65、女子では3.79であり、どちらかといえば弱さを示す数値になっていた。男女の平均値検定では、「重さ」の因子で、女子が男子よりも、1%水準で有意に重いイメージをしていることが示された。「評価」および「強さ」の因子では男女差は示されなかった。

性の受容度の平均値をみると男子では4.09、女子では4.84であり、平均値検定の結果、女子は男子よりも自己の性を受容している傾向が示された。

性役割意識について、現実の男性性・女性性の平均値をみると男女とも4未満であり、男性性・女性性とも身についていないことを示す数値となっていた。一方、理想の男性性・女性性の平均値は男女いずれも4以上となっており、なりたい大人の特性にあてはまるものが示された。男女の平均値検定の結果、理想の女性性について5%水準で有意な差が示され、女子は男子より高い数値を示し、より身につけたい特性としていることがわかった。

4. 身体・体重・BMI 指数の実際値・理想値・標準認識値と平均値検定

身体サイズについては、男女別に身長・体重・BMI 指数の実際値と理想値、体重およびBMI 指数標準認識値をTable 4に示した。また、身長・体重・BMI 指数の実際値と理想値、体重・BMI 指数の実際値と標準認識値、理想値と標準認識値について、それぞれ対応のある平均値検定を行い、併せてTable 4に示した。

Table 4 身長・体重・BMI 指数の実際値・理想値・標準認識値と平均値検定の結果

	男 子 平均値 (SD) (回答数)	女 子 平均値 (SD) (回答数)	男女間 男子間における平均値検定				女子間における平均値検定		
			平均値 検定 t 値	実際値と 理想値 t 値	実際値と 標準認識 t 値	理想値と 標準認識 t 値	実際値と 理想値 t 値	実際値と 標準認識 t 値	理想値と 標準認識 t 値
身長									
実際値	170.4(5.5) (17)	156.3(5.1) (35)	9.11***	4.93***			3.01**		
理想値	176.8(3.6) (21)	158.9(4.7) (44)	15.50***						
体重									
実際値	66.3(10.3) (16)	50.8(10.6) (25)	4.61***	2.23*			3.26**		
理想値	60.7(10.6) (21)	44.4(3.8) (43)	6.83***		2.07+	n.s.	1.82+		5.25***
標準認識値	60.4(7.1) (21)	47.6(5.2) (41)	7.63***						
BMI 指数 ¹⁾									
実際値	22.6(3.6) (15)	20.6(4.1) (25)	n.s.	2.45*			3.20**		
理想値	20.3(1.9) (16)	18.0(1.5) (35)	4.50***		2.03+	n.s.	1.86+		5.04***
標準認識値	20.8(1.3) (16)	19.5(1.8) (33)	1.81+						

* $p < .10$ ** $p < .05$ *** $p < .01$ **** $p < .001$

1) 日本肥満学会による BMI 指数の判定基準は、18.5 未満：やせ(低体重)、18.5 以上 25 未満：ふつう、25 以上：肥満とされている。

身長の実際値は男子170.4cm、女子156.3cmであり、身長の理想値は男子176.8cm、女子158.9cmであった。男女別に実際値と理想値の平均値検定を行った結果、男女ともに有意差が示され、現実より高い身長を望んでいることが示された。

体重の実際値は男子66.3kg、女子50.8kgであり、体重の理想値は男子60.7kg、女子44.4kg

であった。また、身長の実際値に対して標準だと思ふ体重（体重の標準認識値）は、男子 60.4kg、女子 47.6kg であった。体格の指標としての BMI 指数の実際値は、男子 22.6、女子 20.6 であり、BMI 指数の理想値は男子 20.3、女子 18.0 であった。また、BMI 指数の標準認識値は男子 20.8、女子 19.5 であった。

体重および BMI 指数の実際値、理想値、標準認識値のそれぞれの組み合わせについて、男女別に平均値検定を行った。その結果、体重および BMI 指数の実際値と理想値の間では男女ともに有意差が示され、いずれも実際より軽い体重、痩せた体格を望んでいることが示された。体重および BMI 指数の理想値と標準認識値については、女子において 0.1% 水準で有意な差が示され、標準だと認識される体重あるいは体格より、さらに軽い体重、痩せた体格を理想としていることがわかった。体重および BMI 指数の実際値と標準認識値では男女ともに傾向差が示され、標準認識値は実際値より軽く、痩せた値となっていた。

5. 身体意識における各尺度間の相関

身体満足度、身体関心度、SD 法による自己の身体イメージの 3 因子、性の受容度、「男性性の理想－現実」「女性性の理想－現実」、BMI 指数の実際値・理想値・標準認識値という 11 の変数について、男女別に各変数間のピアソンの相関係数を求めた。その結果を Table 5 に示した。

男女ともに共通している結果を以下に示す。身体満足度と有意な相関がある尺度として「評価」の因子、「男性性の理想－現実」、「女性性の理想－現実」が挙げられ、自己の身体満足度が高いほど、自己の身体イメージにおける肯定的な評価が高く、男性性、女性性の理想と現実のギャップが小さくなっていることがわかった。また、「評価」の因子と有意な相関があるのは、身体満足度の他に「強さ」の因子と「男性性の理想－現実」であり、自己の身体イメージが肯定的であるほど、自己の身体に強さをイメージし、男性性の理想と現実のギャップが小さくなっていた。「男性性の理想－現実」と「女性性の理想－現実」は有意な相関がみられ、男性性の理想と現実のギャップが大きいほど、女性性の理想と現実のギャップが大きくなっていた。BMI 指数の理想値と標準認識値の間にも有意な相関がみられ、理想値が低いほど標準認識値も低くなる関係がみられた。

男子では「重さ」の因子と性の受容度、BMI の実際値において有意な相関がみられ、自己の身体を重くイメージしているほど、自己の性の受容度が低くなり、BMI 指数が高くなることが示された。

次に、女子にのみ有意な相関がみられた尺度について以下に示す。女子では、BMI 指数の標準認識値と有意な相関を示す尺度として、BMI 指数の理想値の他に、身体満足度、身体関心度、「評価」の因子、「強さ」の因子、性の受容度、「男性性の理想－現実」が挙げられた。BMI 指数の標準認識値が小さいほど、身体への満足度が低く、身体への関心が高く、自己の身体への評価が低く、弱いとイメージし、自己の性の受容度が低くなり、男性性の理想と現実のギャップが大きくなる関係がみられた。また、女子では、「重さ」の因子と有意な相関がみられる尺度として身体満足度と身体関心度が挙げられ、自己の身体を重くイメージするほど身体満足度が低くなり、身体への関心が高くなることが示された。さらに女子では、「評価」の因子と「女性性の理想－現実」、「強さ」の因子と「男性性の理想－現実」との間には有意な相関がみられた。自己の身体への評価が低いほど女性性の理想と現実のギ

Table 5 身体意識の各尺度間における相関係数 (右上部：男子、左下部：女子)

	身体満足度	身体関心度	評価の因子	重さの因子	強さの因子	性の受容度	男性性理想 現実	女性性理想 現実	BMI 実際値	BMI 理想値	BMI 標準認識値
身体満足度		.04 (22)	.77*** (23)	.20 (23)	.38* (23)	.07 (21)	-.69** (18)	-.49* (18)	.07 (14)	.25 (15)	.13 (15)
身体関心度	-.10 (40)		.09 (23)	.26 (23)	-.17 (23)	-.14 (21)	.36 (18)	.36 (18)	.48 (14)	.11 (16)	.29 (15)
評価の因子	.57*** (43)	-.25 (45)		.16 (25)	.75*** (25)	.34 (24)	-.61** (19)	-.15 (19)	.21 (15)	.31 (16)	.20 (16)
重さの因子	-.40** (44)	.37* (47)	-.10 (45)		.17 (25)	-.45* (22)	.09 (19)	.27 (19)	.69** (15)	-.40 (16)	-.31 (16)
強さの因子	.23 (45)	.04 (48)	.49** (45)	.02 (47)		-.40+ (22)	-.40+ (19)	.06 (19)	.20 (15)	.18 (16)	.09 (16)
性の受容度	.12 (41)	.10 (44)	.21 (42)	.30+ (44)	-.03 (44)		-.11 (17)	.29 (17)	-.38 (14)	.19 (14)	.19 (14)
男性性の理想-現実	-.43** (39)	-.16 (41)	-.51** (39)	-.17 (41)	-.37* (41)	-.30+ (39)		.64** (19)	.13 (15)	-.22 (16)	-.24 (16)
女性性の理想-現実	-.57*** (40)	-.24 (42)	-.42** (41)	.16 (42)	-.18 (42)	-.25 (39)	.66*** (39)		.27 (15)	-.26 (16)	.01 (16)
BMI 指数 実際値	.03 (23)	-.07 (24)	.17 (23)	.36+ (24)	.14 (25)	.27 (24)	-.43+ (20)	.30 (19)		.07 (14)	.15 (14)
BMI 指数 理想値	.26 (32)	-.06 (34)	.10 (32)	.03 (34)	.06 (35)	.22 (33)	-.18 (29)	-.33+ (29)	.04 (25)		.77** (15)
BMI 指数 標準認識値	.49** (31)	-.42* (32)	.38* (31)	.09 (32)	.39* (33)	.36* (31)	-.43* (27)	-.35+ (27)	.27 (25)	.53** (33)	

() 内は回答数を示す。

* $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

ギャップが大きくなり、自己の身体を強くイメージするほど男性性の理想と現実のギャップが小さくなるという関係が示された。

考 察

1. 短期大学生の身体意識、性の受容、性役割意識について

今回の調査では、短期大学生を対象に身体意識についての調査を行い、特に青年後期にあたりとえられる、24歳以下の学生による回答を分析している。

身体の受容の指標として、身体満足度がとり上げられることが多いが、本調査においても満足度を同様の指標としている。今回の調査においてもこれまでの調査（佐藤・寺川、

1995・1998)と同様に全般的に身体満足度の低さが特徴として示された。男女ともに、全身にかかわるような、腹、体重、プロポーション、体毛といった項目は満足度が低く、特に女子においては、女性の身体として脂肪のつきやすい、ふともも、ふくらはぎ、ウエスト、ヒップなどでも満足度が低くなっていた。身体満足度の全項目平均値において数値的には女子が低くなっていたものの、1995年調査と異なり、平均値検定では男女差がみられなかった。これは調査の回答数が全体として少なかったことが影響しているものと考えられる。

身体への関心度は、男女ともに全体としては関心が高いことが特徴であり、特に顔全体、目、髪の毛などで高い関心が示されている。この結果は、現代の青年期後期にある学生が男女ともに化粧、髪型、髪の色、おしゃれやファッションなどに関心を持っていること、それらを自分で試することができる年齢になっていることに関連しているのではないだろうか。一方、女子では、おしり、ふともも、体重、バスト、ウエスト、ヒップ、プロポーションといった身体サイズに関わる項目において男子よりも関心が高くなっていた。これらは、佐藤ら(1997a)の中学生を対象とした研究でも示された結果と類似している。つまり、女子が男子よりも身体サイズや女性として丸みを帯びるおしりやふとももなどに高い関心を向けることは、青年期前期から後期に至る共通した特徴であると考えられるだろう。

身体イメージの3因子は、1995年のデータから得られたものであるが、今回の調査研究でも「評価」「強さ」の因子では信頼性係数が高く、有効と判断した。しかし、「重さ」の因子では「鋭い-鈍い」という項目は他の項目との相関が低く、削除が妥当と判断し、4項目に絞った。調査の結果から、本学学生においては、概して自己の身体評価が否定的であり、どちらかといえば重さや弱さをイメージしており、特に女子がより重さをイメージしていることが示された。これは、青年期の女性が身体を実際よりも重くイメージすることと合致した結果である(佐藤ら、1997b)。

佐藤・寺川(1998)の1995年における大学生の調査と比較すると、身体満足度は女子において今回調査の方が有意に低く、また、男子の身体関心度は今回調査の方が高い傾向があった。身体へのイメージでは、「評価」「強さ」の因子で今回調査の方が低い値を示す傾向がみられた(寺川、2009;発表予定)。これらの結果が現代における青年期における普遍的な自己の身体イメージの低さを示すものなのか、あるいは今回対象とした短期大学生における特徴であるのかは検討していないが、今後慎重に研究を進めていく必要があるだろう。

今回の調査で特徴的な結果の一つに、男子の性の受容度が女子よりも低い傾向にあることが挙げられる。1995年に大学生を対象とした同じ調査では、男子5.87、女子4.98であったが、今回では男子4.09、女子4.84であった。性の受容度は概して男性の方が良い、というこれまでの通念とは異なるものである。これは今回調査における特徴であるのかどうかについては、未検討であるが、身体意識にも何らかの関連があると推測される。

性役割意識については、男女ともに現実の男らしさ・女らしさについてはそれらの特性をあまり身につけていないと感じている反面、それらは自分が理想とする大人の特性であり、身につけたいと感じており、理想と現実のギャップがはっきりと示された。現代では、青年期後期になっても思うように、理想の特性を身につけにくく、ギャップが大きくなっているのではないだろうか。1995年の大学生を対象とした調査と比較すると、女性性の理

想と現実のギャップが男女ともに今回調査の方が大きくなっている（寺川、2009：発表予定）。今回調査の数値をみると、男子が男性性を女子が女性性を理想とし、現実以身につけているということではなく、男女差がはっきりしなくなっている。男性性、女性性をイメージする言葉自体が、15年前と変化している可能性もあり、尺度そのものが検討課題の一つとなるのかもしれない。

2. 身長・体重・BMI指数における実際値・理想値・標準認識値について

実際の身長、体重については、無記名調査で自己報告値の回答を分析している。回答率は身長の実値では男子63%、女子70%、体重の実値では男子60%、女子50%であった。これらの回答率の低さは、自己の身体サイズについては無記名であっても答えにくく、抵抗があることを示しているのであろう。無回答を削除した分析のため、偏りがあるとも考えられるが、それを踏まえて考察したい。

身長については、男女ともに実際値より理想値が高くなっており、より高い身長を望んでいることがわかった。佐藤・寺川(1997a)の中学生対象の調査でも、男女ともに実際より高い身長を望んでいたが、男女とも理想とする身長は今回の短大生の調査より高く、実際と理想のギャップが大きくなっていた。青年後期にあたる短大生は、第二成長期のスパートを過ぎ、ある程度現実の身長を把握しているため、青年前期の伸び盛りにある中学生ほど理想が高くないのではないだろうか。

体重については、男女ともに理想値は実際値より軽くなっていた。男子では理想値と標準だと思う体重に違いはないが、女子では、理想とする体重は標準だと思う体重より軽いことがわかった。つまり、男子では、実際の体重>理想の体重=標準だと思う体重、女子では、実際の体重>標準だと思う体重>理想の体重となっている。理想値も標準認識値も身長の実値を想定しているのので、体格指標としてのBMI指数でも同様の結果が得られた。これらの結果は、現代における特に女子が、自己の体型を意識し、より痩せた身体を望んでいることと符号する（栗岩ら、2000）。

BMI指数の数値でみると、標準だと認識する体重が客観的には「痩せ」に近い値を示し、また、理想値は明らかに「痩せ（低体重）」に分類される値となっている。15年以上も前から過度の痩せ願望と摂食障害の関連が問題視され、警鐘されているが、現代女性における痩せ願望に歯止めがかからない状態であることがみてとれる。

3. 青年期における身体意識の変数間の相関について

今回の調査において用いた身体意識に関わる11の変数について、相関係数を求めた結果、身体満足度と相関がある変数として、自己の身体への評価イメージ、男性性および女性性の理想と現実のギャップが挙げられた。身体への評価が低い者は身体への満足度も低くなるというのは、妥当性のある結果であり、1995年の調査とも符号する。また、なりたい大人の特性に現実がそぐわないほど身体満足度は低くなっており、身体への満足度は、男性性や女性性のような、身体以外の特性にも関連していることがわかる。1995年の調査でも、大学生の男子においては同様の結果が得られたが、女子では女性性のみ身体満足度との相関がみられた。男性性のギャップと女性性のギャップが高い相関を示すことから、男女ともにさほど男性特性、女性特性を弁別しているわけではないことが窺える。前述した

ように、前回調査から10数年が経過し、当時男性性、女性性として捉えていた尺度が、既に男性性、女性性を象徴するものでなくなっている可能性もあり、検討が必要であろう。自己の身体への評価イメージは、強さのイメージと男性性のギャップと相関があり、身体の強いイメージは男女ともに身体の肯定的な評価と相関し、肯定的な身体評価であるほど男性性のギャップが小さくなっている。女子では、さらに身体の評価イメージと女性性のギャップとも相関があり、肯定的な身体評価であるほど女性性のギャップが小さくなる。これらの結果は、1995年の調査結果と類似しているが、当時は男子において女性性のギャップとの相関がみられ、女子では男性性のギャップとの相関はみられなかった。

重さのイメージは、男子のみ、実際の体格指標と相関がみられた。1995年調査でも同様であり、実際の体格が大きいほど、より重いイメージをもつというように、男子は客観的な体格指標と重さのイメージが関連している。一方女子では実際の体格指標と重さのイメージに明確な相関はみられなかった。このことから、女子では、実際の体格にさほど関わらず、重さをイメージしていることが窺える。上長(2007)が示唆するように、男子では客観的な指標が重さと結びつき、体重減少行動につながるが、女子では客観的な指標が必ずしも重さと結びつかず、体重減少行動を高め、摂食障害傾向を助長する、という構造が推測された。また、男子では、重いイメージするほど性の受容度が低くなるという相関がみられた。これは、本調査結果の特徴でもあり、今回の被験者となった男子において、性の受容度が低いことも合わせて考えれば、身体に対しての否定的なイメージとつながっているであろう。

今回の調査結果においては、男女ともに身体満足度と身体関心度の間に相関がみられなかった。これまでの調査では、特に女子において、両者の相関がみられ、身体満足度が低いほど身体への関心が高くなるという関係が示されていた(斉藤、1993; 佐藤・寺川、1998)。身体への受容感と関連する満足度に対し、身体への関心には、単に不満に感じているから関心が向くという、否定的関心のみならず、おしゃれやファッションと関連する関心もあるだろう。今日では身体への関心の向き方が多様化しているのかもしれない。

本研究では、1995年には分析しなかったBMI指数の理想値と標準認識値についても変数に加え、他の変数との相関をみた。その結果、特に女子において、特徴的な結果がみられた。女子におけるBMI指数の標準認識値は、身体満足度、身体関心度、身体の評価イメージ、強さのイメージ、性の受容度、男性性のギャップ、BMI指数の理想値という7項目と相関があった。標準だと認識する体型が痩せたものであるほど、身体への不満・関心が高く、身体への評価が低く、弱さをイメージし、性の受容度は低く、男性性のギャップが大きくなり、理想とする体型も痩せたものとなるという関係であった。つまり、標準とする体型をより痩せたものと認識する傾向が、総じてネガティブな身体意識と関係があることが示されている。

これまでも、現代における青年期の女子は、自己の身体を実際より太っていると認識し、痩せ願望が強く、身体像の歪みがあることが指摘されてきた。青年期の特に女子においては、標準とする体型など、客観的な身体イメージをもつことが、自己の身体や性を受容していくことと関連していくのではないだろうか。自己の身体を受容、肯定的な身体イメージの前提として、客観的な身体認識が重要な意味をもっていることが示唆される。

まとめと今後の課題

本研究では、短期大学学生において、特に青年後期を対象とした身体意識に関する調査を行い、その結果を分析した。そして、今日の青年期の身体意識について、1995年の調査と比較しながら考察を行った。調査の結果から次のことが明らかになった。

①男女ともに身体満足度が低く、身体への関心度は高かった。特に女子においては身体を重いイメージしており、身体満足度は1995年より低くなっていた。②男女ともに、体重、プロポーションといった全身に関わるような項目は満足度が低く、女子では、女性の身体として脂肪のつきやすい、ふともも、ふくらはぎなどで特に満足度が低くなっていた。③男女ともに、顔全体、目、髪の毛などで高い関心が示され、女子では、おしり、ふともも、体重、バスト、ウエスト、ヒップ、プロポーションといった身体サイズに関わる項目において男子より関心が高くなっていた。④男子の性の受容度が女子よりも低い傾向にあった。⑤1995年調査と比較すると、女性性の理想と現実のギャップが男女ともに今回調査の方が大きくなっていた。⑥男子では、体重、BMIにおいて、 $\text{実際値} > \text{理想値} = \text{標準認識値}$ 、女子では、 $\text{実際値} > \text{標準認識値} > \text{理想値}$ となっていた。⑦女子では、標準だと認識する体型が痩せたものであるほど、身体への不満・関心が高く、身体への評価が低く、弱さをイメージし、性の受容度は低く、男性性のギャップが大きくなり、理想とする体型も痩せたものとなるという相関がみられた。

以上のように、今日においても、特に女子における身体像の歪み、痩せ願望が身体意識に強く影響していることが窺える。また、男子においては性の受容や身体への不満など、従来の結果よりもネガティブな意識が見られ、身体受容の問題は青年期女子だけの問題ではないことが示唆された。

1995年調査と今回調査の比較では、同様の結果も多くみられたが、女子における身体満足度や男子の性の受容度の低さなど前回調査との有意な差がみられる結果も得られた。今回調査では、回答数が限られており、それらが普遍性をもつかどうかについては、データ数を増やし今後検討していくことが必要であろう。また、身体意識の各変数について、整理してモデル化していくことが今後の課題である。

引用文献

- 伊藤裕子 1978 性役割の評価に関する研究 *教育心理学研究* 26(1) 1-11.
- 上長然 2007 思春期の身体発育と摂食障害傾向 *発達心理学研究* 18(3) 206-215.
- 栗岩瑞生・鈴木里美・村松愛子・渡辺タミ子・大山建司 2000 思春期女性のボディ・イメージと体型に関する縦断的研究 *小児保健研究* 59(5) 596-601.
- 斎藤誠一 1993 青年期におけるボディ・イメージの特質と関連要因の検討 *神戸大学教育学部研究集録* 90 245-251.
- 佐藤公代・寺川夫央 1995 青年期女子における身体像について—女子学生179名のアンケート調査から— *愛媛大学教育実践研究指導センター紀要* 13 97-107.
- 佐藤公代・赤澤淳子・寺川夫央 1996 青年期における身体満足度と性別役割意識との関係について—性差および身体満足度の観点から— *愛媛大学教育実践研究指導センター紀要* 14 69-77.

- 佐藤公代・赤澤淳子・寺川夫央 1997a 中学生における身体像について—性および学年による身体満足度と関心度の検討— *愛媛大学教育実践研究指導センター紀要* 15 79-96.
- 佐藤公代・赤澤淳子・寺川夫央 1997b 青年後期男女における自己の身体イメージと性の受容のあり方との関連 *愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学* 43(2) 97-109.
- 佐藤公代・寺川夫央 1998 青年期男女の身体満足度とその関連要因 *愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学* 44(2) 49-60.
- Secord, P. F. & Jourard, S. M. 1953 The appraisal of body-cathexis: Body-cathexis and the self. *Journal of Counseling Psychology* 17 343-347.
- 寺川夫央 1996 青年期における身体像に関する研究—性の受容および性別役割意識との関連について— 未公開修士論文.
- 寺川夫央 2009 青年期における身体意識と性別役割意識—1995年調査と2008年調査の比較検討— *日本発達心理学会第20回大会発表論文集* 印刷中.
- Bruch, H. 1987 *The golden cage —The enigma of anorexia nervosa—*Cambridge, MA: Harvard University Press. 岡部祥平・溝口純二(訳) 1979 思春期やせ症の謎—ゴールデンケージ— 星和書店.
- 向井隆代 1996 思春期女子における身体像不満足感、食行動および抑うつ気分: 縦断的研究 *カウンセリング研究* 29(1) 37-43.
- 山口素子 1985 男性性・女性性の2側面についての検討 *心理学研究* 56 215-221.
- 山口素子 1989 SD法による身体イメージの測定 *心理臨床研究* 6 50-59.

謝 辞

調査にご協力をいただきました学生の皆様に心よりお礼申し上げます。

健全な食料生産をめざして V 湛水水田の水生甲殻類発生へのごみ焼却施設 (クリーンセンター) 地点における風向の影響

徳 永 英 幸

To Obtain the Sound Farmland Producing Healthful Foods
for the Future V

Influence of frequency of wind direction at the point of clean
center – refuse incineration plant – on the germination of aquatic
crustaceans in submerged paddy fields

Hideyuki TOKUNAGA

緒 言

20世紀には、様々な新しい化学物質の開発利用により、その利点を享受し私たちは生活を豊かにかつ便利にしてきた。食料の生産においても化学肥料や化学農薬の果たしてきた役割は大きいものといえる。しかし、その反面、不適切な使用に伴う健康への影響や環境への問題を誘起してきたことも一つの事実である^{1)~4)}。

環境汚染は、健全な生活への直接的な脅威⁵⁾となるばかりでなく、生物の多様性の衰退⁶⁾やその結果が導く生産性にも大きな影を投げかけるものである。利便性を追及し続けてきた私たちの生活は、時の「消費は美德」の喧伝に扇動され、大量生産、大量消費と大量廃棄の道を直走ってきた。ところで、わが国での廃棄物の殆どは中間処理として焼却処分がなされている⁷⁾。1983年、愛媛大学立川教授らによる日本のごみ焼却炉からの煤塵中にダイオキシン類検出の調査結果から、「清掃工場の焼却灰からダイオキシンを検出」の報道が大々的に行われた。これを端緒にごみ処理行政への世間の注目が集まることとなり、その風潮は現在も連綿と続いている。

この立川教授による指摘が契機となり、1997年「ごみ処理に係るダイオキシン類発生防止等ガイドライン」が厚生省より示されることとなった。その後の廃棄物処理法の改正に伴い、ガイドライン提示当時の焼却施設(一般廃棄物)からのダイオキシン類発生の推定値である5,000g-TEQ/年は、2003年には71g/年まで急激に低下してきた。今後急増することは考えられない状況といえる。唯、ダイオキシン類の化学的安定性からかつて排出されたダイオキシン類の汚染が残存し、その汚染の拡大を起こしている可能性も否めない。

因みに、当今治市における平成19年度のごみ総排出量は68,402t、そのうち収集可燃ごみだけでも42,061tとなっている⁸⁾。可燃ごみは、中間処理施設であるクリーンセンター

で焼却処理が昼夜を問わず24時間体制で連続稼働され、焼却塔から排出される「煤塵」や「塩化水素」「窒素酸化物」「硫黄酸化物」等の有害ガスについては連続モニタリング装置が設置され、常時その排出状況が監視されダイオキシン類についても定期的な測定が行われている。但し、現在連続的な測定には至っていないが、日常的なダイオキシン類の排出状況の監視として、燃焼状態や除去装置の適正な稼働の管理運営が行われてはいる。

そこで、本レポートでは、自然発生的に出現する水生甲殻類の内、幾分大きめで水田圃場での目視観察が容易なカブトエビ、ホウネンエビ及びヒメカイエビの3種を選び、その発生状況とクリーンセンター地点の風向の経年変動との関連性を検討した。即ち、過去の負の遺産としてのダイオキシン類他、有害化学物質等の土壤汚染を推定する一つの試みとして、水田圃場での水生甲殻類発生の有無による生物検定の可能性を模索した。

調査方法

観察圃場区及び観察年度と各観察年の圃場数

J Aおち今治管内の5圃場区(カノコイケ、バイパス、タンダイ、アガタ及びソマダ各圃場区)を設け、'93、'94、'97、'99及び2000年度の各圃場区での水生甲殻類(カブトエビ、ホウネンエビ、ヒメカイエビ)の発生を観察した。各圃場区の年度別観察圃場数は、カノコイケ圃場区(14圃場、12、13、12、10)、バイパス(9、9、6、7、8)、タンダイ(11、11、11、10、9)、アガタ(10、10、9、9、7)、ソマダ(22、22、22、21、22)とした。

水生甲殻類の観察時期及び方法

観察は田植え後、7日以内の除草剤散布前と14日前後の計2回、目視にて行い水生甲殻類の発生を確認した。

圃場区間の水生甲殻類発生の比較

各圃場区での水生甲殻類の発生圃場数を各圃場区的全観察圃場区数で除し、発生比率として比較した。

クリーンセンター地点の風向の決定方法

クリーンセンターでの風向は、日報に記される1時間間隔の風向中で最長時間を占める方位の風を当日の風向と決め、クリーンセンターの月報での風の方位が記録されている。この月報を基に1989年から2000年(その間、一部未観測年度を含む)までの風向を集計し、その偏り及び経年変動を統計的に調べた。

クリーンセンター地点の風向と水生甲殻類発生の関連性を検討するための圃場区設定

クリーンセンターでの風向の変動と水生甲殻類発生との関連を検討するため、方位別圃場区と距離別圃場区とを設定した。方位別圃場区は当施設に最も近傍する圃場区であるバイパス及びカノコイケ圃場区を、NW～NE方位圃場区(I)とし、E～ESE方位のカノコイケ圃場区を(II)に設定した。次いで、距離別圃場区の区分としては当施設からの距離1.5km以内の(I)区分(カノコイケとバイパス圃場区)、5.8km以内の(II)区分(タンダイ、アガタ圃場区)及び9.3km以内の(III)区分(ソマダ圃場区)とした。(図1)

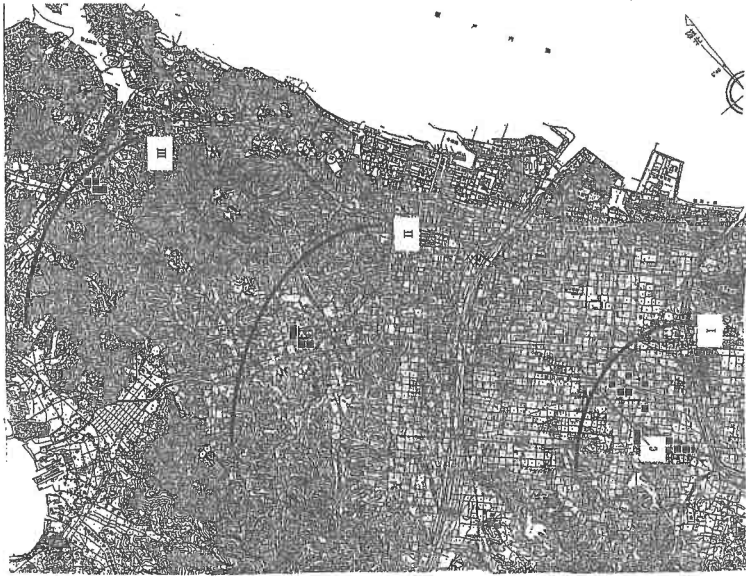


図1 調査水田圃場区の概要

Cはクリーンセンター、黒塗りの正方形及び長方形は調査水田圃を示す。

統計処理

調査結果は、常法の各種検定法により統計処理した。

調査結果

各年度内・月内の風向の偏在性及び年度間の風向変動

クリーンセンター地点での各年度及び各月の偏在性をコルモゴロフスミルノフ検定法で検討した。(表1)

表1 各年度内・月内の風向の偏在性及び年度間の風向変化

1) Kolmogorov-Smirnovの1試料検定法

年度	年間	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
'89	**0.1765	*		**	**	*		**	**				*
'90	**0.1848			**	*	**	*	*	*	**	*	*	
'91	**0.1711			**	**	**		**	**	**	**	*	
'92	**0.2708	*	**	*	**	**	*	*	*	*	*	*	*
'93	**0.2144	**	**		**		*	**	**	**	**	*	
'94	*			*	**	**			**				
'95							*			**			
'96	**0.1327	**						**	**	**			
'97	**0.1346		**	**	**	**	*	*	**	**			
'98	**0.1471		**				*	**	*				**
'99	**0.1516	**	**			**	*	*	*	**	*	*	
'00	**0.1547			**	*		*	**	**		**	*	

*p<0.05, **p<0.01

2) CochranのQ検定法

年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	Yi
'89	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	7
'90	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	9
'91	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	8
'92	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	11
'93	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	9
'96	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4
'97	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	7
'98	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	5
'99	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	9
'00	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	8
Tj	5	5	6	7	6	7	9	10	8	5	6	3	77

$$Q=14.5915 < X^2_{(0.05)}=16.919$$

計測年度全てにおいて、年間の風向の偏りは1%の有意な水準として現れた。一方、各年度内の月別での風向の偏りは年度により若干の差が認められたが、全体的には7月から翌年1月の間に偏りが大きくなることが分かった。因みに夏季は東の風、冬期には南及び西の風の頻度が高くなることが知れている。

つづいて、年度間での風向の偏りをコックランのQ検定法を用い検討した。(表1)

その結果は統計上有意な差は認められず、計測年度間の風向には偏在性のないことが示された。

年間風向比率と経年的風向変化

そこで、クリーンセンター地点での年間の風向全平均比率と経年的風向の変動を調べた。

(図2)

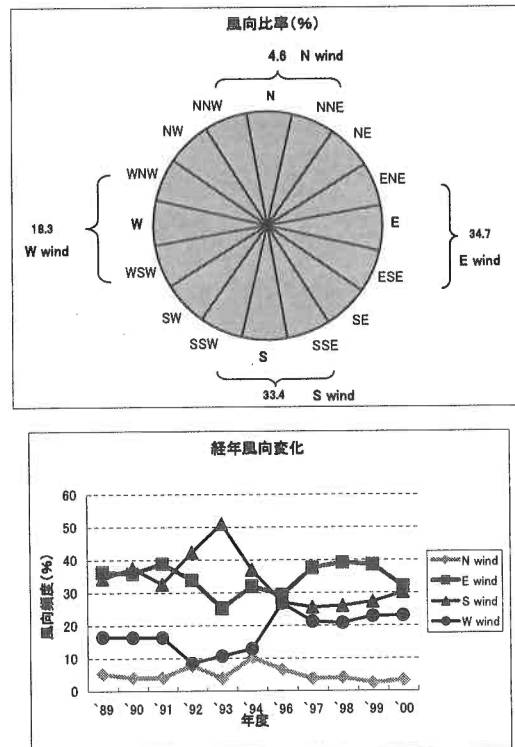


図2 調査全年間の平均風向比率(上図)と経年風向変化(下図)

まず、風向比率に関しては、E wind(東の風)が全風向の34.5%を占めた。同様にWwind(西の風)は17.8%、S wind(南の風)は33.7%、N wind(北の風)は5.1%と、調査年度平均で全風向方位の91%が4区分の方位で占められた。但し、その殆どは東、西、南の風が当地点に吹く風であると解せる。因みに、ここでいう東、西、南及び北の風とは、それぞれENE~ESE、WSW~WNW、SSE~SSW、NNW~NNEまでの各45°区分の風を指している。

次いで、経年的に風向の変化を眺めると、特にSの風とWの風とに経年的な風向比率の変化が現れていることが伺える。即ち、前者が'93年度をピークに風向頻度が激減する傾

向を示すのに対し、後者は風向頻度の上昇を示した。

風向の経年変化

そこで、東西南北、各風の経年風向比率変化の有意性を一元配置分散分析法より求めた。
(図3)

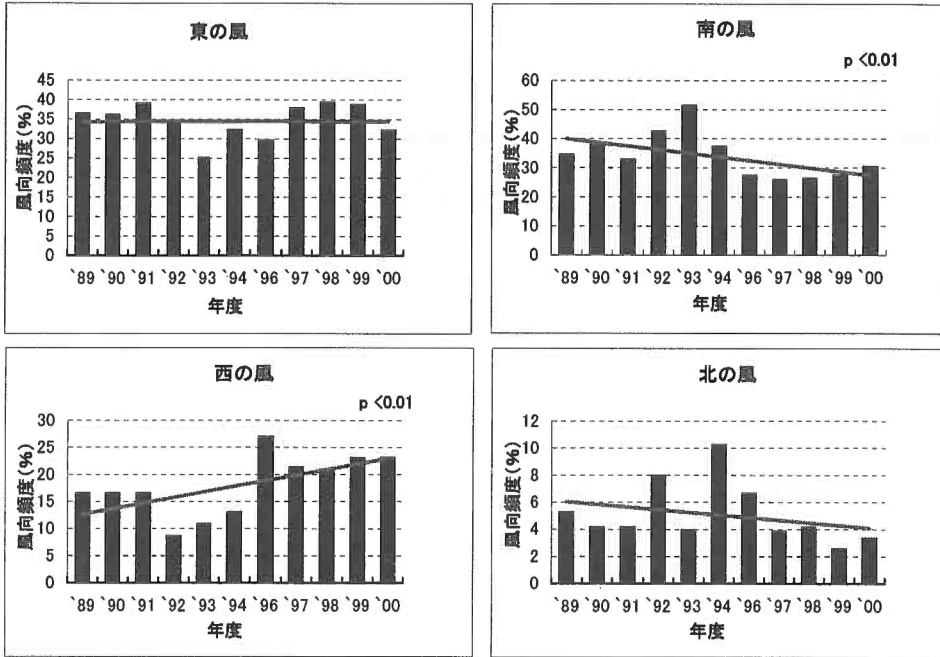


図3 風向の経年変化

—は線形平均値を示す。

Wの風とSの風に1%のレベルで風向頻度に経年的に有意な差が現れ、前者は経年的にその頻度を増し、後者は逆に減少してくることが確認された。

水生甲殻類発生量の経年変動

次に、調査した全圃場でのカブトエビ、ホウネンエビ及びヒメカイエビの発生比率の経年的な変動を一元配置分散分析法より解析した。(図4)

カブトエビの発生は、5%レベルで有意に経年的な減少を示した。一方、ホウネンエビとヒメカイエビはそれぞれ1%、5%レベルで有意な発生の増加を示した。本発生現象が図3の風向の経年変化に対応したものかどうかを、クリーンセンター地点での東西南北の風との相関から検討した。

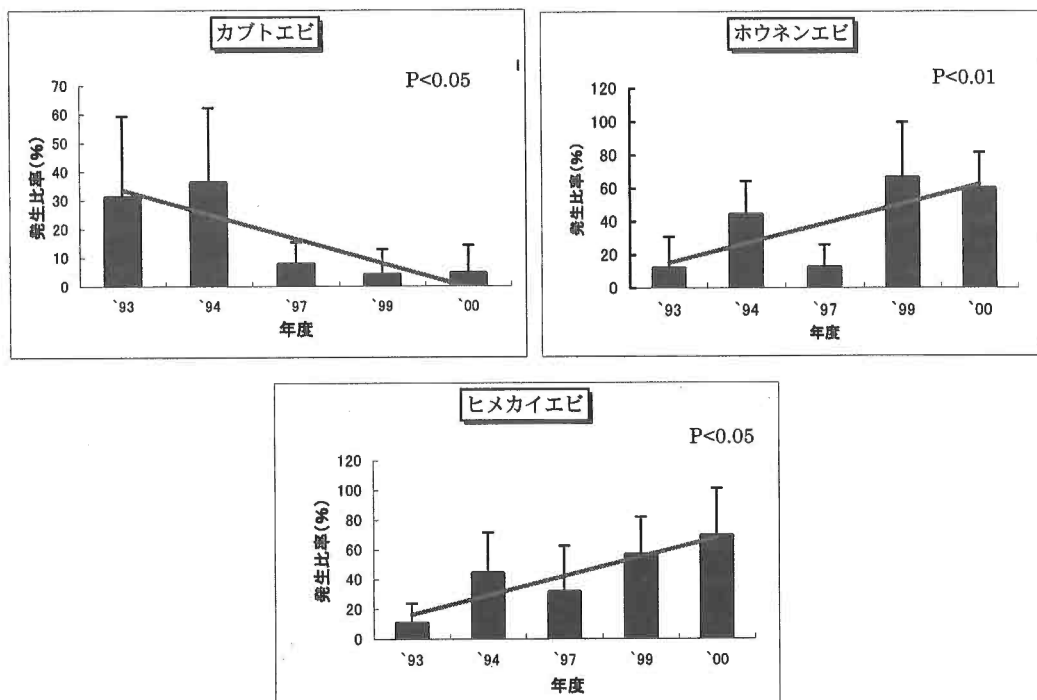


図4 水生甲殻類発生の経年的変動

図中のバーは標準誤差を、—は線形平均値を示す。

危険率 1%及び 5%で有意差あり。

(Fischer's protected LSD $p<0.01$ or 0.05)

水生甲殻類の発生と風向との相関

表2に示すように、カプトエビの発生とWの風とに5%レベルで有意な負の相関関係が認められた。一方、ハウネンエビとヒメカイエビの発生にはWの風との間には正の相関傾向が示されるものの有意な相関は認められなかった。また、東南北の3風向の風と全ての水生甲殻類発生には何らの相関も認められなかった。

しかし、各風向間の風向頻度の相関からWの風とSの風とに負の相関関係が見られ($p<0.05$)、また、Eの風との間に正の相関関係の存在が確認されている($p<0.05$)。

表2 全圃場に発生する水生甲殻類と風向との相関

	E w	W w	S w	N w	カプトエビ	ハウネンエビ	ヒメカイエビ
E w	1	0.784063	-0.934 *	-0.21791	-0.64077	0.338768	0.424572
W w	0.784063	1	-0.898 *	-0.58763	-0.951 *	0.576806	0.736132
S w	-0.934 *	-0.898 *	1	0.238432	0.740737	-0.45188	-0.62344
N w	-0.21791	-0.58763	0.238432	1	0.806226	-0.11998	-0.17918

* : $p<0.05$

Ew、Ww、Sw、Nwは、それぞれ東の風、西の風、南の風及び北の風を示す。

水生甲殻類の方位別圃場での発生比較

そこで、クリーンセンターからの方位別圃場区間での水生甲殻類の発生状況から、Wの風及びSの風の影響を検討した。(図5)

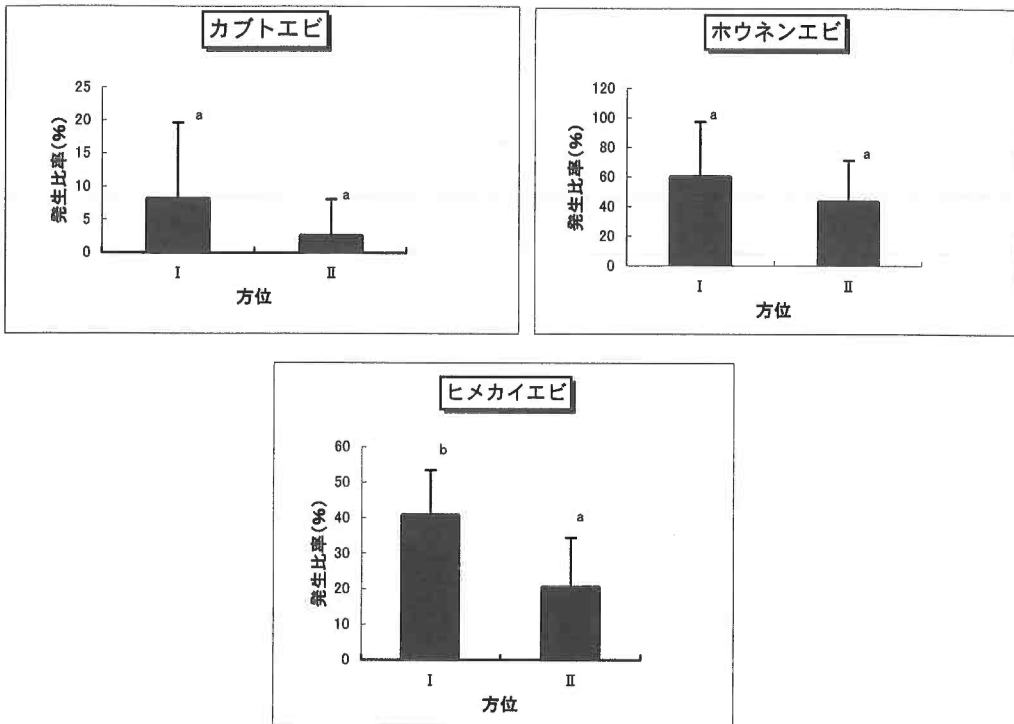


図5 方位別圃場での水生甲殻類の発生比較

図中のバーは標準誤差を示す。

異なるアルファベット間には危険率 5%で有意差あり。

(One Factor ANOVA $p < 0.05$)

水生甲殻類の発生へのNW～NE方位圃場区 (I) とE～ESE方位圃場区 (II) での有意な相違がヒメカイエビに関して認められ ($p < 0.05$)、両圃場区での発生比率の差にWの風の影響が推考された。一方、カブトエビとホウネンエビの発生には有意差は認められなかった。

水生甲殻類の距離別圃場での発生比較

次いで、クリーンセンターからの距離別圃場区間の水生甲殻類の発生を比較検討した。(図6)

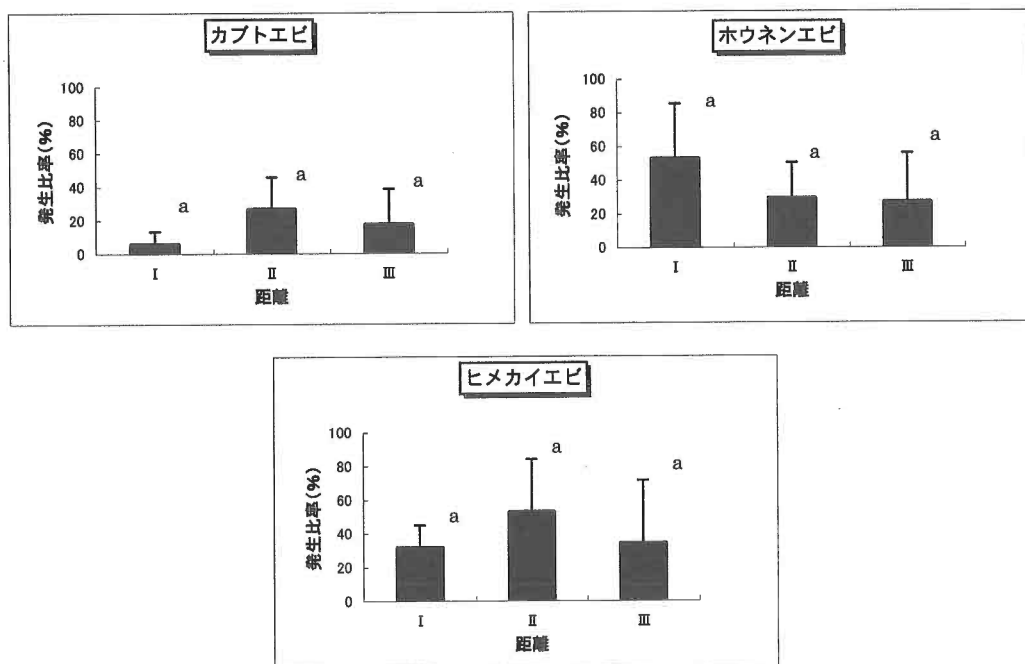


図6 距離別圃場での水生甲殻類の発生比較

図中のバーは標準誤差を示す。

カブトエビ及びヒメカイエビの発生比率は、クリーンセンター近傍の(I)圃場区で見かけ上低い状況を呈しているが、統計的には有意な差は認められなく、カブトエビ、ホウネンエビ、ヒメカイエビ共にクリーンセンターからの距離には無関係な発生状況を呈していることが分かった。

方位別圃場の水生甲殻類発生とクリーンセンター地点の風向との相関

そこで、クリーンセンター地点での風向と水生甲殻類発生の相関を方位別圃場区(I)と(II)の発生状況から検討した。(表3)

表3 方位別圃場区の水生甲殻類発生と風向との相関

	カブトエビ		ホウネンエビ		ヒメカイエビ	
	I	II	I	II	I	II
E w	-0.5980	-0.2250	0.2444	0.4211	0.3532	0.4445
W w	-0.901 *	-0.2500	0.4179	0.2919	0.1459	0.2657
S w	0.6861	0.7500	-0.2958	-0.2734	-0.4364	-0.5042
N w	0.9000	0.5000	-0.6000	-0.3000	0.1000	0.0750

* : $p < 0.05$

Ew, Ww, Sw及びNwは表2と同じ。

IはNw～NE方位圃場区、IIはE～ESE方位圃場区を示す。

(Ⅰ)方位圃場でのカブトエビの発生とWの風との間に5%レベルで有意な負の相関関係が示された。一方、ハウネンエビとヒメカイエビの発生には、(Ⅰ)及び(Ⅱ)圃場区とも風向との関連は全く見受けられなかった。

水生甲殻類の圃場区別発生の変動

調査全圃場と方位別圃場区(Ⅰ)で観察されたカブトエビ発生へのWの風による負の相関関係や方位別圃場区(Ⅱ)におけるヒメカイエビ発生の抑制に、仮説として調査圃場区の相違の可能性が考えられる。そこで、調査全年度を通した水生甲殻類の圃場区別発生を検討した。(図7)

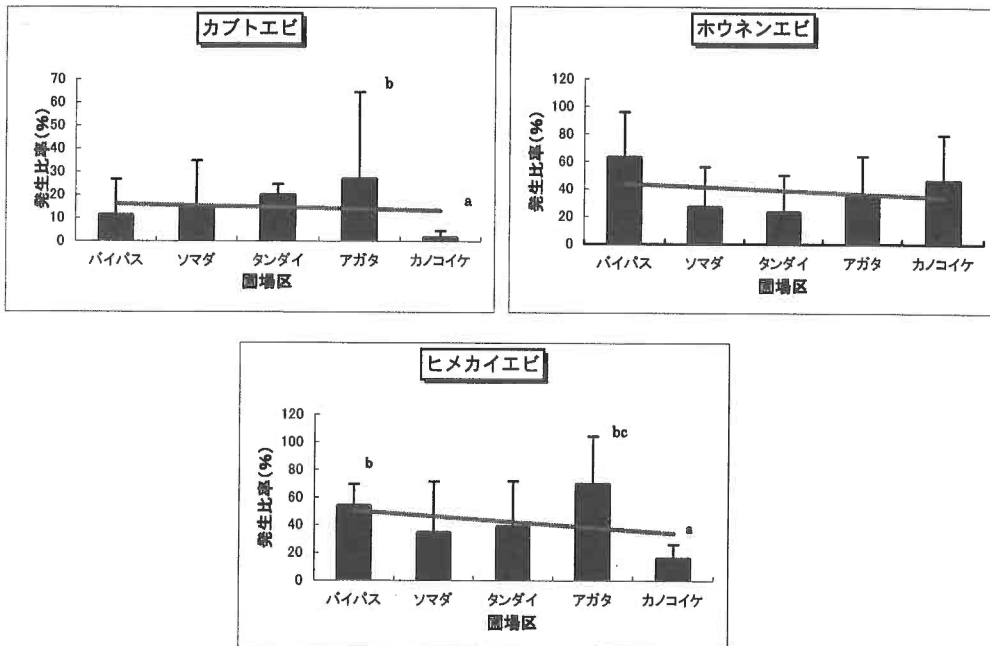


図7 水生甲殻類の圃場区別発生の変動

図中のバーは標準誤差を、—は線形平均値を示す。

異なるアルファベット間には危険率5%で有意差あり。

(Fischer's protected LSD $p < 0.05$)

カブトエビ、ハウネンエビ及びヒメカイエビとも一元配置分散分析法では、その発生に圃場区間での有意な差は認められなかった。しかし、多重比較検定(Fisher's PLSD)ではカブトエビの発生に、カノコイケ圃場区とアガタ圃場区間に5%レベルの有意な差が現れ、またヒメカイエビ発生でもカノコイケ圃場区とアガタ及びバイパス圃場区間に有意な発生の差が認められ、両水生甲殻類ともクリーンセンター隣接のカノコイケ圃場区における発生の抑制を起していることが示された。

考 察

朝日新聞特集(12月30日付記事)による2008年度の食行政を振り返ると、まずは1月30

日付の中国製ギョウザから有機リン剤系農薬メタミドホス等の検出の報道に始まり、4月23日には米国産牛肉からは、BSE発生に影響する特定危険部位の混入が明らかにされた。また、9月5日には農薬の残留基準値を越す輸入米やアフラトキシンの検出された汚染米(事故米)を食用と偽装して転売を繰り返していたことを農林水産省が発表、等々と不正事件が更に続く。かつてのBSE騒動から国民の不信を招いた食行政への反省をもとに、食品安全基本法施行に至った経緯が学習されているとは到底思えない。食行政への消費者の不信が否応にも広がる形相を呈している。消費者の健康引いては生命への自己防衛からか、食料の生産方法や生産現場である農耕地への注視にも厳しさが感じられる。

水田を含めた食料生産の場である耕地生態系は、本来人間が食料を確保するために自然を切り開いて作った人為生態系であり、これを維持するためには相当量の補助エネルギー(農薬、肥料等)の投入が必要とされる。事実、それによって農業生産の向上や安定化、更には著しい省力化がなされてきた。しかし、これら施用された化学資材の環境中での挙動に伴い、多種多様に存在する生物相への相互の影響を通して、そこから派生する環境汚染への懸念があげられる。食べ物、人がそれを直接摂取し続けることで生命や健康を維持するものであり、その安全が確保されることが非常に重要である。とりわけ、日本の伝統的な米を中心とした食生活は世界の学者をうならせ、世界に日本食ブームが席卷して久しい。しかし、昨今の新聞やテレビでの報道に流れてくる、忌まわしく目を覆いたくなるような事件等、自分の命を粗末にし、また人の命を軽んじる行為には嘆かわしくかつ憤りを感じずにはおれない。最近、人の心や体に強い影響を与えているものが、食べ物であるとの認識が新たに明らかになってきた⁹⁾。それ故にこそ、食育基本法に謳う食育の推進が、今盛んに求められる所以といえる。

著者は、日本人にとり最も重要な主食である米の生産現場の水田に焦点を当て、水田から得られる米の生産環境の在り方を、そこに実際に生息する生き物を通して思考させることを狙い、慣行農法下の田植え後、湛水期に発生してくる水生甲殻類を一つのモデル系として、水田土壌微生物、稲、更には水田雑草等を含めた植生との関係から、水田生態系で繰り返される生き物の相互連関の妙を視覚的に捉えさせてきた^{10)~13)}。稲の成長から垣間見える水田の在り様を通した、より健全な食料生産への視点の涵養を目指してのことである。

食の安全を確保するための原点は、何よりも食品となる農作物を作る環境を汚染しないようにすることである。今治市の一般廃棄物焼却処分施設(クリーンセンター)も、2001年に施行されたダイオキシン類対策特別措置法(特措法)に基づき、焼却施設のダイオキシン排出抑制基準の強化に伴う施設の改良等の結果で、ダイオキシン類発生の抑制効果が顕著に現れてきている。だが、四六時中一際高いクリーンセンターの排煙塔からは、排煙と共に白い水蒸気が尾を引き、風の流れ具合に合わせ途切れては拡散しながら消えていく様子が眺められる。本当は消えるのではなく、目に見えないほど濃度が下がったということであり、多くの汚染物質はガス状で、最初から目には見えない煙として存在している。その排煙にはごみ焼却中、非意図的にダイオキシン類が生成してくることが知られてきた。この生成放出されたダイオキシン類は、地上最強の毒性を示し、更には発がん性、催奇形性また遺伝毒性等その特殊な毒性から、環境での挙動に強い関心が払われている。ダイオキシン類は化学的に非常に安定な化合物であり、太陽光線、特に紫外線による脱塩素化や土壌微生物による分解が指摘されているが、その殆どは土壌、河川、海域と環境中に残存し続けている¹⁴⁾¹⁵⁾。ところで、

そのダイオキシン類の私たち身体への移行には、環境汚染を介した食物連鎖網に起因する日常の食べ物から殆どがもたらされている。

そこで、今回は本視点の延長線上に立ち、水田圃場とそれを取り巻く環境との関連をテーマに、クリーンセンター周辺水田圃場を主に、水生甲殻類発生への当施設地点での風向の影響について検討を加えた。まず、クリーンセンター地点の風向を調べ、その偏在性(表1)及び経年変化を確認した。(図2)その結果、風向の変化がSの風とWの風とに明らかに現れ、前者は経年的にその頻度を減少し、後者は相反して増強した。(図3)この風向変化に対応する形で、調査全圃場における水生甲殻類の発生に経年的変動が現れた。(図4)即ち、Sの風の減少に対応したカブトエビ発生の減少と、また、Wの風の増強に伴うホウネンエビとヒメカイエビの発生増加とが観察された。そこで、全年度を通した全圃場での水生甲殻類発生への風向の影響を風向間の相関も含めて検討した。(表2)その影響はWの風とカブトエビの発生に負の相関関係の統計的有意性を示した。一方、ヒメカイエビとホウネンエビに対しては正の相関傾向を呈した。次に、カブトエビ発生に対するSの風の影響には正の相関傾向が認められ、水生甲殻類発生とクリーンセンター地点の風向とに何らかの関連を示唆させた。更に、クリーンセンター近傍圃場区を2方位圃場区に分け水生甲殻類の発生比較を行い(図5)、(I)方位区に比し(II)方位圃場区での各水生甲殻類の発生比率が低くなること、特にヒメカイエビには統計的な有意差が現れた。また、クリーンセンターからの異なる距離の圃場区における水生甲殻類の発生の検討では(図6)、当施設に最も近い(I)圃場区でのカブトエビ、ヒメカイエビ発生比率が低くなることが見られた。一方、ホウネンエビでは逆に高くなる傾向が認められた。しかし、各水生甲殻類ともその発生において、距離別圃場による有意差は生じなかった。そこで、表3では、方位別圃場区での各水生甲殻類発生へのクリーンセンターでの各風との関連を調べた。(I)方位圃場でのカブトエビの発生とWの風との間に、5%レベルで有意な負の相関関係が示されたが、クリーンセンターの排煙に関連すると想起されるSの風との水生甲殻類発生の相関や、(II)圃場区でのWの風との同相関も全く認められなかった。また、ホウネンエビ、ヒメカイエビともその発生に(I)、(II)圃場区とも風向との関連は見受けられなく、図5の方位別圃場でのヒメカイエビ発生にみられた(I)及び(II)圃場区間での発生の有意差にSまたWの風の影響も認められなかった。それらの結果として、クリーンセンター地点での風向と圃場における水生甲殻類の発生との関連には、Nの風だけが調査全圃場区及び方位別圃場区(I)でカブトエビの発生と負の相関関係を示したことになる。表2に示したようにWの風は、S及びEの風との間にそれぞれ負及び正の相関関係を持つことを斟酌しても、全圃場で観察されるカブトエビ発生が経年的なW及びEの風の増強とSの風の減退といったクリーンセンター地点の風向パターンの継続により抑制・繋がるものと解釈できるにすぎない。片や、方位別圃場区(I)、(II)に観られたヒメカイエビ発生差への当施設での風向の関与は一切認められない。

結論として、排煙塔からの煙がどの方向に吹き流されるかとの視点からだけでは、水田圃場に発生する水生甲殻類の変動とクリーンセンター地点の風向との関連を直接説明するのは難解といえる。調査圃場全地域の地形からくる凹凸様々な高低差の存在、風速、気温、降水量等の気象要因、また、過去に使用された除草剤CNP及びPCP製剤中のダイオキシン類や水田土壌中への残留¹⁰⁾からくる影響と、種々の要因が絡み合う。更には、ダイオキシン類等の発生源はごみ焼却の燃焼施設だけでなく、製鋼用電気炉、亜鉛回収施設、紙・パルプ工

業の漂白工程、自動車排出ガス、農薬等化学薬品の製造過程及びタバコの燃焼等、発生源の多様性があげられる。より詳細な条件を含めた局在気象からの検討が成されなければならない。しかし一方で、圃場区別での水生甲殻類発生の変動に関連して、特にクリーンセンター近傍のカノコイケ圃場区での水生甲殻類の発生状況に相違が現れている。ハウネンエでは他圃場区と遜色ない発生比率を呈しているが、カブトエビとヒメカイエビの発生比率は非常に低く、多重検定法での有意差も現れている。この水生甲殻類間の発生の違いは、田面水中に遊泳するハウネンエビと底泥を掻きながらの摂食や産卵行動をとるカブトエビやヒメカイエビとの生活行動の違いからくるものと考えられ¹⁷⁾、その根拠はダイオキシン類の化学的性質即ち、ダイオキシン類の親油性による水田土壌底泥の高い残存性に帰せられるものとも解される。

また、既報¹⁴⁾での実際の水田圃場で観察される水生甲殻類の発生と、同年度、同圃場土壌の *in vitro* (実験室) における発生結果とに明らかな相違が確認されている。実験室での各水生甲殻類の発生に独自性が保たれ、かつ継続的に行われるのに反し、実際の水田圃場で見受けられる発生には水生甲殻類間での相互関連性が示された。その上、それらの発生の年度間での相関に差が現れ、年度により発生する種に変動が生じていることを示す証左も得ている。以上の事実より、両者間における水生甲殻類発生の相違には水田土壌中の残留物¹⁸⁾¹⁹⁾の影響は考え難く、その要因としては、湛水後の農業活動(農業化学資材、箱苗使用等)あるいは大気汚染降下物^{20)~22)}(ダイオキシン類等)の影響等の可能性が想起される。

土壌汚染対策における汚染調査はこれまで化学分析法で行うのが常法であり、化学物質の分子種や量の判明にそのメリットを発揮するが、調査の費用が高額でかつ結果がでるまでに時間がかかるデメリットが存在していた。ところが最近になり、土壌中にダイオキシン類がある場合に特定のマーカー遺伝子を発現させ、花食が変化する遺伝子組み換え植物を作出する研究²³⁾、焼却炉からの排出ガス、煤塵及び燃え殻に含まれるダイオキシン類を検知する公定法として、抗体を用いたバイオアッセイ系の方法²⁴⁾等が考案されてきている。

著者は、これまで水田圃場における水生甲殻類の経年的な発生変動を通して食料生産現場である水田のあり様を調査してきた。勿論、水生甲殻類の発生には直接的な発生抑制の影響もあれば、水田生態系での食物連鎖に由来した間接的な影響として反映してくるものと考えられる。そこで、より自然な方法で食料生産現場である農耕地汚染の兆候を、誰でもが、いつでもより簡易に検知できる方法として、水田にもともと生息している水生甲殻類の活用を試みている。

要 約

クリーンセンターからの距離別圃場での各水生甲殻類(カブトエビ、ハウネンエビ、ヒメカイエビ)の発生比率には、統計的な有意差は表れなかった。しかし、方位別圃場区におけるヒメカイエビ発生に有意差が認められた。クリーンセンターでの東・西・南・北の風の4風向比率がそれぞれ計測全年度平均で34.4・17.8・33.7・5.1%を占めた。その内、南と西の風の風向頻度に有意な経年的変化が確認され、南は経年的に減少を、西は増加を示した。一方、水生甲殻類の経年的発生変動に関しては、全圃場を対象とした検定からカブトエビは経年的な減少($p < 0.05$)を、ハウネンエビ、ヒメカイエビは増加($p < 0.05$)を示した。全圃場区及び方位別圃場区(I)でのカブトエビ発生と西の風との間に、負の相関関係が認めら

た。また、方位別圃場区 (I) と (II) のヒメカイエビ発生に有意な差が現れた。更には、圃場区別での発生の変動に関して、カブトエビ及びヒメカイエビにクリーンセンター近傍の圃場区 (カノコイケ圃場区) で有意な発生の抑制が観察された。

結果として、水田圃場における水生甲殻類の発生の状況をクリーンセンター地点での風の風向頻度に単純に関連させることには無理なところが残る。しかし、当施設に隣接する圃場区における水生甲殻類間の発生状況の違いに疑問は残る。

Summary

In the previous paper, we reported that the germination ratio of aquatic crustaceans actually observed in paddy fields differed from that of ones germinated from soil samples of the corresponded paddy fields in laboratory. All of the germination ratios of aquatic crustaceans germinated in laboratory were not significantly different among years, while those actually observed in paddy fields were significantly different.

For the above reason, the present work is an attempt to study that influence of frequency of wind direction at the point of clean center-refuse incineration plant-on the germination of aquatic crustaceans in submerged paddy fields at early stage under custom farming such as Triopsidae, Chirocephalidae and Limnadiidae.

The germination ratio of above crustaceans differed from paddy field groups consisting of every distances from clean center facility were very insignificant. On the other hand that of Limnadiidae germinated in each paddy field group by direction from its facility was significant with the level of $p < 0.05$.

The average frequency of each wind direction at the point of clean center facility during all years surveyed occupied the percent of 34.5, 17.8, 33.7 and 5.1 respectively. And then, it was recognized that the temporal change of wind direction of south or west had occurred with decreasing or increasing respectively during years surveyed, and the frequency of both winds was suggested to be highly significant ($p < 0.01$) by means of statistical method.

As concerns fluctuations of the germination of aquatic crustaceans, correspondingly above the result of wind direction it was shown that the germination ratio of Triopsidae decreased significantly ($p < 0.05$), while that of Chirocephalidae and Limnadiidae increased with time at the level of $p < 0.05$. And then, with regard to the germination of each aquatic crustaceans both all paddy fields and paddy field groups (I) differed by direction from clean center, it was shown that significant correlation of negativity between west wind and Triopsidae germinated was recognized. And also, it was shown that the germination ratio of Limnadiidae was significantly appeared on paddy field groups by direction-(I) and (II). As regard the fluctuation of the germination of each aquatic crustaceans, the germinations of Triopsidae and Limnadiidae were then suppressed significantly at kanokoike paddy field group in the neighborhood of clean center.

The results mentioned above would not suggest the relation between the germination of

aquatic crustaceans and the frequency of wind direction at the point of clean center-refuse incineration plant, but the appearance of various germination of aquatic crustaceans occurring in the paddy field group neighboring its plant may arise a question.

文 献

- 1) 西尾道徳：土肥誌, 73, 219 (2002).
- 2) 玉川重雄：農業学事典, p. 401～417, 朝倉書店, 東京 (2001).
- 3) 畠山茂久：水質汚濁研究, 14, 460 (1991).
- 4) 菊池幹夫・若林明子：日本水産学会誌, 63, 627 (1977).
- 5) 環境庁：平成10年度農用地土壌及び農作物に係るダイオキシン類調査結果 (1999).
- 6) 環境省：平成12年度版化学物質と環境, p. 147～204 (2001).
- 7) 大澤正明：現代のごみ問題, p. 61, 日本環境衛生センター (2006).
- 8) 今治市：今治市環境基本計画, p. 18 (2009).
- 9) 生石哲：心の病は食事で治す, PHP新書 (2008).
- 10) 徳永英幸：今治明德短期大学研究紀要, 29, 53 (2005).
- 11) 徳永英幸：*ibid*, 30, 55 (2006).
- 12) 徳永英幸：*ibid*, 31, 31 (2007).
- 13) 徳永英幸：*ibid*, 32, 51 (2008).
- 14) 上路雅子：農林水産技術ジャーナル, 23, 5 (2000).
- 15) 清家伸康・大谷卓・上路雅子・高菅卓三・都築伸幸：環境化学, 13, 117 (2003).
- 16) 脇本忠明：土肥誌, 70, 78 (1999).
- 17) Mark, J. Grygier・前畑政善：農土誌, 70, 1025 (2002).
- 18) 森泉美穂子・土屋一成・西田瑞彦：土肥誌, 73, 433 (2002).
- 19) 草佳邦子・森泉美穂子・土屋一成：*ibid*, 77, 67 (2006).
- 20) Hulster, A. and Marschner, H. : *Chemosphere*, 27, 439 (1993).
- 21) Muller, J. F., Hulster, A., Papke, O., Ball, M. and Marschner, H. : *Chemosphere*, 27, 195 (1993).
- 22) Welsch-Pausch, K., McLachlan, M. S. and Umlauf, G. : *Environ. Sci. Technol.*, 29, 1090 (1995).
- 23) 特開2004-89068.
- 24) 平成17年度9月環境省告示第92号.

短大生の食に関する意識と実態

中居由香、寺川夫央、阿部清子、河野弘美、原 映子

Consideration and Reality about Food in Students of Junior College

Yuka Nakai, Fuo Teragawa, Kiyoko Abe, Hiromi Kouno and Eiko Hara

1. 緒言

我が国の疾病構造は急速な高齢化に伴って変化し、死亡原因の約6割が生活習慣病で占められている。国民医療費の約3分の1は生活習慣病関連であり、その対策は国民の健康を守るための最も重要な課題となっている。

生活習慣病対策としてこれまで国は、集団検診を実施することにより、二次予防の早期発見早期治療を推進してきたが、更に一次予防に重点を置くこととし、「健康日本21」の中に具体的な目標値を掲げて努力してきた。しかしながら、過日発表された「健康日本21」の中間評価では、糖尿病有病者・予備群の増加、肥満者の増加(20～60歳代男性)、野菜摂取量の不足といったように改善が見られない、または悪化している現状がある¹⁾。国はその強化対策として、メタボリックシンドロームに着目した特定検診・保健指導を今年度より開始した。この特定検診・保健指導は、内臓脂肪に着目し、保健指導の必要な者(メタボリックシンドローム予備群以上)を抽出するためのもので、生活習慣病有病者やその予備群を25%削減することを目標としている。

対策がなかなか進まない原因として、生活習慣病が慢性疾患であり、発症するまでに何十年という期間を要すること。また、その発症原因が生活習慣そのものに由来しており、その是正が困難であること等が挙げられる。つまり予防には、若い頃から健康的な生活習慣を身に付けることが重要であると考えられる。

近年、健康志向の高まりにより、マスコミからの食や健康に関わる情報提供が増え、更にはインターネット等のメディアの普及で、情報が簡単に気軽に手にはいるようになっている。しかしながら、それらの情報は、必ずしも科学的な根拠に基づかない場合も多く、また特定の情報が過剰にクローズアップされ過剰に評価される、いわゆるフードファディズムを呈する場合も多い。その一つとして、女性における理想体型の思い込みは、やせ願望から過度なダイエットに走らせる傾向があり、また男性では情報過剰の飽食環境から逆に食への無関心傾向が見られる。

我々は以前から本学の全学生を対象に健康状態調査を実施し、生活習慣や食生活の状況とそれらに対する自己認識度について調べてきた^{2)～7)}。そして、調査結果を利用して、健康的な生活習慣を身に付けさせるための健康指導を行ってきたが、学生達の食や健康に対する意識と実態のズレを感じることも多かった。そこで本稿では、学生の健康に対する意識と実態について分析することにより、両者間の「ズレ」を把握し、それを踏まえた学生への適切な

指導方法を検討する。

2. 実施方法

2008年に実施した健康状態調査の結果を基にして、集計および統計的な分析を行った。分析にはエクセル統計およびSPSS統計を用いて χ^2 検定、分散分析を行った。なお、検定は無回答を除外して行った。

(1) 対象

対象は本学に在学する学生とし、回答者数は女性115名と男性56名、計171名であった。

(2) 身体状況の調査

身長と体重については、本学で毎年4月に実施している健康診査の結果を利用した。また、体脂肪率の測定は、アンケート調査の実施と並行して行った。体脂肪率は、(株)タニタ製のPBF-101を用い、インピーダンス法(生体電気抵抗測定法)で測定した。また身長と体重からBMI (Body Mass Index) 値を計算した。

(3) 健康状態調査の実施

調査では記名自己記入式の調査表を配布し、その場で回答を求め回収した。

調査表には調査目的を明確に表示し、合わせて個人情報の保護に関する説明を明記した。

(4) 調査項目

① 生活と体調に関すること

現在の健康状態についての自己認識、体型認識、生活環境と状況、運動・歯磨き等の生活習慣について調査した。

② ストレスに関すること

尾崎らの大学生用ストレス自己評価尺度における、35項目のストレス反応尺度を用いた⁸⁾。ここ1週間のストレス状況について自己評価するもので、下位尺度は心理的反応としては情動反応「抑うつ」「不安」「怒り」と、認知・行動的反応の「情緒的反応」「引きこもり」に分けられる。また、身体的反応として「身体的疲労感」および「自律神経系の活動性亢進」が設定されている。

③ 食習慣に関すること

日常的な食物摂取の習慣について摂取状態、食行動・態度、食意識の25項目を調べた。すなわち、食品摂取状況に関わる10項目(主食、主菜、副菜、食品組み合わせ、牛乳・乳製品、果物、動物性脂肪、食塩、歯ごたえ、アルコール)、食行動・食態度に関わる10項目(朝食、昼食、夕食、夜食、間食、偏食、食事の規則性、食事の量、食事作り、インスタント食品の利用)、食意識に関わる5項目(外食・中食の頻度、サプリメントの利用、地産地消、食への問題意識、改善意識)について回答させた。回答

の内、食品摂取状況と食行動・食態度の計20項目を点数化し、最も望ましい状況から3、2、1、点として、その総合計を食生活点数とした。評価は0～29を大変問題がある食習慣、30～39を少し問題がある食習慣、40～49をまずまずの食習慣、50～60を大変望ましい食習慣とした。

④ 喫煙に関すること

喫煙に関して、喫煙習慣の有無、喫煙の影響に対する認識、喫煙環境への意識等を調査した。

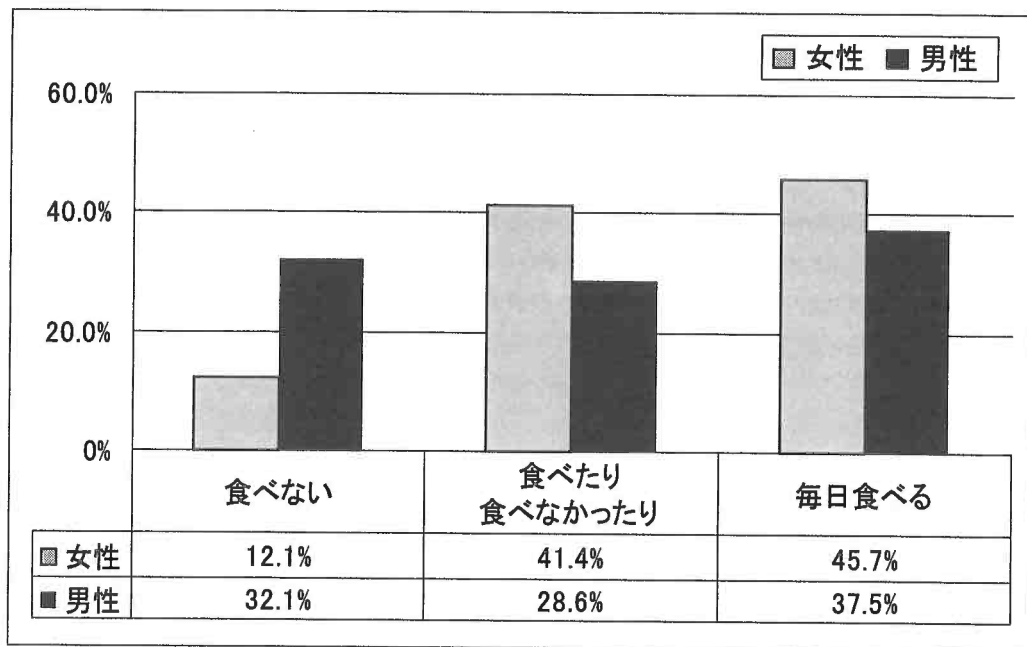
3. 結果と考察

(1) 朝食習慣に関すること

朝食摂取習慣をみると、「食べない」と回答した学生は、女性12.1%、男性32.1%であり、男子学生に朝食欠食者が多く(図1)、その割合は5年前の我々の調査結果(女性14.7%、男性32.2%)とほとんど一致していた³⁾。これに「食べたり食べなかったり」と回答した学生を合わせると、男性では、60.7%がきちんとした朝食習慣をもたないという結果となり、5年前の54.4%よりも増加傾向を示した。また、女性でも「食べたり食べなかったり」群が41.4%であり、5年前の23.9%に比べ著しく増加しており、男女共にきちんとした朝食習慣をもつ割合の減少が認められた。

図1. 朝食摂取状況

χ^2 値 = 0.00691



また、朝食の内容を尋ねると、「毎日食べる」と回答した学生では、男女共にきちんとした食事形態をとっている者が多かったが、「食べたり食べなかったり」という学生の朝食は、おにぎりやパンのような、片手で簡単に食べられるものが多く、単品のみという

学生が多かった。また、牛乳のみ・フルーツのみなどの食事とは言えないものも見られた。この結果、朝食内容においても、「毎日食べる」群は「食べたり食べなかったり」群よりも優れていることが示され、本学学生において、きちんとした朝食習慣をもつ割合が5年前に比べ減少していることは、食事内容の質の低下と共に大変懸念される。

「朝食を食べない」、もしくは「食べたり食べなかったり」と回答した学生にその理由を尋ねると、男女ともに「時間がない」が多く、全体の43.3%を占めた。次いで「食欲がない」20.6%、「寝ていたい」13.4%であった。また、「朝食を食べる習慣がない」と回答した学生も5.2%あり、食べないことが当たり前になっている者も見受けられた(表1)。

表1 朝食を食べない理由 (下記項目から1つだけ選択)

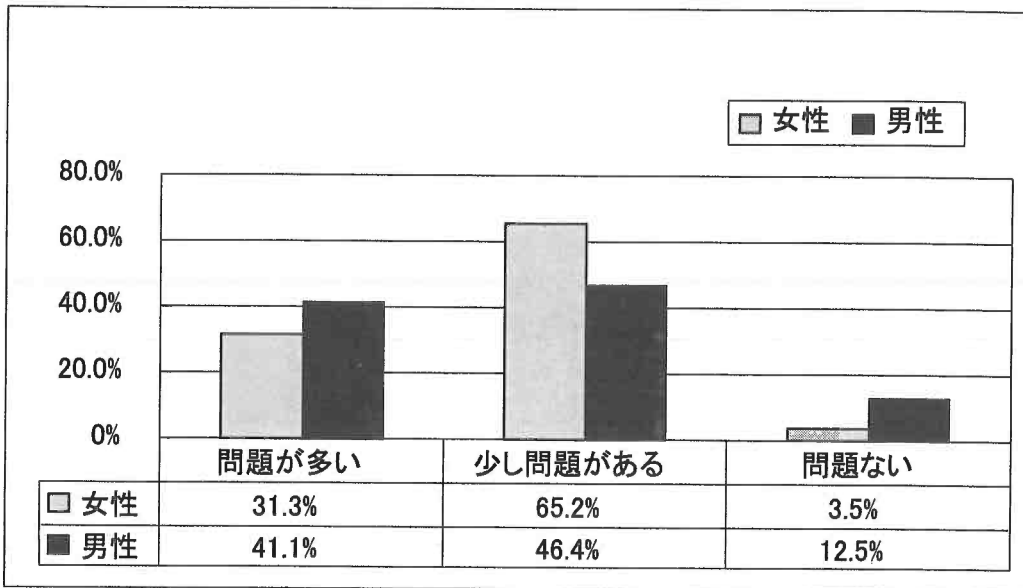
	男性 n=35		女性 n=62		全体 n=97	
	人数(名)	%	人数(名)	%	人数(名)	%
時間がない	14	40.0%	28	45.2%	42	43.3%
食欲がない	6	17.1%	14	22.6%	20	20.6%
寝ていたい	4	11.4%	9	14.5%	13	13.4%
ダイエット	0	0.0%	1	1.6%	1	1.0%
用意されていない	3	8.6%	1	1.6%	4	4.1%
習慣がない	2	5.7%	3	4.8%	5	5.2%
面倒くさい	2	5.7%	0	0.0%	2	2.1%
その他	2	5.7%	0	0.0%	2	2.1%
無回答	2	5.7%	6	9.7%	8	8.3%

表2の食生活の改善希望項目結果によると、「朝食を食べる」という選択肢を改善目標に選んだ学生は、男女合わせて22.2%と優先順位は低かったが、「朝食を食べない」群だけでみると43.8%、「食べたり食べなかったり」群だけでは30.8%であり、「朝食を食べない」群では、食べようとする改善意識がみられた。今後ますます学生指導の中で、朝食の重要性を認識させる教育に力を入れていく必要があると思われる。また、就寝時刻や睡眠時間、夕食や夜食の摂取など朝食摂取にかかわる要素に関しても指導が必要であると考えられる。

(2) 食生活に対する問題意識の有無と食生活点数

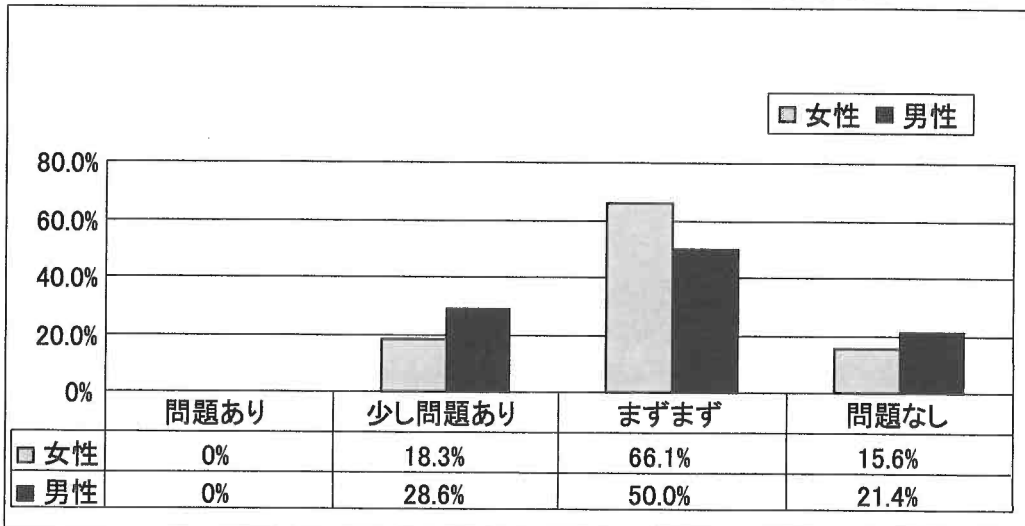
アンケートで自身の食習慣に対する問題意識の有無について尋ねたところ、「食習慣に問題がある」と回答した学生は、女性31.3%、男性41.1%であった。また、「少し問題がある」と回答した学生は、女性65.2%、男性46.4%で特に女性の割合が高かった。両方を合計すると、自身の食生活に何らかの問題意識を持っている割合は女性96.5%、男性87.5%と非常に高い数字を示し、「問題ない」と回答したのは、女性で3.5%、男性で12.5%にすぎなかった(図2)。

図 2. 食習慣の問題意識

 χ^2 値 = 0.09556

一方、食生活点数で「問題あり」および「少し問題あり」と診断された割合は、女性 18.3%、男性 28.6%であり、「まずまず」あるいは「全く問題なし」と診断されたのは、女性 81.7%、男性 71.4%であり、比較的良好な数字を示した（図 3）。

図 3. 食生活点数

 χ^2 値 = 0.054039

食生活点数評価と問題意識の有無とを比較すると、食生活点数評価に比べて男女とも問題意識をもつ割合が著しく高くなっており、実態と意識にズレのあることが明らかとなった。

男女で比較すると、女性は男性に比べ食習慣に関する問題意識が高く、逆に食生活点

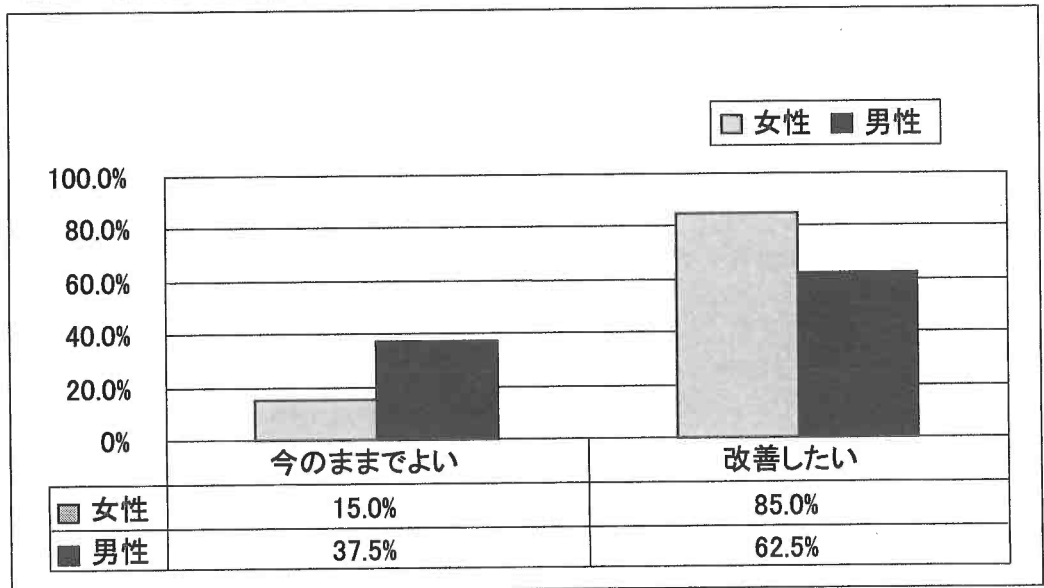
数で何らかの問題があると診断された割合は女性の方が低い割合を示した。この結果、女性は食に関する関心が男性よりも高く、食の問題に対する問題意識をもちやすいことが分かった。

(3) 食生活に対する改善意識と改善内容

自身の食習慣を改善しようとする意思の有無について調べたところ、改善したいと回答したのは、女性で85.0%、男性で62.5%であり、女性は男性よりも高い割合を示した。また、男性では「今のままでよい」と回答した割合が37.5%と高く、4割近くの人々が改善の意識を持っていないことが分かった(図4)。食についての関心が女性に高い理由としては、これまで食事作りや子育てが女性の役割であったという歴史的な背景、あるいは性的役割の違いが考えられる。

図4. 食習慣の改善意識

χ^2 値 = 0.042647



食生活の中で改善をしたいと思っている項目を複数回答で調べたところ、女性では、最も多い回答が「菓子や甘い飲み物をほどほどにする」で、54人であり回答者の47.0%を占めた。続いて「体重を維持する食事をする」が43人(37.4%)、「油の多い料理を控える」が38人(33.0%)であり、改善希望項目の上位は、いずれもカロリーの過剰摂取防止や、肥満防止に関する項目であった。これに対し、男性では改善希望項目の回答数はあまり差がみられず、比較的平均していた(表2)。

表2. 食生活の改善希望項目（複数回答）

	女性 n=115		男性 n=56	
	人数(名)	%	人数(名)	%
主食を十分に食べる	11	9.6	9	16.1
主菜を多すぎず少なすぎず食べる	10	8.7	12	21.4
副菜(野菜)を十分に食べる	33	28.7	16	28.6
主食・主菜・副菜を組み合わせる	34	30.0	18	32.1
牛乳・乳製品を食べる	23	20.0	17	30.4
果物を食べる	35	30.4	18	32.1
油の多い料理を控える	38	33.0	16	28.6
食塩の多い料理を控える	22	19.1	14	25.0
朝食を食べる	22	19.1	16	28.6
菓子や甘い飲み物をほどほどにする	54	47.0	14	25.0
食事時間を規則正しくする	25	21.7	15	26.8
体重を維持する食事にする	43	37.4	18	32.1
CM やおまけに影響されて特定の食品を食べ過ぎない	11	9.6	7	12.5
食品の選択やバランスに必要な知識・技術を身につける	17	14.8	11	19.6
計	378		201	

これまでに、女性では正常体型にもかかわらず肥満であると誤認識している割合が非常に高いことが報告されており³⁾、今回の調査項目①の肥満判定と体型認識においても、女性では肥満判定で正常と判定された人の内で、60.6%の人が自身を肥満であると誤認識しているという結果を得ている。この結果は、女性において、食生活の改善希望項目がカロリーの過剰摂取防止や、肥満防止に片寄っていることと関連していると考えられる。すなわち、女性においては、科学的な指標による食生活評価基準と外見的な体型認識による評価基準のずれが大きく、それが問題意識や改善意識の高さに表れていると考えられる。食意識が高いことについては評価できるが、逆に過度の問題意識や改善意識は必要以上のダイエットにつながる可能性も考えられ、客観的な正しい自己認識を持たせることの重要性が明らかとなった。

男性では、問題意識があるにもかかわらず、改善意識が低く、食生活点数においても女性に比べて問題あり群の割合が多いことから、食への関心度の低さが課題と考えられる。さまざまな機会を通じて望ましい食生活についての知識の習得を促し、改善意識を高めていくことが重要であることが明らかとなった。

(4) 食生活と健康状態に関すること

現在学生自身が感じている健康状態の認識別に、食生活点数の平均値を示したものを表3に示した。健康状態の認識の違いにより、食生活点数に差があるかどうかを検討するために、一要因の分散分析を行ったところ、0.1%の確率で有意であったので、最小有意差による多重比較を併せて行った。その結果を表3に併せて示した。

表3. 健康状態の認識別にみた食生活点数平均と分散分析の結果(平均±標準偏差)

健康状態の認識	1. 良くない	2. 気になる ところがある	3. まあまあ 良い	4. 良い	分散分析
人数 (%)	20 (12.0)	59 (35.3)	64 (38.3)	24 (14.4)	上段:F値 下段:多重比較
食生活得点	43.5 ± 5.5	42.4 ± 5.5	44.8 ± 5.1	47.9 ± 5.4	6.34*** 1,2,3<4; 2<3

***p<.001

健康状態の認識別に平均値をみれば、いずれもまずまずの食習慣(40~49点)の範囲である。しかし、検定の結果、健康状態の認識の違いにより、食生活点数に差があることがわかった。すなわち食生活点数は、自己の健康状態について「良い」と感じている学生が、「良くない」「気になるところがある」「まあまあ良い」と認識している学生よりも有意に高い得点を示していた。また、「まあまあ良い」と認識している学生は「気になるところがある」とする学生よりも有意に食生活点数が高くなっていた。この結果、健康状態の認識の良いほど食生活点数が高い、言い換えれば、よりよい食生活習慣が身についている者は自己の健康状態をより良く認識していることが明らかとなった。食生活のあり方が、実感としての健康状態の認識にも明らかな関わりを示すことは、学生生活を充実させるために、生活指導の中での食に関する指導の重要性を示唆するものである。

次に、食生活点数とストレス反応下位尺度の関連を分析した(表4)。「大変問題がある食生活」群は該当者がいなかったため、30~39点の「少し問題がある」群、40~49点の「まずまずの食生活」群、50~60点の「大変望ましい食生活」群の3グループにおいて一要因の分散分析を行い、有意な結果が出た項目については、最小有意差による下位検定を行った。

心理的反応では「抑うつ」の項目で、「大変望ましい食生活」群は「少し問題がある食生活」・「まずまずの食生活」群と比べて有意に低い値であった。また、「怒り」「情緒的混乱」「引きこもり」の項目において、「少し問題がある食生活」群が「まずまずの食生活」・「大変望ましい食生活」群と比べて有意に高い結果となった。身体的反応では「身体的疲労感」の項目で、「少し問題がある食生活」群>「まずまずの食生活」群>「大変望ましい食生活」群となっており、食習慣が良いほど身体的疲労感が低いという結果であった。これらの結果は、本研究の一環である、阿部らの研究における良い食生活をしている学生はストレスが低いという結果とも符号している⁴⁾。さらに今回の結果では、ストレス反応の中でも特に、身体的疲労感、怒りや抑うつといった心理的反応が食生活の問題と関連していることが示された。これらの結果から、適切な食生活は本人の心身

の状態を安定させる効果があることが明らかとなった。今後、学生に対する生活指導の中でも、この結果を踏まえたうえで、意識および行動改善に努めていくことが必要である。

表 4. 食生活点数別にみたストレス反応の下位尺度の平均値と分散分析の結果 (平均±標準偏差)

食習慣 人数 (%)	1. 少し問題がある 37(21.5)	2. まずまず 103(59.9)	3. 大変望ましい 30(17.4)	分散分析	
				F値	多重比較
ストレス反応					
<心理的反応>					
抑うつ	5.24 ± 4.23	4.35 ± 4.11	2.03 ± 4.14	5.68**	1・2>3
不安	4.19 ± 3.78	3.94 ± 3.53	2.83 ± 3.48	n.s.	
怒り	6.30 ± 4.71	3.95 ± 3.81	2.80 ± 3.81	7.01**	1>2・3
情緒的反応	5.35 ± 4.26	3.93 ± 3.08	3.17 ± 2.93	3.89*	1>2・3
引きこもり	4.06 ± 4.06	2.70 ± 3.12	1.53 ± 2.60	4.74*	1>2・3
<身体的反応>					
身体的疲労感	6.75 ± 4.12	4.37 ± 3.52	2.72 ± 3.93	9.85***	1>2>3
自律神経系の 活動性亢進	2.78 ± 3.17	2.06 ± 2.94	1.43 ± 3.30	n.s.	

* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

4. まとめ

学生の健康に対する意識と実態について分析し、両者間のズレを検討した。朝食習慣では、5年前に比べて、男女共にきちんとした朝食習慣をもつ割合の減少が認められ、朝食の重要性に対する意識はまだまだ低いことが明らかとなった。食への問題意識では、実際の食生活点数評価に比べて男女とも問題意識をもつ割合が著しく高くなっており、実態と意識にズレのあることが示され、特に女性にその傾向が強かった。更に食への改善意識についても女性は男性よりも高いが、その改善意識はカロリーの過剰摂取防止や、肥満防止に片寄っていることが明らかとなった。また、食と健康状態に関しては、食生活のあり方が実感としての健康状態の認識やストレス反応、特に身体的疲労感、怒りや抑うつといった心理的反応に明らかな関わりを示すことが示された。

今後、これらの意識と実態を正しく把握したうえで、学生への適切な指導を行ってきたい。具体的には、学生へきめ細やかな対応をするために、「実践健康管理」といった講座を設けて指導時間を確保し、学生1人ひとりの意識を高め、実際とのズレを無くしていくことが必要である。

5. 参考文献

- 1) 厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会からの中間評価報告書
http://www.kenkounippon21.gr.jp/kenkounippon21/ugoki/kaigi/pdf/0704hyuka_tyukan.pdf#search= 健康日本
21 中間評価
- 2) 原映子、河野弘美、阿部清子：健康状態調査による短大生への個別健康指導の試みⅠ（2003）今治明德短期大学研究紀要 27 91～101
- 3) 原映子、河野弘美、阿部清子、伊藤敏乃：朝食習慣と健康のかかわり（短大生の健康状態調査の結果から）（2004）今治明德短期大学研究紀要 28 73～84
- 4) 阿部清子、河野弘美、伊藤敏乃、原映子：短大生におけるストレス度と生活習慣のかかわり（2005）今治明德短期大学研究紀要 29 1～11
- 5) 原映子、河野弘美、阿部清子：短大生の禁煙状況分析と禁煙支援の方向性（2006）今治明德短期大学研究紀要 30 79～88
- 6) 河野弘美、阿部清子、原映子：短大生における禁煙プログラムの作成（2007）今治明德短期大学研究紀要 31 9～18
- 7) 阿部清子、河野弘美、中居由香、寺川夫央、原映子：短大生の健康状態調査における学科専攻別分析（2008）今治明德短期大学研究紀要 32 1～10
- 8) 財バブリックヘルスリサーチセンター「ストレススケールガイドブック」（2004）実務教育出版 162～164

昭和10年代における朝会行事の運営と実際

野 口 学

はじめに

朝会(朝礼)がすべての学校で盛んに行われるようになったのは、昭和13年頃からとされている⁽¹⁾。大正期も、朝会はあったが、その内容は、昭和期のそれとはかなり異なっていた。

大正期の朝会は、学校の裁量に委ねられており、一日の訓戒を与える管理的性格を有するもの、また、それに合唱・軽体操が組み合わさったもの、あるいは、大正デモクラシーの影響を強く受けた学校では、校長がひとりひとりの児童と会話を交わすといった個人重視のもの、さらには、宗教的情操(仏教・国家神道など)の涵養をめざしたもの、など多彩な内容が盛り込まれていた⁽²⁾。

それが、昭和に入ってから、国内外の情勢が不安定化するにつれ、国民意識の一元化(皇国民化)が急務の課題となり、それに応えるべく教育体制も変革を余儀なくされ、大正期のようなバラエティーに富んだ朝会も、次第に国家的要請に照応する内容に統一されてくる。

つまり、皇国民としての自覚を高揚していくことが朝会の主目的となり、その内容には、御真影遥拝・宮城遥拝・皇大神宮遥拝などの国家神道的儀式が盛り込まれるようになったのである。さらに戦火の拡大にともない、戦局認識をリアルにするための訓話や行事も入ってくるようになる。

本稿は、こうした昭和10年代における朝会が、時局を反映するかたちで変化していく様子を、愛媛県内の学校を例に見ていくことにしたい。

Ⅰ 従来の朝会への批判

昭和10年代の前半においては、すべての学校が、朝会を国家意思の伝達・注入の場に移行させていたというわけではなく、マンネリ化した朝会を惰性的に行っていた学校も少なくはなかった。そうした朝会は、時局が深刻になるにつれ、怠慢であると批判され、それを克服するための目的理念や方法論が提唱されるようになった。

例えば、『愛媛教育』(愛媛県教育会・昭和16年5月号)誌上に掲載された研究発表「朝会と業間鍛練」もそうしたもののひとつである。ここでは、

教師が蒼い顔して墓場から匍ひ出たやうな姿をして、子供の前にボンヤリ立つて、仕方なしに言はれる通りに悄然として体操を行ふ。洩を二本垂らして長い髪を黒やら分らぬシャツの上に突出して何だか分らぬ動作を行ふ。手や足が無造作に各種各様に動揺するものもある。号令一下電流を通じたやうな不動の姿勢、児童と教師が無念無想の厳肅なる一瞬を過す事もある。流暢な声音を軽快な音調に合はして、朗らかな数分を過す事もある。爽

やかな号令に合はして手足の一様に動く師弟一体の律動美を現出する事もある。生徒は盛んに動唱するにも拘らず教師は山の枯木のやうなものもある⁽³⁾

と、実際の朝会が統一を欠く状況であることを指摘するとともに、あるべき理想の朝会像を提起し、現状打破の方策を主張している。

その内容は、「朝会を行ふか否かの問題」「朝会の目標として目ざすべき理想」「朝会の実際の方面」「要約」といった構成をなしている。

次に、それぞれの内容を少し詳しく読み、昭和10年代半ば以後、どのような目的と形態を備えた朝会が模索されようとしていたのか考察しよう。

II 新しい朝会の模索

まず、「朝会を行ふか否かの問題」では、朝会を日常的行事とすべきとし、その理由を、朝会が「一日の発足であり、一日の学習の心構を固めるの時であり、また「天心爛漫たる彼等に感激の一瞬を持たすべき時である」からとしている。しかし、その際、「朝会なるものをして、一の模型に陥らしめてはならぬ」と注意を喚起している。

ここでは、朝会を「行」、すなわち「修行」、特に持戒の場として、また、「感激の一瞬」を与える場として設定し、宗教的・情緒的・感覚的性格をもつ行事に位置づけている。一方、こうした性格の行事が、形式化・画一化の傾向を帯びやすいことは十分承知しながらも、それを極力排除しなければならないことを強調し、朝会の実際の運営においては慎重さを求めている。

「朝会の目標として目ざす理想」では、朝会の場で形成すべき理想的状況が大きく3つに分類され、記されている。次の通りである⁽⁴⁾。

1、厳肅なる一瞬（日本国民として生れたる自覚）

○東天に在します 天皇 皇后両陛下への御挨拶

○伊勢神宮拝礼

○御真影に対する拝礼

○一日行の宣誓と業に対する心構を聞く

○師に対する朝の挨拶

2、明朗快活なる一瞬

○新しく伸びんとする生命の躍動せんとする時

○大自然の生命をそのまま受けてすくすくと伸びんとする時

○姉弟一体、真の童心に立帰り修業の第一歩を印せんとする時

3、統制ある行を行ずるの一瞬

○全校員が号令の下、一糸紊れぬ行動をして校長中心恰も独楽の廻転する如き統制美と調和美発現の時

東天遥拝・伊勢神宮拝礼・御真影拝礼、また校長を中心に展開される団体行動を通して三種類の宗教的雰囲気を漂わせる「一瞬」の場を形成することが朝会に要請された機能である

と提起し、最終的には、「皇道への帰一」、つまり皇国精神を奮起させることが朝会の最終目的であるとしている。

「朝会の实际的方面」では、次の内容が、朝会の運営上の留意点として記されている。

- 1、全校職員生徒一体となり静かに合図を瞑目黙想して聞く一瞬間を要する
- 2、一糸乱れぬ姿勢と整頓、児童生徒の前で「職員気ヲ付ケ」と号令をかけねばならぬやうでは不可ぬ
- 3、明快なる音調による各種号令と之に応ずる斉一動作（機敏、熱心、沈着、機動）
- 4、訓話者の眼に注目して話を聞く
- 5、不動の姿勢と「休メ」の姿勢の区別
発令者が唯ぼんやりとして不識不知の間に長時間不動の姿勢を要求する事あり。かゝる小事が、彼等の姿勢を紊す主因を作るのである。
- 6、その他附属事項を行ふに際しあく迄その統制と調和と時期を紊さぬ心掛が肝要である。
 - 全校唱歌の練習
 - 音楽鑑賞
 - 学習発表会（温習会）
 - 体操
 - 全校行進
 - 服装検査其の他

ここで、特に注意を引くのは、最後の6の事項で、児童の主体性に重きをおく音楽鑑賞、学習発表会も朝会行事のひとつに数えられていることである。この時期にあっても、大正デモクラシーの教育的産物が残っていることは興味深い。

最後に、「要約」の箇所、朝会の性格と教師の朝会に臨む際の姿勢とを述べて、締めくくっている。その全文を記すと次の通り⁽⁵⁾。

之を要するに朝会は学びの時でなく、行ずるの時である。各種の知識を習得するの処でなく、各種の知識を実践する処である。而も一校一心師弟一体の麗しい一体感を呈してこそ真の朝会の面目は発揮される。その指揮は訓育主任が執るにせよ、体育主任が執るにせよ、或は各教員が交替にて、或は女教員が、或は男教員が、将又生徒児童が執るにもせよ、犬が吠ゆるやうに叱咤のみして態と厳肅を装ふたり、静肅のみを要求して統制を装ふたり、自由統制を許して明朗を装ふは何れも大なる誤と言はねばならぬ。況してや率先垂範を欠く教師の態度や不識不知の間に不動の姿勢を長時間要求する事や、山の枯木の如き教師の存在は、陛下の赤子をお預りして誠に申訳なき次第と言はねばならぬ。

このように、昭和10年代半ばから朝会の目的と運営について、明確な指針が示されるようになるが、それを要約するならば、朝会の目的は、国体観念の涵養であり、その方法として、国家神道に直結する礼拝式・団体訓練を中軸とした機械的動作が重視され、その実践の方向は「行」といった宗教性を帯びた実践理念によって規定されていたということである。

III 変貌する朝会

短時間の行事ではあるが、朝会は、このように、国体観念育成の場として重きがおかれ、それが盛んに強調されるようになった。教育現場では従来の朝会の見直しが進められ、まず着手されたのは、児童の動作を画一化する訓練であり、それが奏功し、次第に見事なまでに統一された朝会が行われるようになってきた。

例えば、上浮穴郡久万国民学校の朝会は、次のように様変わりした⁽⁶⁾。

… 八時ともなれば運動場に出る。「先生お早うございます。」とかなり遠方よりわざわざ云ひに来て厳正な礼の出来る中学年の児童に会ふ。ニコニコ顔で教室に朝の勤行にいそしんでゐた者も、嬉々として運動場に遊んで居た者も、嬉々として運動場に遊んで居た者も共に第一のサイレン鳴り響くや、一人残らず直立不動以て学校全体が静の極致となる。… 第二のサイレンで又一同東西をむき不動の姿勢となる。皆手がのびきつてゐる。踵がよくついてゐる。一点を注視してゐる。そして静かに静かに余韻も聞きとれる様になつた時、鳴り響く勇ましい行進曲に合はせて元気のよい行進を起し、それぞれ所定の場所に正しく整列し、レコードやむや足踏もピタツと、とまつて森厳なる雰囲気となる。そして先づ一同学校長に注目しての敬礼を行ひ、今度は心から君徳を仰いでの最敬礼をなす。…

児童の動作の定型化が徹底され、まさに兵營的秩序でもって、朝会が運営されていることがわかう。朝会において、児童には形式と画一的動作が強制され、全体性がすべてに優先し、外部権威に従って行動する体質を形成するのに役立ったのである。

IV 朝会行事の構成

このように、朝会のもつ機能が、戦局の進展に合わせるものに変質化し、その活動内容も、大体、統一したものになってきた。

ここで、温泉郡北吉井尋常高等小学校（国民学校）を例に、日華事変の翌年である1938（昭和13）年から終戦までの間、朝会がどのような行事活動で構成されていたのか、明らかにしよう。

第1表⁽⁷⁾は、当校の朝会で行われていた行事内容を分類したもので、その回数も合わせて記している。

第1表 朝会行事の内容とその実施回数(温泉郡北吉井尋常高等小学校<国民学校>)

年度	訓話	唱歌演習	体操	演芸会・学芸会	神社参拝・遙拝	国旗掲揚	勅語奉読	式典練習	その他	不明	合計
昭和13年	43	6	10	7	4	7	1	1	8	1	88
同 14年	38	11	17	7	2	3	0	0	14	2	94
同 15年	9	6	0	0	2	0	0	0	4	0	21
同 16年	35	3	9	7	2	0	0	0	5	2	63
同 17年	77	8	4	0	1	0	0	0	13	29	132
同 18年	53	6	0	1	1	0	0	0	13	26	100
同 19年	52	9	0	0	2	0	0	0	3	25	90
同 20年	12	0	0	0	1	0	0	0	0	16	29
合 計	319	48	40	22	15	10	1	1	60	101	617

多様な行事が、朝会に盛り込まれている。「演芸会・学芸会」といった大正デモクラシーと新教育運動の流れを汲む行事から、「神社参拝・遙拝」のように宗教的雰囲気を帯びるものまで、広い範囲に及んでいる。回数からみると、圧倒的に多いのは訓話である。

では、朝会行事で主流を占める訓話には、どのような内容が盛り込まれていたのか、再び温泉郡北吉井尋常高等小学校(国民学校)を例に見てみよう。

第2表₍₈₎は、当校において昭和13年から終戦までの間に行われた内容別の訓話の回数である。

第2表 訓話の内容別による実施回数(温泉郡北吉井尋常高等小学校<国民学校>)

年度	種類 戦局に関わるもの	校内外生活に関わるもの				その他	不明
		勤労奉仕に関わるもの	兵營的秩序に関わるもの	節約に関わるもの	一般的な生活秩序に関わるもの		
昭和13年	9	0	1	5	11	5	12
同 14年	10	0	5	5	7	5	6
同 15年	0	0	0	0	5	1	3
同 16年	7	4	6	4	8	3	3
同 17年	6	6	23	2	28	9	3
同 18年	3	7	5	3	21	3	11
同 19年	10	7	11	3	9	3	9
同 20年	3	1	2	1	2	0	3
合 計	48	25	53	23	91	29	50

訓話の内容は、ふたつに大別でき、ひとつは「戦局に関わるもの」、もうひとつは「校内外生活に関わるもの」である。さらに、後者は、勤労奉仕、兵營的秩序、節約、一般的な生活秩序に関するものに分類できる。

校内外生活に関わる訓話が圧倒的に多いのは、生活指導が学校の主要機能であることから当然ではあるが、その内訳をみると、昭和初期には見られなかった兵營的秩序に関わる訓話がかなりの割合を占めるようになってきているのが目を引く。日華事変を契機に悪化する戦局が、教育現場の兵營化を押し進めたということである。

一方、戦局に関わる訓話も頻繁に行われ、校内秩序の兵營化を後押しする雰囲気醸成している。

V 朝会と訓話 兵營的秩序の樹立に向けて

社会が挙国一致の戦時体制へ移行するにつれ、教育現場も、模擬戦闘を含めた集団訓練が盛んに行われるようになるなど、その体制を兵營的なものに変化させていった。

それに伴い、上命下服の兵營的秩序を強調する訓話も多くなり、その訓話内容は、同じく温泉郡北吉井尋常高等小学校（国民学校）を例にすると、第3表⁽⁹⁾のようなものであった。

第3表 兵營的秩序に関わる朝会訓話の内容（温泉郡北吉井尋常高等小学校〈国民学校〉）

同17年	同16年	同15年	同14年	昭和13年	年度
○通学班の登校状況について(二・一九) ○敬礼・言葉につき徹底(九・七) ○暁天動員について七・二二 ○「敬礼」について(七・一三、訓練目標) 九、週目標 ○「死ねまでやる」(五・一五) ○「姿勢」について(五・二五、二・二二) ○言葉遣い(六・一六、週間目標) ○「歩き方」について(六・二二、六・二二、週目標)	○「攻撃精神」(週訓練目標) ○「忍耐」(週訓練目標) ○「目と手の動き・我等の決戦態制」(二・一五、週訓練目標) ○高男の敬礼について(二・一八) ○戦時下に於ける我らの心構え(二・一六) ○口を結ぶ(週間目標)	不詳	○「敬礼」について(七・一〇) ○下級生が上級生の云ふことをよくきくこと(二・一八) ○挨拶・言葉遣い・姿勢について(二・三〇)	○言葉遣い礼儀(二・二四) ○礼儀作法について(五・四) ○姿勢(五・二九)	訓話の内容
同20年	同19年	同18年	同17年		年度
○目を見張って全体を見、又一部分を見ること(五・三二) ○緊張について(四・一七)	○特攻隊精神(二・一四、三・一三、週番訓話) ○最敬礼其の他の礼についての姿勢指導(二・一七) ○児童登下校時に於ける唱歌合唱の督促(二・二二) ○「集合」目の輝き(八・三三、訓練目標) ○「集合」に関する注意—先生のマークをつけている方には敬礼をすること(九・一九、週間目標)	○「無言の集合」について(五・一三、週中訓練目標) ○手をのばすこと(五・一八) ○「素直」(七・一〇、週番目標) ○「集合」目の輝き(八・三三、訓練目標) ○「集合」に関する注意—先生のマークをつけている方には敬礼をすること(九・一九、週間目標)	○鍛錬運動について(七・二〇) ○「黙」と「動作」(二・一八、週目標) ○復命及復唱・校門は営門に通ず(二・三三) ○「黙」(合図)について(二・二九) ○「不動の姿勢」について(二・二九)	○校門での行進がよくなった(二・二〇) ○「不動の姿勢」について(二・二五) ○「話を聴く時の姿勢」について(二・二二) ○「速やかに集まる」について(二・一、月訓練目標) ○集合について(二・二二) ○教室前の集合について(二・二二、週中目標)	訓話の内容

訓話内容は、登校、下校時を含め、学校生活下の児童の一挙手一投足が礼法・作法に従って終始することを要求するものである。歩き方、姿勢、敬礼、言葉づかい、復命復唱、集合など、兵営における行動原理を模したもので児童を律し、さらに「心構え」「決戦態制」「忍耐」「攻撃精神」「特攻精神」「死ぬまでやる」といった責め立てる精神主義も加えられている。次の回想が語るように、教育現場はまさに兵営に類似した行動を課していたのである。

校門は軍門に連なるというのが当時の合言葉で学校の教育もすべて軍国調で通学班別に登校した児童は校門を入る時班長の号令で「歩調とれ」(そのまま奉安殿前へ行進して)「全体止まれ」「右向け右」「奉安殿に対して最敬礼」「なおい」「廻れ右」「解散」といった式であり、毎朝行う全校朝礼も「学校長に対し頭なか」といった号令による礼の仕方を取り、作業で鋤(くわ)を持って校外に出る時は、鋤は軍隊の銃と同じ要領で号令によって担い、校門を出るときは如何なる場合も歩調とれの号令を用いた⁽¹⁰⁾。

兵営的秩序が教育現場に定着する一方、戦局に直接・間接に関わる様々な話題が、朝会の訓話にもたくさん盛り込まれている。第4表は、温泉郡北吉井尋常高等小学校(国民学校)での、戦局についての訓話の中身である⁽¹¹⁾。

第4表 戦局に関する訓話の内容(温泉郡北吉井尋常高等小学校<国民学校>)

同16年	同15年	同14年	昭和13年	年度
○航空記念日につきラジオの訓話を聞く(九・二〇) ○時局について(二・五、二・二七) ○大東亜戦争について(二・一五) ○太平洋(時局にちなむ)について(二・一九)	不詳	○愛馬の日について(四・七) ○徴兵検査について(五・四) ○動員兵飲送の態度について(六・三) ○防空演習について ○重大事局について(九・四) ○欧州大戦と国民の覚悟について(九・一五) ○帰還兵士出迎について(九・二二) ○満州国承認記念日について(九・一五) ○防空燈火管制について(一〇・二二) ○査関につき注意(一・一三)	○防空訓練・演習について(四・二九、二八、一〇・一九、二六) ○事変に関して「長期にわたる覚悟」(九・一二) ○慰問文の参考分朗読(二・〇七) ○戦況について(二・〇五) ○銃後後援週間について(二・二七) (出征兵士・新年賀状・慰問の手紙等の出信 中支赤十字派遣団慰問品の札状返信について(二・二二)) ○出征兵士見送りについて(九・二六)	訓話の内容
同20年	同19年	同18年	同17年	年度
○警戒下の帰校態度について(四・二六、四・二七) ○防護上の注意について(五・七)	○燈火管制について(二・六) ○警報発令下に於ける児童の待機について(二・二六)	○戦況について(四・一七) ○在郷軍人訓練について(四・一九) ○英霊室供物について(四・二六) ○戦局について(六・二二、六・二六、一〇・二〇、三・二二) ○サイパン島玉砕及び東条内閣総辞職に關し吾人の覚悟(七・二〇)	○海軍記念日図画成績入選について(六・二二) ○支那事変記念行事について(七・七) ○在郷軍人受点呼について(七・二四) ○防護週間について(七・一五) ○満州建国十周年記念慶祝週間について(九・一五) ○満州事変記念日について(九・一八)	○シンガポール陥落について(二・二六、二・二八)

戦争に直接、間接に関わる事項が、訓話の材料になっている。戦局の動向はもちろんであるが、「新年賀状・慰問の手紙等の出信」、「慰問品の礼状返信」、「出征兵士見送り」、「帰還兵士見送り」、「期間兵士出迎」といった、銃後の守りの実践化を促す訓話も盛り込まれている。

しかし、訓話の中身は刻々変化している。当初は、戦局動向や銃後の守りとしての心構えが主であったが、戦争末期には、もっぱら空襲防御に関する訓話のみになっている。

おわりに

朝礼には、一日の始まりにおいて、訓話形式で児童の学校生活に一定の指針を与えることによって秩序正しさを求めたり、また、時に凝縮された行事を催すなどして、短時間ながらも、学内の生活にメリハリをつける機能があった。また、学校で行われる朝礼には、一般社会でのそれとは違って、個々の児童の成長と発達を支援するという配慮がなされており、牧歌的雰囲気もあった。

しかし、昭和10年代に入ると、学校は国内総力戦体制に組み込まれ、それまでのように社会の動向から独立した児童だけの純粹世界を維持するということが困難になった。

学校には、銃後の守りが期待され、兵營的動作が導入され、さらに逐一、戦争の情報が児童に伝えられ、戦局認識の高揚が鼓舞され、戦場と一体化することが強要されるようになったのである。朝礼は、そうしたことを主導する役割を演ずることになった。

教育は両刃の剣であり、社会（時局）の変化によって、また国家・社会の要請によっていかようにもその機能を反転できる性質をもっているが、昭和10年代の朝会の変容はまさにそのことを如実に示したことになる。

注

- (1) 山本信良・今野敏彦『大正・昭和教育の天皇制イデオロギー〔I〕』新泉社 1976年 345頁
- (2) 同上 347-349頁
- (3) 愛媛県教育会『愛媛教育』昭和16年5月号 46頁
- (4) 同上 46-47頁
- (5) 同上 47頁
- (6) 『愛媛教育』昭和16年11月号 20-21頁
- (7)～(9) 北吉井尋常高等小学校『学校日誌』（昭和13年度～20年度）より作成。
- (10) 中筋郷土誌編集委員会『中筋郷土誌』昭和54年 504-505頁
- (11) 北吉井尋常高等小学校『学校日誌』（昭和13年度～20年度）より作成。

Running morning meeting and its reality in the second decade of the Showa era

Manabu Noguchi

It is said that morning meeting (morning assembly) became actively conducted in every school from around the 13th year of the Showa era. Although morning meeting was conducted in the Taisho era, its contents were very different from the ones of morning meeting in the Showa era.

Contents of morning meeting in the Taisho era were various because morning meeting in the Taisho era was left to discretion of schools. For example, there were the administrative morning meeting in which students were given admonition for the day, and the one which chorus and light exercise were combined with the administrative one. In schools which were strongly influenced by Taisho democracy, there were the one in which principal had a conversation with each student to focus on individuals, and the one which aimed to cultivate religious sentiment (like Buddhism or state Shintoism).

After entering the Showa era, unifying public awareness (arousing awareness of people in the nation governed by the emperor) became urgent business as the situations in foreign countries and Japan got unstable. Therefore, the education system was forced to change to suit that needs. Contents of morning meeting were gradually unified from the various ones in the Taisho era to the ones that corresponded to the national request.

母語話者の類似度評価に基いた 韓国語助詞「lo」の計量的意味分析

濱 田 亮 輔

A quantitative analysis of the semantic structure of Korean particle *lo*, based on similarity rating by native speakers

Ryosuke Hamada

1. はじめに

多様な事態に対する言語形式の選択には数的に限界があるため、言語使用のような知的処理では外界で得た知識を抽象化・構造化した枠組みが必要となる。格情報をこの観点から見れば、少数個の言語形式として表れる表層格と多様な意味役割を持つ深層格が言語使用者にどのように認識されているか、また、意味役割の類似性をどのように抽象化して意味構造を形成しているのかという問題が存在する。

ある対象間の類似度がデータとして得られた場合、多変量解析を用いて関係を空間的に表現する方法が知られている。荻野(1989)や鈴木(1994a, 1994b)では、名詞や多義動詞の類義性に対して意味構造が説明されている。同様の方法で、茂木(1999)及び茂木・佐藤(2002)、茂木(2002)では、日本語の助詞「に」及び「で」、韓国語の助詞「ey (에)」を対象にして、深層格の意味構造を分析している。

本稿では、韓国語の助詞「lo/ulo (로/으로)」(以降、lo (로) とする) に対して、母語話者による意味類似度評価という客観性・再現性が保証されるデータに対して計量的分析を行い、母語話者に内在する意味構造を明らかにする。

2. 先行研究

韓国語助詞「lo/ulo (로/으로)」は、先行名詞の最後の音節に終声があれば「ulo (으로)」が、終声がなければ「lo (로)」が用いられる。本稿では、研究の対象を「lo/ulo (로/으로)」(以降、lo (로) とする) とした。このため、資格を表す「lose/ulose (로써/으로써)」及びその縮約形である「lo (로)」や、道具や手段を表す「lo (로)」の強調形である「losse/ulosse (로써/으로써)」も対象外とする。また、場所の起点を表し、「eyse (에서)」や「eysepwuthe (에서부터)」と置換可能な「lopwuthe/ulopwuthe (로부터/으로부터)」も対象外とする。

先行研究では「lo (로)」の意味として以下のようなものが挙げられている。

任 (1989) : 「手段や方法」「資格や身分」「動作の方向」「原因」「様態や変化の帰着点」「移動の経由地」「考えなどの内容」「判断基準」「選択」

梅田(1991) : 「手段」「理由・原因」「様態」「材料」「方向」「変化」「時間」「決定」「経由点」「資格」

陳 (1996) : 「手段・材料 (・方法・方式)」「方向」「変化の目標」「判断の内容」「選択の客体」「資格」「原因・理由」「様態」「時間」「敷衍」

朴 (1997) : 「手段・方法・道具」「材料・原料」「方向」「経路」「身分・資格」「原因・理由」「様態」「数量的限定・基準 (期限の終点)」「認識・選択の内容, 名目, 用途」「変化の結果」「経由点」

韓国語の助詞「lo (로)」と日本語の助詞の対照研究としては, 多和田 (1988) や朴 (1997) などが挙げられるが, 計量的な分析手法を用いているものは少ない。

3. 調査

調査方法は, 調査対象である助詞「lo (로)」が用いられている韓国語の文を設定し, そこから2つの文を選出して助詞「lo (로)」の意味の類似度を評価する。調査に用いる文の設定については, 先行研究の「lo (로)」の意味分類を参考にして「道具」「材料」「様態」「原因」「経路」「変化」「限度」「内容規定」の8つに分類し, この8分類に各2文ずつ, 合計16文を表1のように設定した。なお, 8つめの「内容規定」は「発話・思考の内容を指示する部分」を意味し, 朴 (1997) では「認識・選択の内容, 名目, 用途」とし, 陳 (1996) では「判断の内容」や「選択の客体」としている。

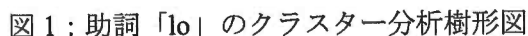
文がN個あれば全組合せは $(N-1) \times N/2$ となるため, 16文から2文を選出した全120組に対する類似度評価を求めた。評価は2つの文の助詞「lo (로)」に対して, 意味の類似度の程度を5段階で表す。5段階評価は, 「全然違う」「少し違う」「どちらともいえない」「少し似ている」「非常に似ている」に相当する韓国語を用いた。調査対象者は, 日本の大学に留学している韓国語母語話者の12名である。

表1 : 助詞「lo」に関する分類と調査文

道具 a	톱으로 나무를 자른다. thop-ULO namwu-lul calunta. (のこぎりで木を切る)
道具 b	영어로 이야기 했다. yenge-LO iyakihayssta (英語で話した)
材料 a	빵은 밀가루로 만든다. ppang-un milkalwu-LO mantunta. (パンは小麦粉で作る)
材料 b	콩으로 메주를 쑈다. khong-ULO mecwu-lul sswunta. (大豆で豆こうじを炊く)

様態 a	그녀는 웃는 얼굴로 말했다. kunye-nun wus-nun elkwul-L0 malhayssta (彼女は笑顔で言った)
様態 b	과자를 넷으로 나눈다. kwaca-lul neys-UL0 nanwunta. (お菓子を4つに分ける)
原因 a	병으로 결근했다. pyong-UL0 kyeIkunhayssta. (病気で欠席した)
原因 b	논문준비로 바쁘다. nonmwuncwunpi-L0 papputa (論文の準備で忙しい)
経路 a	산으로 가다가 호랑이를 만났다. san-UL0 kataka holanki-lul mannassta. (山に行く途中で虎に遭った)
経路 b	도둑놈은 창문으로 들어왔다. totwuknom-un changmwun-UL0 tulewassta (泥棒は窓から侵入した)
変化 a	물이 얼음으로 된다. mwul-i elum-UL0 toynta (水が氷になる)
変化 b	황무지였던 곳이 큰도시로 바뀌었다. hwangmwuciyessten kos-i khun tosi-L0 pakkwiyessta (荒地だったところが大都市に変わった)
限度 a	다섯시로 마감한다. tasessi-L0 makamhanta. (5時で閉店です)
限度 b	이 서류는 오늘 안으로 제출해야 한다. i selywu-nun onul an-UL0 ceychwulhayya hanta. (この書類は今日中に退出しなければならない)
内容規定 a	천수는 나를 형으로 불렀다. chenswu-nun na-lul hyeng-UL0 pwullessta. (チョンスは私を兄と呼んだ)
内容規定 b	그가 어쩐지 아버지로 생각된다. ku-ka occenci apeci-L0 sayngkaktoynta. (彼がなんとなく父に思える)

クラスター分析を用いた結果、得られる樹形図を図1に示す。クラスターの長さは、助詞の意味類似度から算出した距離を表す。クラスター間の距離の算出方法については、各クラスターの中で最も近い要素の距離を用いる最短距離法を適用した。図1の樹形図では、左側からみれば類似度の高いものがより小さなクラスターを構成し、逆に右側から見れば類似度の低いものがより右側で分岐していることがわかる。



- 82 -

逆に図1のクラスターの右側では、図全体から「限度aと限度b」のクラスターが別れ、更に残りのクラスターから「経路aと経路b」のクラスターが別れている。これは、「限度aと限度b」や「経路aと経路b」のクラスターは他の意味と類似度が低く、互いの意味の違いを母語話者が明確に意識していることを表している。

続いて、数量化IV類を助詞「lo (로)」の意味類似度評価に適用した結果を図2に示す。図2の上側には「限度aと限度b」が、図2の中央及び下側には残りの意味が位置付けられている。また図2の右側には「経路a」があり、少し離れて「経路b」が存在する。図2の左側には「原因b」や「変化a」などが位置付けられている。

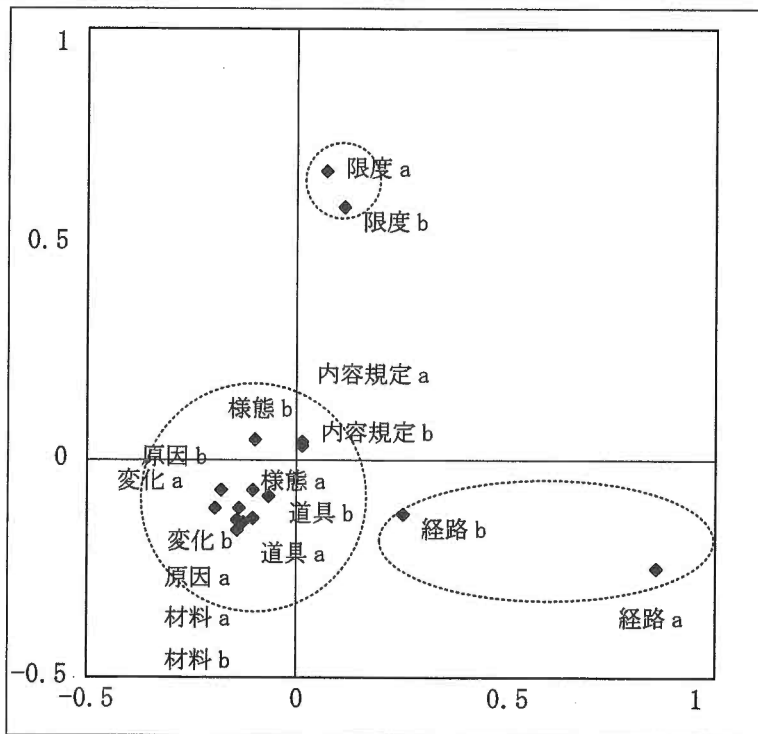


図2：助詞「lo」の数量化IV類分析結果

図2の数量化IV類分析の結果に図1のクラスター分析の結果を反映すると大きく3つのグループに分けることができる。「限度aと限度b」、「経路aと経路b」、残りの「道具・材料・様態・原因・変化・内容規定」という3つのグループを図2に点線で表す。

このように助詞「lo (로)」の意味に対して類似度評価を行うことで、「lo」の意味構造を3つに分類し、空間的に位置づけることができた。これらの相互関係については次節にて考察する。

5. 考察

図1及び図2の分析結果から、韓国人母語話者に内在する助詞「lo (로)」の意味構造を考

察する。

まず、図1において「限度」のグループが、助詞「lo (로)」の他の意味と区別されていることについて考察する。「限度」の意味として調査に用いた2文を以下に再度提示する。

限度a: 다섯시로 마감한다.
tasessi-L0 makamhanta.
5時で閉店です。

限度b: 이 서류는 오늘 안으로 제출해야 한다.
i selywu-nun onul an-UL0 ceychwulhayya hanta.
この書類は今日中に退出しなければならない。

この2文のように、「限度」の用法では「lo (로)」に先行する名詞は「時」に関する名詞である。このため、朴(1997)の指摘のように、実質的には「限度」よりも下位分類である「期限の終点」を意味し、同じ「限度」でも期間や時間のような長さを持つ場合や金額の単位を表すときは「lo (로)」ではなく「ey (에)」の助詞が用いられる。韓国語の助詞「ey (에)」や日本語の助詞「に」における同様の意味類似度調査(茂木1999, 茂木2002)でも、このような「時」に関する先行名詞を区分する特徴があることから、「限度」が助詞「lo (로)」の他の意味と区分されるのは「時」の先行名詞に由来すると考えられる。

次に「経路」の意味が助詞「lo (로)」の他の意味と区分されることについて考察する。「経路」及び「変化」の意味として調査に用いた各2文を以下に再度提示する。

経路a: 산으로 가다가 호랑이를 만났다.
san-UL0 kataka holanki-lul mannassta.
山に行く途中で虎に遭った。

経路b: 도둑놈은 창문으로 들어왔다.
totwuknom-un changmwun-UL0 tulewassta
泥棒は窓から侵入した。

変化a: 물이 얼음으로 된다.
mwul-i elum-UL0 toynta
水が氷になる。

変化b: 황무지였던 곳이 큰도시로 바뀌었다.
hwangmwuciyessten kos-i khun tosi-L0 pakkwiyessta
荒地だったところが大都市に変わった。

「経路a」では、経路に加えて到達点の意味も含まれるのに対して、「経路b」では経路に加えて起点の意味も含まれる。「水が氷になる」のような「変化」の意味も終点あるいは着点の意味特徴を持つと考えられるが、「変化」との類似性が低く評価されている。それだけでなく、図2では「経路b」よりも「経路a」の方が「変化」よりも遠く離れた位置にある。故に、助詞「lo (로)」において、「限度」が含む「期限の終点」という意味特徴や、「経路a」が含む「到達点」という意味特徴は、同様に「変化」が含む意味特徴「終点あるいは着点」

と類似性が低いことから、これらの意味特徴は助詞「lo (로)」の類似度評価において強い影響を与えていないことが明らかになった。これは、日本語の「～が～になる」という構文における「～に」に相当する助詞として、「-i/ka-lo/ulo toyta (-이/가 -로/으로 되다)」のように「-lo/ulo (로/으로)」を取る場合と、「-i/ka-i/ka toyta (-이/가 -이/가 되다)」のように「-i/ka (이/가)」を取る場合があるが、母語話者の感覚では「-i/ka (이/가)」よりも「-lo/ulo (로/으로)」の方が、変化の結果というよりも変化過程をより強く意識することからも伺うことができ、助詞「lo (로)」は終点や到達点である結果そのものではなく、過程が意識されている。

これらのことから、図2の横軸において「経路」の意味が図の右側に位置するのは、「起点／着点」という意味特徴や先行する名詞の種別ではなく、「行く」「侵入する」という移動性を伴う動詞の種別に由来すると考えられる。図2の左側には移動性を伴わない動詞が位置付けられている。

以上の考察において、母語話者による「lo (로)」の意味の類似度評価の結果から、「時」を先行名詞とする「限度」の意味と、移動動詞を伴う「経路」の意味が、「lo (로)」の他の意味との類似度の低さから区分されていることがわかった。

続いて、助詞「lo (로)」の残りの意味である「道具・材料・様態・原因・変化・内容規定」の構造を考察する。図1と図2の結果を分析すると、まず「様態」の2種の意味分類が離れていることを除き、意味分類ごとにaとbのまとまりがみられる状況だといえる。

次に、このグループはさらに3つに分類することができる。1つめは「道具a bと材料a bと様態a」、2つめは「変化a bと内容規定a bと様態b」、3つめが「原因a b」である。1つめの「道具abと材料abと様態a」のグループについて考察するために「道具」「材料」「様態」の意味として調査に用いた各2文を以下に再度提示する。

道具a: 톱으로 나무를 자른다.
thop-ULO namwu-lul calunta.
のこぎりで木を切る。

道具b: 영어로 이야기 했다.
yenge-L0 iyakihayssta
英語で話した。

材料a: 빵은 밀가루로 만든다.
ppang-un milkalwu-L0 mantunta.
パンは小麦粉で作る。

材料b: 콩으로 메주를 쑈다.
khong-ULO mecwu-lul sswunta.
大豆で豆こうじを炊く。

様態a: 그녀는 웃는 얼굴로 말했다.
kunye-nun wus-nun elkwul-L0 malhayssta.
彼女は笑顔で言った。

様態b: 과자를 넷으로 나눈다.
kwaca-lul neys-ULO nanwunta.

お菓子を4つに分ける。

「様態 a」が「彼女は笑顔と一緒に（または、笑顔を使って）言った」と解釈できることから、「道具」や「材料」と同様に「（過程と一緒に用いる）付帯物」として1つのグループを作っていると考えられる。

3つめのグループは「原因 a」を考察するため、「原因」の意味として調査に用いた各2文を以下に再度提示する。

原因 a: 병으로 결근했다.
pyong-UL0 kyelkunhayssta.
病気で欠席した。

原因 b: 논문준비로 바쁘다.
khong-UL0 mecwu-lul sswunta.
論文の準備で忙しい。

3つめのグループである「原因 a b」は、因果関係から見れば「起点」と考えることができる。しかし、「材料 a」についても、日本語で「パンは小麦粉で作る」を「パンは小麦粉から作る」と言い換えることができるように「（加工過程の）起点」と考えることができるが、類似度は決して高くない。このことから、8つの意味（24文）全体を「限度」、「経路」「その他」に大きく分類した際、「起点／着点」という意味特徴が重要視されなかったことと類似している。

2つめの「変化 a bと内容規定 a bと様態 b」を考察するため、「内容規定」の意味として調査に用いた2文を以下に再度提示する。

内容規定 a: 천수는 나를 형으로 불렀다.
chenswu-nun na-lul hyeng-UL0 pwullessta.
チョンスは私を兄と呼んだ。

内容規定 b: 그가 어쩐지 아버지로 생각된다.
ku-ka occenci apeci-L0 sayngkaktoynta.
彼がなんとなく父に思える。

この「内容規定」は前述のように「発話・思考の内容を指示する部分」を意味している。これらと比較的類似度が高い「変化 a b」については、「起点／着点」という意味特徴が重要視されないという助詞「lo (로)」の特徴から考えれば、「変化の着点」ではなく、「変化後の内容を指示する」と考えることができる。「様態 b」についても同様に「今まで4つに分かれていなかったお菓子を、4つに分ける」といったように変化後の内容と考えられる。したがって、これら3つが1つのグループを作ることは容易に解釈できる。

以上のことから、韓国語母語話者による助詞「lo (로)」の意味構造として、第1に「時」を先行名詞とする「限度」の意味と、移動動詞を伴う「経路」の意味が、「lo (로)」の他の意味との類似度の低さから区分されていることがわかった。第2に、「起点／着点」という意味特徴は助詞「lo (로)」では重要視されず、過程が意識されているということがわかった。

6. おわりに

本稿では、韓国語母語話者による助詞「lo (로)」の意味類似度評価から、母語話者に内在する助詞「lo (로)」の意味構造を明らかにした。今後は調査人数を増やし、さらなる分析と検討を進める必要がある。

参考文献

- 梅田博之『スタンダード ハングル講座2 文法・語彙』, 大修館書店, 1991.
- 荻野綱男「類義性の数量化と計量意味論」, 『国語語彙史の研究』No. 10, 和泉書院, 1989, pp. 1-19.
- 任瑚彬他『外国人のための韓国語文法』, 延世大学校, 1989.
- 鈴木敏昭「多義語の構造ーサス, オチル, ヒクの場合」, 『富山大学人文学部紀要』No. 20, 1994a, pp. 23-43.
- 鈴木敏昭「実験的方法による多義語の研究」, 『言語研究』No. 106, 1994b, pp. 45-73.
- 多和田眞一郎「日本語朝鮮語対照的考察:「に」「へ」「で」との対照」, 『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』, 広島大学教育学部日本語教育学科, 1988, pp. 47-57.
- 陳満理子「現代朝鮮語のー豆格についてー単語結合論の観点からー」, 『朝鮮学報』, 1996, pp. 1-64.
- 朴在権『現代日本語・韓国語の格助詞の比較研究』, 勉誠社, 1997.
- 茂木亮輔「母語話者の類似度評価に基づいた助詞「に」の計量的意味分析」, 日本認知科学会第16回大会予稿集, 1999, pp. 733-736.
- 茂木亮輔・佐藤滋「母語話者の類似度評価に基づいた助詞「で」の計量的意味分析」, 『東北大学留学生センター紀要』No. 5, 2002, pp. 19-27.
- 茂木亮輔「母語話者の類似度評価に基いた韓国語助詞「ey」の計量的意味分析」, 言語処理学会第8回年次大会発表論文集, 2002, pp. 152-155.

「パパ」と「たあたん」 ——『ことばと文化』再考

向 井 久 幸

短大というのは大変なところで、専門性とは無関係に担当科目が決定される。たとえば、「文学」と「文化」の区別がつかないので、「生活文化」とか「日本文化」とか「文化」という二文字のついた科目は、すべて西欧文学専攻の筆者が担当することになる。仕方がないので、たいていの場合は鈴木孝夫氏の『ことばと文化』¹⁾ から適当に材料を選んでお茶を濁してきた。鈴木氏の姿勢に全面的に賛同するわけではないが、本書に限って言えば、平明で取っ付きの良いエッセーが少なくない。とりわけ、第6章「人を表わすことば」の中の「日本語の自称詞と対称詞の構造」とか「親族名称の虚構的用法」などは良い意味で図式的であり、基礎知識に乏しい者にも直感的に理解でき、言語文化の深奥をかいま見た気にさせてくれるのではないかと考え、これまで何度も授業で取りあげてきた。しかし、そのような場合には、いつも、いま一つ物足りない思いをしてきた。もう一步踏み込めば図式が完成する、たとえば言えば、一本の補助線ですべてが解決するという思いである。本稿では、その中から「日本語の自称詞と対称詞の構造」の図式を完成させるための補助線を提案したい。

最初に鈴木氏の考察を簡単にまとめておく。「現代日本語では、ヨーロッパ語に比べて数が多いとされている一人称、二人称の代名詞は、実際には余り用いられず、むしろできるだけこれを避けて、何か別のことばで会話を進めていこうとする傾向が明瞭である。」²⁾ 「別のことば」とは、親族名称、地位名称、名前などである。したがって、人称代名詞を切り離して扱うのではなく、「むしろ、親族名称、地位名称などと一括して、話し手が自分を表わすことば、および相手を示すことばという広い見地に立って、それぞれを自称詞、対称詞と呼ぶ方が適切である」³⁾。そして、このように定義された自称詞と対称詞の使用について、「親族間の対話」の場面と「社会的状況の対話」の場面に分けて調査して、二つの法則を明らかにする。

法則1 目上（上位者）と目下（下位者）という対立概念がある。

法則2 社会的状況の対話は親族間の対話のパターンの拡張とみなすことができる。

鈴木氏は、目上に対する場合と目下に対する場合の二つに分け、親族間の対話については、人称代名詞、親族名称、名前が使用できるか、使用できないかを一つ一つ具体的に検討している。⁴⁾ 同様に、社会的状況の対話については、人称代名詞、（親族間の対話における親族名称に相当する）地位名称、（親族間の対話における名前に相当する）姓の使用につい

1) 鈴木孝夫、『ことばと文化』、岩波新書、1973年。

2) 前掲書、133ページ。

3) 前掲書、134ページ。

4) 前掲書、151～153ページ。

て検討する。⁵⁾ その結果を表1—A～表4—Aで示す。

親族間の対話

自称詞

表1—A

	人称代名詞	親族名称	名前
目上に対して	(使用可)	使用不可	使用可
目下に対して	(使用可)	使用可	使用不可

対称詞

表2—A

	人称代名詞	親族名称	名前
目上に対して	使用不可	使用可	使用不可
目下に対して	使用可	使用不可	使用可

社会的状況の対話

自称詞

表3—A

	人称代名詞	地位名称	姓
目上に対して	(使用可)	使用不可	使用可
目下に対して	(使用可)	使用可	使用不可

対称詞

表4—A

	人称代名詞	地位名称	姓
目上に対して	使用不可	使用可	使用不可
目下に対して	使用可	使用不可	使用可

表1—Aと表3—Aの人称代名詞の項目以外では、法則1が成立していることがわかる。また、親族間の対話における使用可と使用不可のパターンと社会的状況の対話におけるそれが同一であることから、法則2が成立していることもわかる。問題となるのは、人称代名詞を自称詞として使用する場合である。どちらの対話の場面でも、目上と目下の両方に対して使用できるのである。一つ一つを具体的に検討しながらも、この項目に関しては、鈴木氏はなぜか言及していない。⁶⁾ 物足りない思いをしてきたのは、この箇所である。この項目に言及することで法則性に歪みが生ずるのを恐れているわけではないだろうが、何らかの説明があっても良かったのではないだろうか。

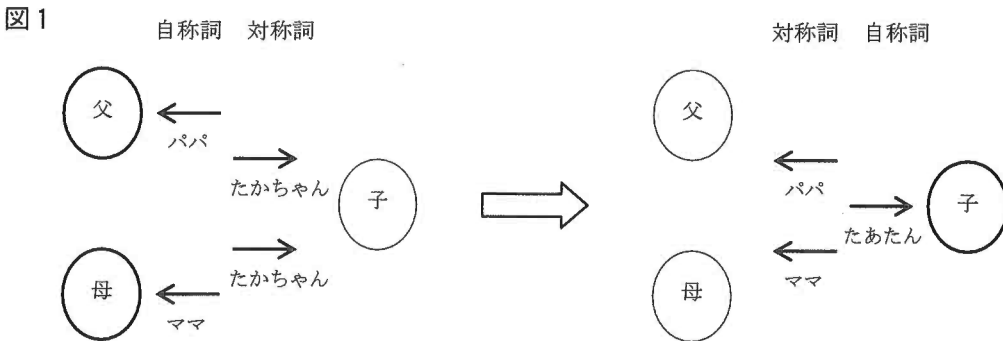
そこで補助線の提案である。鈴木氏は親族間の対話と社会的状況の対話という二つの場面を設定して、後者は前者の拡張であると述べているが、ここでは、その前段階に「親子間の対話」という場面を設定して、その延長に親族間の対話があると考える。

⁵⁾ 前掲書、155～158ページ。

⁶⁾ 「(使用可)」は筆者が補足したものである。

筆者自身の経験に基づいた具体的な事例を提示する。ただし、親と子の原初的な環境での対話を考察するため、祖父、祖母、兄弟、姉妹などの要素は捨象する。

父・母は、子に話しかけると、子を「たかちゃん」と呼び、自分のことを「パパ」・「ママ」と称していた。子は、父・母を「パパ」・「ママ」と呼び、自分のことを「たあたん」と称していた。すなわち、子との対話において、父・母は自称詞には親族名称を、対称詞には名前を使用する。どちらの場合にも人称代名詞を使用することはない。他方、子のほうは次のようになる。「母語」ということばが示すように、ことばを最初に学ぶのは父・母からである。父・母から「たかちゃん」と呼ばれる子は、自分は「たかちゃん」と考え、自分のことを「たかちゃん」と言おうとして「たあたん」になる。そして、「パパ」・「ママ」と自称する父・母に話しかけると、相手を「パパ」・「ママ」と呼ぶことになる。父・母から人称代名詞を耳にすることがないから、子が人称代名詞を使用することはない。図1に示すように、父・母の自称詞と対称詞をそのまま引きとって、それぞれを自らの対称詞と自称詞に採用する。「親子間の対話」における自称詞と対称詞の使用パターンを前掲の表に倣って示せば、表Ⅰ—A～表Ⅱ—Aになる。



親子間の対話

自称詞

表Ⅰ—A

	人称代名詞	親族名称	名前
目上に対して	—	使用不可	使用可
目下に対して	—	使用可	使用不可

対称詞

表Ⅱ—A

	人称代名詞	親族名称	名前
目上に対して	—	使用可	使用不可
目下に対して	—	使用不可	使用可

このように、原初的な環境での対話では人称代名詞が使用されることはないが、やがて社会との接触が始まり、人称代名詞を習得することになる。最初は兄・姉など家族から、行動の場が広がると、他人からも学ぶようになる。遅くとも保育所や幼稚園に通うころには、人

称代名詞というものが存在することを知り、その使用が始まる。決定的なのは、小学校以降の公教育による人称代名詞、とりわけ一人称代名詞の使用の強要である。こうして、人称代名詞が加わった自称詞と対称詞の構造が生まれる。要するに、原型としての「親子間の対話」では、名前と親族名称で事足りていた自称詞と対称詞の使用パターンに、社会的強制によって人称代名詞が加わり、鈴木氏の言う自称詞と対称詞の構造が生まれるのである。原型は「親子間の対話」であり、親族間の対話と社会的状況の対話のパターンは、それに人称代名詞の使用パターンが付加されたものにすぎない。したがって、表Ⅰ—A～表Ⅱ—Aと表Ⅰ—A～表Ⅳ—Aは、表Ⅰ—B～表Ⅱ—Bと表Ⅰ—B～表Ⅳ—Bに組み替えるほうが適切だろう。

親子間の対話

自称詞	表Ⅰ—B	
	親族名称	名前
目上に対して	使用不可	使用可
目下に対して	使用可	使用不可

対称詞	表Ⅱ—B	
	親族名称	名前
目上に対して	使用可	使用不可
目下に対して	使用不可	使用可

親族間の対話

自称詞	表Ⅰ—B	
	親族名称	名前
目上に対して	使用不可	使用可
目下に対して	使用可	使用不可

+

人称代名詞
使用可
使用可

対称詞	表Ⅱ—B	
	親族名称	名前
目上に対して	使用可	使用不可
目下に対して	使用不可	使用可

+

人称代名詞
使用不可
使用可

社会的状況の対話

自称詞	表Ⅲ—B	
	地位名称	姓
目上に対して	使用不可	使用可
目下に対して	使用可	使用不可

+

人称代名詞
使用可
使用可

対称詞

表 4—B

	地位名称	姓		人称代名詞
目上に対して	使用可	使用不可	+	使用不可
目下に対して	使用不可	使用可		使用可

しかしながら、これはあくまでも筆者による仮説であり、実証する機会もなく、また、その意図もないまま、長らく放置してきた。ところが、近年、勤務校において配置換えにより幼児教育学科所属となり、保育専攻の学生や保育関係者と接する機会が多くなり、この仮説に確信をもつにいたった。

彼らから得られた情報に基づき、保育所および幼稚園での自称詞と対称詞の使用実態を次に示す。⁷⁾

(1) 3歳児くらいまでは男女ともに自称詞として名前を使用する子どもが圧倒的に多い。しかし、4～5歳児では人称代名詞を使用する子どもが増えてくる。男女別では、男子のほうが人称代名詞を使用する比率が高い。名前は、本名ではなく愛称型・縮小型、すなわち「たかちゃん」のタイプの使用が一般的である。

(2) 子ども同士の間では自称詞に人称代名詞を使っている、保育者と話す場合は名前を使用するケースがある。

(3) 子ども同士の間での対称詞は、(1)と同様、名前を使用する子どもが多いが、4～5歳児では人称代名詞を使用するケースも見られる。

(4) 保育者に対する対称詞は、「先生」を単独で、あるいは名前をつけて使用する。保育者自身が「先生」と自称するからである。なお、半日だけの見学実習では「おにいちゃん」・「おねえちゃん」と呼ばれるという保育学生の証言がある。

(5) 幼稚園についてはいざ知らず、保育所では、自称詞として一人称代名詞が強要されることはない。

繰り返しになるが、多くの子どもが保育所や幼稚園の時期に一人称代名詞の使用を開始することがわかる。また、(4)から、この時期に初めての社会的状況の対話を体験することがわかる。そして、家庭ではすでに親族間の対話が成立していることも推測できる。協道にそれるが、興味深いのは(2)である。鈴木氏は、親族名称の虚構的用法が子どもへの「共感的同一化」、すなわち、年長者の側からの年少者の立場への歩みよりであると指摘している。⁸⁾ この場合は、逆に、名前を使用することで、年少者の側が年長者との距離を縮めようとしていると言えることができるだろう。⁹⁾

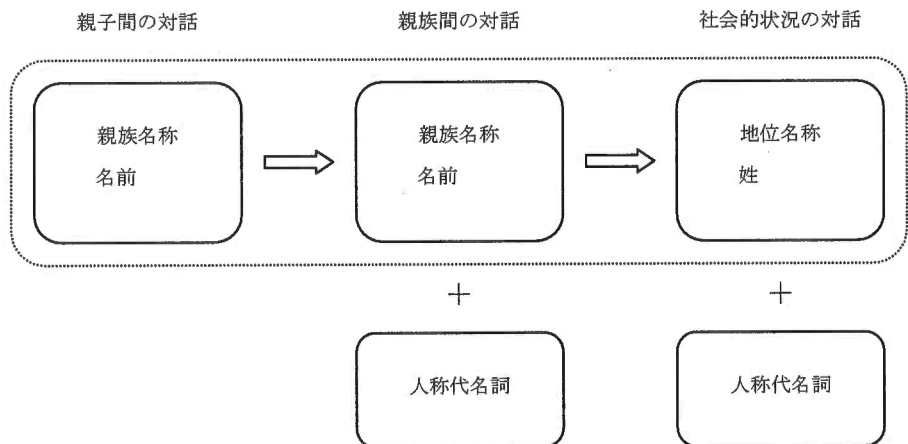
7) 筆者の授業において鈴木氏の論旨を充分に理解した学生に対して、学外実習に出向く際に、自称詞と対称詞の使用に留意するように依頼し、実習後に聞き取り調査をした。それに加えて、他の学生や保育関係者から教示された事例、および筆者自身が目撃した事例を補足している。

8) 前掲書、168 ページ。

9) 自称詞に名前が使用される場合、また、対称詞に親族名称が使用される場合には、何らかの感情の表明が意図されていることが多い。筆者の家庭では、姉と弟の間で相互に名前呼びあうように仕向けたが、弟は「ねえねえ」を押し通した。相手の位置を確定して、安定した関係に身を委ねたいという気持の表れであると思われる。

以上の考察を踏まえて「日本語の自称詞と対称詞の構造」の図式を完成させたものが、図2である。ここで、人称代名詞について簡単に触れておきたい。鈴木氏も指摘しているように、人称代名詞は明治以後に導入された概念である。¹⁰⁾ 日本語における人称代名詞は、西欧語のような一貫した体系をもつものではなく、西欧語の文法に倣って、人称代名詞に相当するとみなされる語を、仮に、そのような名称で呼んでいるにすぎない。それゆえ、西欧語では人称代名詞の普遍的な使用が可能であるにもかかわらず、日本語の場合には、上位者に対しては人称代名詞を使用しないというような制約が存在するのである。¹¹⁾ 先に挙げた二つの法則のうち、法則1は人称代名詞については成立しない。法則2についても、このように、歴史的な経緯により使用パターンが確立しているのであるから、人称代名詞については、親族間の対話のパターンの拡張が社会的状況の対話であるとはいいがたい。人称代名詞を付加されたものであると位置づけることによって、ようやく法則性に生ずる歪みを解消することができるのである。

図2



¹⁰⁾ 前掲書, 130 ページ。

¹¹⁾ 古来、貴人に対する呼称として地位名称を使用してきたことからわかるように、日本語では上位者を直接に指し示すことはタブーであった。

霊能者ドリス・コリンズの霊視・霊的治療とその人生観

The Psychic Dollis Collins' Clairvoyance and Healing, and her View of Life

渡 部 英 機

Hideki WATANABE

はじめに

著者は、これまでインドの聖者で霊能者(あるいは超能力者)でアバター(神の化身)であると尊崇されているサティヤ・サイババ、パラマハンサ・ヨガナンダ師、日本国内で名高かった霊能者宜保愛子女史、吉田綾夫人(日本心霊科学協会専属霊能者)その他の霊能力、その説く教え、人生観等について報告してきたが、今回は、イギリス生まれで、住所もイギリスであるが、50年以上に亘って世界15カ国以上の国々を毎年のように訪問し、その霊能力(特に霊視と霊的治療)を力強く発揮して、公開集会(デモンストレーション)と個人相談を行なうて、世界中の人々の病気を治したり助言することなどによって人類に貢献してきた、ドリス・コリンズ夫人について、報告する。

1. 生い立ち(霊能者になるまでの成長過程)

- 1) 5・6才頃、叔母の家の庭で遊んでいて、コニーという名の女兒に会って遊んだが、彼女が叔母に、「コニーはどうして家に入らないの?」とたずねると、叔母はびっくりした。コニーは数年前に亡くなっていたからだだった。「コニーは亡くなったのよ」と叔母は答えた。「でも、コニーは私と話したよ」と、彼女は言った。この時、彼女は、自分が死者と会ったことに、初めて気付いた。
- 2) 8才の時、他人の内心が読めた。例えば、子供たちがお祈りをしている時、それが見せかけだけのものか真実の祈りであるかが直感的に分かった。
- 3) 12才頃のこゝと、自宅の1階にいた時に頭のどこかで声が聞こえた。その声の指示に従って、2階でピアノを弾いていた姉リリーに下に降りてくるように声をかけた。姉が下に降りた頃、突然大きな音がした。2階のピアノのある部屋の天井が落ちた音だった。彼女は声の指示に素直に従ったことで、姉の命を救ったのだった。この時から彼女は、いかなるメッセージ(伝言)の声も無視してはならないという教訓を、肝に命じるようになった。
- 4) 姉エミーの死後およそ3年して、彼女が16才のある日の夕方、誰も歩いていない道で、誰かに軽く肩を叩かれて振り向くと、燃えている火があり(所謂人魂)、その中に輪郭のはっきりした亡き姉の顔と頭髪を見、「こわがらないで、ドリス。私よ、エミーよ」と声をかけられた。姉は彼女よりずっと年上で、その死因は結核症だった。彼女はびっ

くりして、家に走って帰り、両親にこのことを話した。両親は娘は幻を見たのだと考えて、医者に見せた。父親は彼女に亡き姉の話をしないよう命じた。しかし、母親は彼女の言うことを信じると言った。

- 5) 彼女はある日スピリッチャリスト教会に行った。霊的奉仕(交霊会のようなもの)が行なわれ、演壇(プラットホーム)の女性(霊能者)は彼女の方にくると、「あなたの姉のエミーがここに来ています」と言った。「彼女は、あなたをびっくりさせたが、お父さんに、メッセージを伝えてほしい、と言っています」と続け、「私がしたことをどうか許して下さい。私はお父さんが正しかったことがわかりました」とエミーは言っています」と告げた。彼女がこのことを父親に話すと、父親は「どこで、そのメッセージを得たのか？」ときいた。そして、次の日曜日、両親と彼女はその教会に行った。そこで父親はどのような情報を得たのか分からないが、その後、父親は彼女の言うことを信じるようになった。その日から、彼女は自分の霊能力を養成することを始めた。即ち、一人で座って瞑想を行なうようになった。
- 6) この後、姉エミーを見る(霊視する)ようになった。このことを友人のマルシアに話し、マルシアの勧めでその母親マルシア・クラスパー夫人に会った。夫人は、ドリスが霊能力をもっていると言い、その正しい使い方を助言した。また、彼女の未来を予言し、「あなたは、この才能を用いて働くようになります。あなたは大きなヒーリング(霊的治療)力をもっている。あなたは世界中を巡るでしょう」と話した。彼女は、自分が人々を助けることができるという人生の目的をもっていると感じた。
- 7) 21才(1918年生まれ)で両親の反対を押し切って、16才年上のジャックと結婚し、1940年に長男ブライアンが生まれた。この時、彼女は出産を直感的に感じ取り、病院に急行して無事出産した。
- 8) 息子ブライアンの出産後、彼女はスピリッチャル ヒーラー(霊的治療者)として、成長を始めた。医者さえ彼女の治療を求めてくるようになった。
- 9) 結婚してから5年間、彼女は霊的興味からウッドフォードWoodfordのスピリッチャリスト教会に通ったり、他の霊的サークルに行き、祈りや瞑想の仕方を習った。このような会で、ある時、彼女は眠くなった。目を覚ました時、自分がトランス(無意識状態)になっていて、姉エミーが彼女を通して、「私はここにもう来ません。後日特別な能力を使って、世界中を巡るでしょう」と話したことを、知らされた。
- 10) 父親は1942年に心臓発作のため63才で亡くなった。母親は1949年に78才で亡くなったが、亡くなる前、亡き兄がベッドの側に来ていた、と見舞った彼女に話した。この話などから、彼女は自分の霊能力を母親から受け継いでいると感じている。

2. 霊視能力・霊聴能力を用いた活動等

- 1) 初期の、トランス状態に入っていた場合は、完全に自分意識を失った状態になっていて、別の霊が彼女に代わって声を出し、その顔や容貌も全く変化し、例えば、彼女の母親が側にいるようだった(彼女の夫の話によれば)。その様子も、母親の服装をしているかのようにだった(注:トランス状態は、他者に自分の心を譲り渡すことになるので、危険であるとされている)。その後、トランス状態にならずに、軽い精神統一状態で霊能力を

- 発揮し、同程度の結果を得ることができるようになった。
- 2) 息子ブライアンは先天的な疾患(代謝疾患)をもっており、食事制限が必要であったが、彼が13才の時、彼女は不図彼の首に触りたい気持ちになって、そうした。それまでは、彼をヒーリングしようと思ったことはなかった。すると、彼の首がひどく腫れあがった。医者は診断して、腺性熱であり、白血病かもしれない、と言った。彼女は非常にあわてたが、ベッドの息子と話した直後声が聞こえ、その声は「息子は白血病ではないし、致命的な病気ではない」と言った。その後、息子は元気になり、今日に至っている。この時神に祈った約束を守って、彼女は病人を治療している。そして、これが彼女の生涯の最も重要な活動となった。
 - 3) 1954年に離婚し、1956年にリチャード・コリンズと再婚した後、彼女はドリス・コリンズとして、霊能者としての活動が活発になった。
 - 4) ロンドンのベルグレイブ スクエアにあるスピリッチャリスト協会本部の専属霊能者としてと霊的講習会の教師として務め、協会から給料をもらって4年間働いた。この間、協会の最高の霊能者ノラ・ブラックウッドが亡くなり、代わって彼女が公開集会でデモンストレーション(霊能実演)を行なうことになった注目すべき霊的体験がある。彼女はこう述べている。「その日、私には公的集会の予定はなく、演壇に出ないで、相談だけする予定だった。私は家で青色のスーツを着ようとしていて、突然ノラの姿を見た。それは霊的イメージだった。ノラは『そのスーツを脱ぎなさい。あなたは私の公開集会上でズボンスーツで出るつもりではないでしょうね』と言った。その印象は強かったので、私は衣服を着替えて協会に出かけていった」協会で、彼女はノラが昨夜亡くなったことを知らされた。彼女がノラの霊姿を見た時、ノラは既に死んでいたのだった。そして、ノラの言葉通り、彼女はノラの担当予定の公開集会上を代わって行なった。この時のことを彼女はよく覚えていないが、頭に浮かんだことを夢中で観衆に告げただけだった。しかし、彼女が発した日時や場所の名は、当を得た回答であったことを、後日、観衆だった人達から知らされた。
 - 5) その後、ウッドフォードのスピリッチャリスト教会で、一人で公開集会上を受け持つよう頼まれた。その日、彼女は目を閉じて祈った。それから目を開けると、亡き父親が前に立っており、穏やかに励まし、「お前は、お前だけでいるのではない。必要な全ての助けが得られるだろう。お前は一人でこの仕事をするのではない。多くの人がそこにいて、お前が求めるなら、助けようとしているのだよ」と話した。途端に、彼女は気持ちが高揚し、失敗しないと感じた。皆は、彼女の初めてのデモンストレーションは成功だった、と話した。そして、数年後には、彼女はアルバートホールでデモンストレーションを2度行った。こうして、彼女の活動は、世界中を回って公開集会上と個人相談をするものとなって行った。
 - 6) ニューヨークでは、彼女の霊能に疑いを抱いているアラン・パーク氏が訪ねてきた。彼女が霊視能力を使って、彼自身と彼の家族のことを多く話すと、氏はびっくりし、彼女が本物であることを認めた。氏と一緒にカメラマン達がこの一部始終を撮影し、後日、テレビで放映した。彼女は一躍広く知られるようになった。
 - 7) ハル・ジャックというジャーナリストの場合、彼女は彼にメッセージを伝えた。それは、彼が6才頃ロンドンで住んでいた家の状況を霊視したものだった。彼はその後米国

に移住してきていた。50年以上前のことを、彼女は彼に思い出させて驚かせ、信濃性を高めた。

- 8) ドイツの作家カール・メイの生涯の映画の制作に協力し、彼の生涯を霊視して、未知の部分明らかにして、製作者を喜ばせた。
- 9) ロサンゼルスで公開霊視をラジオを通して行なった時、その番組は1時間以上続き、電話で相談する人達に助言を与えた。彼女は相談者から何も言われなくとも、その人の健康状態を言いあてることができ、遠隔治療を行なった。その場合、その人達は、突然体の1部に熱を感じ、痛みが消えることが度々だった。
- 10) 殺人現場を霊視した場合:オーストラリアで女性ジャーナリストと話していると、婦人霊が現われて名を告げ、「ジャーナリストの叔母であり、私はあなたの国(英国)に住んでいて、殺されました。それは6年前のことで、買物に行って戻ると、家の前に2人の男がいて、鉄棒と斧で殺され、夫が戻ってくるまで、そのままになっていました」と物語った。女性は大変驚いた。ドリス夫人が彼女の母親に会った時には、その叔母は更に詳しい内容を、夫人に伝えた。この後、夫人がロンドンに帰った時、刑事が問い合せてきた。この時にも、その叔母の声が聞こえた。夫人は刑事の依頼で、再度、殺人の起こった状況やその家の描写を霊視によって行なった。しかしその事件がその後どうなったか、夫人は知らないし、関心もない。
- 11) 米国での事件の場合:ボストンでラジオ電話サービス番組に出演中に、ある女性が電話で、2カ月前に行方不明になった息子に何が起こったのか、尋ねた。夫人は即座に、どこかの水辺近くの茂みに横たわっている死人の非常に詳細な状態を、霊視で受け取った。夫人は女性に、息子が亡くなっていると告げた。その後、女性は夫人に個人的に会った。その時、夫人は数人の男が息子の頭を叩き、車から引き出して、叢を引きずって行った状況を霊視し、伝えた。1週間後、死体は見つかった。その後この犯罪が解決したかどうか、夫人は知らない。
- 12) ニュージーランドでの事件の場合:ラジオ番組に出演中、彼女は電話で、「私の夫は誰かを殺したのでしょうか?」と聞かれた。彼女は心をそのことに適応させ、何かが来るのを待った。彼女は、ある男の非常に鮮明な姿を受け取った。彼女がそれを描写すると、聞き手はびっくりし、それはその人の夫であると言った。彼女はその人の言葉をささげって、夫は無実であると言った。しかし、彼女はその理由を説明できなかった。このことは新聞記事に載った。彼女は、有罪とされている男は単純な心の持ち主で、その殺人を計画したり、死体を運ぶ企みをしないと話した。また、「別の女性」が事件に関わっているとも話した。その後、その人の夫は無罪を宣告された。

3. 霊的治療(ヒーリング)の場合

- 1) ヒーリングの仕方について: (1)直接手を当てる; (2)遠隔治療(遠く離れている状態で念を凝らす); (3)電話での治療; (4)ラジオ番組での場合は、番組を聞いている全ての人に対してエネルギーが行き、病気が治ることがあった。

(1)の場合、夫人は導かれていると感じるところを手で触る。夫人は最初患者の両手をもつことから始める。このことで、患者はリラックスするからである。それから、直感

の命じるままに、手を触れてゆく。しかし夫人は、患者がどれくらいよくなったかは、分からない。夫人は自分の右手からパワー（エネルギー）が出ているのを感じる。稀には、左手の力も感じる。患者に手を触れると、ある種の電流が、右手と患者との間に流れるのを感じる。夫人は巨大な熱や冷たさを感じる。夫人は、自分の霊視とヒーリングは結びついており、分けることはできない、と言っている。即ち、誰かが助けを求めてきた場合、夫人は霊能者としてヒーリングを与えたり、心に浮かぶ助言を与えるのである。

- 2) 聾の男性を公開集会でだんだん聞こえるようにした。
- 3) ニュージーランドで、運動選手ジョニー・ウォーカーに会った時、夫人は「あなたは膝が痛いですね」と言った。その若者は数週間トレーニングができない状態で、医者 の助言も効果がなかったのだった。夫人は彼の膝と腰に手を当てた。彼は全身を震わせた。数分後、彼は痛みがなくなったと言って、ジャンプしたり、体を動かした。その後、痛みは振り返さなかった。若者がモントリオールのオリンピックで金メダルを獲得したことを、夫人はその後英国の自宅で夫から聞いた。
- 4) ニュージーランドのゴルファーは、夫人の公開集会での治療を求めた。その時夫人は集会で彼を選ぶことを約束できなかった。しかし都合よく、集会で夫人が選んだ人達の中に彼が入っていた。彼の名はロス・ニューディックで、背中と片方の脚が悪く、クラブが振れなかった。夫人がヒーリングを与えて、「あなたの手にクラブがあると思って、ボールを打ってみなさい」と言った。彼は用心しながら、そして難なくその動きをした。彼は興奮して飛び上がり、全く痛みがなくなり、体の調子がよくなった、と言った。これは広く公表されたことである。
- 5) 胸部に癌をもった女優アン・ボルクの場合：彼女は外科手術を望まず夫人に治療を求めた。数回のヒーリングで胸のしこりはなくなった。1年後、他方の胸に固まりができた。ヒーリングして、それは消えた。

4. 予言を伴う助言の例

- 1) アンティア・レッドヘンはブルース・フォーシスと結婚していたが、子供ができないので離婚したいと、夫人に相談した。夫人は「子供はできるが、養子をする大きな慰安になる」と養子をすることも助言した。彼女は女の赤子を養子にし、数カ月後、女兒を出産した。
- 2) 公開集会で、最前列の若者に、「あなたはオーストラリアから来ています。側の娘さんはあなたと結びついています」と言った。若者は、娘とは外で初めて会ったばかりですと答えたが、2年後、電話で、2人は結婚することになったと知らせてきた。

5. 特別な体験

- 1) 1980年、フィンランドに公開集会に行った時、ヘルシンキからラブランドに行った。ロヴァニウム Rovaniemi のホテルの部屋で、休息のため横になってうとうとしていると、ぺちやぺちやお喋りする声が聞こえてきた。夫人が眠っていると思って、調べているらしかった。薄目をあけてみると、ベッドの高さほどの背の低い小人達が数多くいて、夫人

のベッドに登ったり枕を押したり、毛布の中に潜り込んだりしていた。彼らの意図は、夫人をよく調べることであった。やがて、彼らは不意にいなくなり、お喋り声は止んだ。後で、ある男性と話した時、トロウル(troll)と言われる小人のラブランド人の存在が、伝説にあることが分かった。

- 2) 1947年、夫人はブラック ボックスを透視によって調べることを依頼された。夫人は死んでいる邪悪な男の姿を霊視した。彼はセックスに強く執着し、催眠術的な目をもち、人々に異常な影響を及ぼしたことが分かった。彼は人々の健康に影響を及ぼしたばかりでなく、彼に反対する人達の何人かを破滅させた。この男はある種の宗教に繋がっており、儀式的衣裳を着けており、従者達は彼を聖者であるとみなしていた。彼は個室に籠もって「黒魔術」の儀式を行っていた。その箱の中には、黒魔術その他に関する彼の著書が入っていた。夫人はそれをはっきり透視によって見た。その他何か分からない美しい色彩のものを見た。夫人は幾つかの心を乱すメッセージを受け取り始めた。世捨て人として死んだその男は、その箱が開かれるのを望まないと言った。彼は中身が破壊されることを望んだ。彼は人が何かの意向で箱を開いたら、病気になるか事故に遭うだろうと言いつつ、箱を開けようとする人を打ち倒してやると言った。彼は夫人に、自分は悪魔に魂を売り渡していると話した。夫人が話したことはトム・ヨハンソンによって記録された。その箱(小さなトランク)は出版者コリン・スミス氏の所有となっていた。曾てその箱は「サンディ・ミラー」誌が「邪悪な大司教」と呼んだ人物の所有だった。しかし、彼はどんな教会にも属しておらず、大司教でもなかった。曾て、その箱を開いた2人の男は、重大な事故に遭った。2人のジャーナリストはその箱を調べていて、激しい頭痛に襲われた。その箱が部屋にあるだけで、頭痛やめまいや憂鬱な気分になるという噂があった。

夫人が死者から受け取った警告にも拘らず、その箱は開けられることになった。箱はコリン・スミス氏の事務所の中央に置かれた。開く役はトム・ヨハンソンだった。彼は、ゴム手袋をして、それを行なった。そして、中身を調べる役の夫人にも、ゴム手袋を着けるよう主張した。蓋が開けられた時、夫人は渦巻きが起こった感じをもった。その場の他の人達はめまいを感じたと報告し、1人の観察者は頭の後ろに鋭い痛みを感じたと言った。夫人が中を見ると、数冊の本とノートと書類、図面、写真があった。1番下には、封筒があり、その中には明るい色の襷が入っていた。この「邪悪の箱」を開けた時、軽いめまいや頭痛の他は何も起こらなかった。しかし、夫人の見たところ、その箱には、確かに邪悪で不健康なものが染み付いていた。

- 3) 蟹女(crab lady)の場合:夫人が公開集會を南アフリカのヨハネスブルグで行なった時のこと、蟹女は会場の通路を演壇の方へ横歩きで連れてこられ、最前列の席に座らされた。夫人が思念を凝らすと、何か非常に奇妙な気持ちを感じとった。何か非常に邪悪なものが、この女性に関わっていた。夫人は彼女のオーラを見てひどく心配になり、演壇で彼女に治療を施すことを断り、集會が終わってから治療を試みることにした。集會が終わって観衆が会場を出始めた時、夫人は演壇からおりてその女性に近付いた。通常、夫人は治療の時何も聞かないが、この場合は、何か女性の状態について知る必要があると感じた。そして多くの話を聞いた。夫人はいつものやり方でヒーリングを始めた。女性は中年の白人だった。夫人が両手で彼女の手をもつと、彼女は立ち上がった。すぐ

に夫人は、最初に彼女を見た時よりもずっと強力な邪悪があることを直感した。その女性から放射される強い邪悪の印象のため、夫人は曾てこの国の呪術師の話を聞いた時、アルコールが呪術の防御になると話されたことを思い出し、アルコールを求め、近くの婦人が差し出した小瓶の香水を手振り掛け、再び蟹女の手をもった。女性は狂暴になり、夫人を蹴り始めた。その口からはズルー語が発せられ、それは女も理解できない言葉だった。夫人は女性の中に悪霊がいることを知った。「この女性から出て行きなさい」と夫人は霊に命じた。女性は藻掻き続け、夫人の手から逃れようとしたが、夫人は手を離さなかった。女性はくずおれて床に長く伸びた。夫人は女性が死んだと思って心配した。しかし、やがて女性は目を開き、夫人に頬笑んだ。彼女は立ち上がり、「ありがとう」と言った。夫人が歩いてみるように言うと、彼女は真っすぐ歩き、もう横歩きはしなかった。後で彼女が物語ったところによると、彼女は2人の息子をもった男性と結婚して農業をし、幸せな生活だった。突然、夫が死亡し、息子達は彼女が夫に毒を盛ったせいだと恨み、当局に死体の再調査を依頼したが、死体は自然死であると判明した。継息子達は尚も彼女を恨み、呪術師に頼んだせいで、彼女は体調が悪くなり、ついに蟹のような歩き方をするようになったが、医者はどうすることもできなかったのだった。2年後、夫人は手紙によって、彼女の症状がぶり返していないことを知った。これは邪悪な呪いによって不幸にされた1例である。

4) フィリピンの心霊外科手術体験: この手術では故トニー・アグバオアが最も名高いが、夫人はフィリピンのロミーとジョー・ボゴリン兄弟に心霊外科手術の調査と治療体験のために会い、手術中の写真撮影も認められた。夫人は胸に不快感があり、脚の静脈も気になっていたからだった。約束のホテルに行くと、ロミーはすぐに夫人の治療に取り掛かった。彼は夫人の両手に触ってから、首が悪いと感じる、と言った。夫人は数年前トリニダードでの車の事故で首の後ろが少し悪かった。次に何が起こったか夫人は知らないが、何の痛みもなく、めまいを感じただけで、彼が血の付いたものをボウルに投げ入れたのを、かすかに覚えていた。元看護婦長で夫人の友人マージョリの話では、彼は夫人の首の背後を開き、血の塊のようなものを取り出したという。彼はただ指を走らせただけで、首の背後が開いたのだった。この後、夫人は体全体に一般的なヒーリングを施された。首の後ろは2日間痛かったが、その後は非常によかった。次の日はマージョリの番で、夫人が観察した。彼は両手で祈り何事か言った。それから素早く彼女の胸を触った。彼は胸を切り開き、何か組織を取り除いた。彼は夫人に、友人の体を開いてみるかと言い、夫人の指の1本をもって祈るような仕草を空中でしてから、夫人の指をマージョリの体の上で胃の下方へと進めた。彼女の体は、夫人の指が触ったせいで開いたようだった。彼は夫人に「それを引き出しなさい。汚物を全部引き出しなさい」と命じ、夫人の手は何かをもった。「それを容器に投げ入れなさい」と彼は命じた。後で、マージョリは、何かが引っ張り出されるのを感じたと話した。「では、体を閉じましょう」と彼は言って、夫人の両手を、開いた体の部分に置いた。突然、それは再び閉じた。夫人はロミー・ボゴリンや他の心霊外科手術が本物であると確信した。

5) スイスでの奇妙な体験: 約束していた夫婦と会った時、霊界から彼らの娘が出てきて、先週、山の事故で亡くなった、と話した。夫婦に告げると、その娘は2日前に埋葬されたと話した。娘はガイドの指導で岩登りの訓練中、危険と思わないで救命ロープを着け

ていなかったの、事故で亡くなったのだった。娘は、妹が近いうちにクライムをするだろうが、その時には必ずロープを着けなければならない、と話した。夫人は仕事の時、十字架をテーブルに置くことにしているが、この夫妻が立ち去った時、十字架がなくなっていた。そして、十分に部屋中を探したが見つからなかった。その内突然、十字架は再びテーブルの元あった場所に再物質化した。しかし乍ら、その周りには白い綿が絡まっていた。その後この奇妙な十字架の理由がわかった。綿は亡き娘が体に縛り付けるべきだったロープのシンボルであり、これは彼女の妹がクライムする時は必ずこのようにロープを着けるべきことを強調するメッセージであると思われた。

- 6) 生まれ変わりの実感：1981年死海を訪問して、マサダ(2000年以上前にローマ軍に攻められたユダヤ人達が大量自殺した砦の跡地)に行った時、夫人は戦争の野営地のようなものを霊視した。至る所に戦車と戦士達がいた。大きな騒動を聞いた(霊聴した)。廃墟を歩いていると、以前ここにいたという非常に強い確信をもった。2度目にイスラエルを訪問した時には、イエスと同時代にパレスチナか中東のどこかに生きていたという強い確信をもった。
- 7) UFO体験：1982年スイスにいた時、チューリッヒ湖でフレッドとシルビア・ペスタロッチ夫妻の客人となった。夕食後、夫妻の娘の車で走っていると、何か黒い影が車の上にかかった。その後まもなく夫人たちは家に戻って、フレッドは車を車庫に入れた。家の方へと歩いていた時、ある物体が夫人たちの上空に現われた。そして、それは目の前で消え去った。3人皆がそれを見た。それは前部に明るい光をもっており、円盤というよりも葉巻型だった。それはあたかも非物質化したように、瞬時に、消え去った。

6. 夫人の背後霊

夫人は若い頃に姉エミーを霊視して以来、姉が守り導いていることを知っている。物理霊媒ウィリアム・オルセンの会に出た時、声が「私は娘と話をしたい」と言い、「私はジョージ・キャンベル・クーパーである」と名乗った。更に、「私はお前の息子と一緒にいる。彼はお前と話したがっている」と言った。夫人はこの時息子を亡くしたばかりだった。息子は生まれて16時間で亡くなったのだった。その時、赤子が夫人の膝に上がってきて、首に抱きつくのを感じた。これらの霊界の人達は、夫人の肉親の背後霊である。他方、夫人は霊的活動を助力してくれる霊達のことを知っている。その1人はズールー人で、ヒーリングで大きな手助けをしている。彼は大男で、夫人に途方も無い力を与えている。特に、初期の活動で、トランス状態の時には、そうだった。彼は「ヴルとかヴラ モンバ」と言って挨拶した。その後、夫人が南アフリカのズールー人に接して、「ヴラ」とは「開く」という意味で、「モンバ」とは彼の名であるらしく、従って「ヴラ モンバ」は「モンバがあなたと活動できるように、あなたの心を開きなさい」という意味のようであると分かった。中国人チャン ルンChan Lungは夫人が霊視能力者と霊的教師として働く場合に、手助けしている。彼は40才代の丸顔で、ユーモアがあり、いつも黒い帽子を被っている。もう1人のガイド(背後霊)は、ヒーリングしている時に手助けしている。彼はドイツ人医者のカール・クラインCarl Kleinである。夫人が20才代半ばの頃、カリフォルニアの霊能者ジョージ・ディスレイの会に出席した時、ジョージは、「私はこの女性のためにきました」と言っ

て、夫人を指差し、「彼女と一緒に活動する医者からメッセージがあります」と言った。その医者は彼を使っているが、夫人と一緒に働きたいと告げ、「あなたは神の仕事をして、世界中をまわるだろう」と話した。その後、夫人がトランス状態の時、夫人の口を借りて、彼はドイツ人で、ナチに協力することを拒否したために苦しめられたと語った。夫人が調べると、ナチ強制収容所に彼の名があった。それ以来、夫人は彼を度々霊視しているし、ヒーリングの時には、彼の存在を度々感じるという。

7. ドリス・コリンズの人生観：

夫人は霊的素質のせいで死後生、つまり死者は霊界で生きていることを知っている。夫人の父親や姉エミー、生後すぐに亡くなった息子のジョンが、夫人の前に霊的集会で現われたこともある。夫人は助言やヒーリングを求めてくる人達に関わりのある霊界の人達と接触しているので、人は死んでも肉体をもたない状態で生きていることが、彼女には全く明らかなことである。また、夫人は、守り助け導いてくれるガイド達がいることを、確信している。夫人は、生まれ変わりを信じている。マサダでの体験や人に会ったとき、前世で会ったことがあるとを感じるからである。夫人は、人を助けるためにこの世に生まれてきたと感じており、神の力を授かっているのは、それを用いて人々を助けるためであると信じている。また「生まれた時があるように死ぬ時があるが、私達の何人かは、この世に長く生きている必要はない。私達はこの世に、自分達自身の進歩のためばかりでなく、他者を助けるために生まれてきている」と、夫人は言っている。

ある時、夫人は女兒のヒーリングを頼まれた。女兒は夫人の訪問を楽しみにしていたが、夫人はその両親の間の不和を感知した。そして、それは女兒の病気のせいだろうと思っていた。結局、その娘は亡くなった。その後両親は夫人のところにきて、離婚しようとしていたが、娘が病気になったことで夫婦は親密になり、離婚しないことにした、と話した。また、ヒーリングは重要なものであることを知った、ヒーラーになれないだろうかと相談した。この娘の短い人生は、両親に違ったものの見方をさせるためだったのだろうか？夫人は、ある子供がひどい病気で生まれた場合、それはより弱い魂を助けるために彼本来の重荷よりも多くの重荷を担っている、非常に老熟の魂であるに違いないと信じている。カルマの法則、原因と結果の則があり、私達の人生では多くのことが起こるが、時に、偶然起こったように感じる。しかしこの「偶然」が、私達の人生全体を変化させ、他の人達の人生に影響を及ぼしているのではないだろうか、と夫人は考えている。

考 察

ドリス・コリンズの霊能力は、公開集会や個人相談等で発揮されてきたが、それらの対象は殆どが個人的な問題解決であり、公的な問題はまれであった。即ち、選挙の日を予測して当てたとか飛行機事故を予感したことはあるが、殆どが個人の病気治療、結婚の予測、殺人事件の霊視のようなものである。そしてこれらは他の一般的霊能者達の活動内容であり、夫人もその1人であり、日本の宜保愛子女子のような霊能者と同様な霊能力の持ち主であったと思われる。夫人の場合は非常にエネルギーで、50年以上に亘って霊視とヒーリングを

世界中を回って続けたことは、超人的である。彼女の真摯な霊的活動は、世界中の多くの人々に貢献するものであったし、人々の意識を啓蒙するものであったと考えられる。

引用文献

- 1) Doris Collins (1983) : A woman of spirit, The autobiography of a psychic; Granada Publishing Ltd (英国)
- 2) Psychic News (1988, May 21) (Psychic press Ltd.) (英国)

参考文献

- 1) 田中千代松 (1984) : 新・心霊科学事典 (潮文社)
- 2) 春川栖仙 (1990) : 心霊研究辞典 (東京堂)
- 3) 板谷樹・宮沢虎雄 (1979) : 心霊科学入門 (財団法人日本心霊科学協会)
- 4) ジナ・サーミナラ (1984) : 転生の秘密 (多賀英訳、たま出版)
- 6) 近藤千雄 (1954) : 古代霊は語る (潮文社)
- 7) 瀬戸明・湯浅泰雄 (2002) : 科学的是非の決定に普遍的に通用している方法論的な判断論理系の前提に関する2つの深刻な誤謬とその実例 : 人体科学会第12回大会抄録集 53・54頁 (人体科学会)
- 8) 町好雄・竜超 (2002) : 透視状態における人体の生理現象 : 同上 45・46頁 (同上)
- 9) 渡部英機 (2003) : シュリ スワミ サマルスの示した超能力の種々相について (今治明德短期大学研究紀要第27集 111-115頁) (今治明德短期大学)
- 10) 同 (2005) : 霊能者宜保愛子女史の超能力と死生観 (同第29集 115-121頁) (同上)
- 11) 同 (2008) : 霊能者吉田綾夫人の説いた人生観 (同32集 87-93) (同)
- 12) 同 (1998) : インドの聖者サイババの超能力について (人体科学第7巻第1号 135-138頁) (人体科学会)
- 13) David Harvey (1983) : The power to heal, An investigation of healing and the healing experiences (The Aquarian press, UK)

教員活動報告(2008. 4. 1 ～ 2009. 3. 31)

阿部清子

- 1) 共同発表 「短大生の朝食習慣と健康」 阿部清子・河野弘美・中居由香・寺川夫央・原映子. 平成20年度四国公衆衛生研究発表会 愛媛県県民文化会館 平成21年2月

市川ひろみ

- 1) 「戦争後の子ども——終わらない戦争・見えない脅威——」初瀬龍平編『国際関係のなかの子ども』御茶ノ水書房 平成21年3月
- 2) “Families acting as ‘semi-concerned persons’ to protect soldiers”, in : Masatugu Masuo and Louis Fernad Baron eds, *Peace and Human Security*, Institute for Peace Science, Hiroshima University. March 2009
- 3) “Children after the war: long lasting sufferings and invisible threats” 『松尾雅嗣先生退官記念・平和科学研究センター研究報告シリーズ』平成21年3月
- 4) 講演「市民的不服従という考え方」 第41回平和記念日集会 静岡靖国問題連絡協議会主催 静岡産業経済会館 平成20年8月
- 5) 研究発表「『新しい戦争』下の命令拒否」世界政治研究会 東京大学山上会館 2008年11月
- 6) 研究発表「『制服を着た市民』による社会運動」 西日本ドイツ現代史学会 広島市立大学 広島平和研究所 2009年3月

伊月知子

- 1) 共同発表 「Differences Over Generations as for Views and Attitudes of Communication among Japanese Married Couples」 Junko AKAZAWA, Tomoko ITSUKI 20th BIENNIAL ISSBD MEETING, University of Würzburg, GERMANY July 2008
- 2) 研究発表 「中国の大学日本語専攻における学習者の対日意識」中国文芸研究会7月、関西学院大学 平成20年7月
- 3) 研究発表 「ビジネス日本語とビジネス実教育について——留学生の秘書検定受験について——」アジア人材資金構想愛媛地区研修会 愛媛大学国際交流センター 平成21年2月
- 4) 中国語講座 平成20年5月～平成21年1月 本学国際交流支援センター主催

5) 公開講座「身近に感じてみよう～海外の社会事情と異文化交流～」松山大学 平成20年6月

6) 講座「世界・文化の旅」NHK松山文化センター 平成20年8月

河野弘美

1) 共同発表「短大生の朝食習慣と健康」阿部清子・河野弘美・中居由香・寺川夫央・原映子。
平成20年度四国公衆衛生研究発表会 愛媛県県民文化会館 平成21年2月

佐伯羊一

1) 第16回豊明市長杯高校女子ソフトボール大会に今治明德高校コーチとして参加
愛知県豊明市 平成20年5月

2) 17回近県高校女子ソフトボール大会に今治明德高校コーチとして参加
香川県高松市 平成20年8月

3) 第13回全日本エルダーソフトボール大会に役員として参加
今治市 平成20年9月

4) 第11回しまなみ女子ソフトボール研修大会に今治明德高校コーチとして参加
今治市 平成21年1月

5) 第54回 全国私立高等学校女子ソフトボール選抜滋賀大会に競技副委員長として参加
滋賀県高島市 平成21年3月

寺川夫央

1) ポスター発表「青年期における身体意識と性別役割意識——1995年調査と2008年調査の比較検討——」第20回日本発達心理学会 日本女子大学 平成21年3月

2) 平成20年度 公立中学校 スクールカウンセラー(愛媛県教育委員会) 平成20年4月～平成21年3月

3) 平成20年度いじめ対策ネットワーク研究 今治市いじめ対策実行委員会委員(今治市教育委員会) 平成20年5月～平成21年3月

徳永英幸

1) 今治市沖浦地区最終処分場整備等方針検討委員会(委員) 平成20年4月

2) 今治市水道ビジョン策定委員会(委員) 平成20年5月

3) 今治市環境審議会(副会長) 平成20年10月

- 4) 下水浄化センター運営協議会(委員) 平成20年11月
- 5) 今治クリーンセンター運営協議会(委員) 平成20年12月
- 6) 今治市衛生センターの公害防止に関する協議会(副会長) 平成20年12月

中居由香

- 1) 共同発表「短大生の朝食習慣と健康」阿部清子・河野弘美・中居由香・寺川夫央・原映子, 平成20年度四国公衆衛生研究発表会 愛媛県県民文化会館 平成21年2月
- 2) 出張講義「生活産業基礎」 愛媛県立小松高等学校 平成21年2月

原映子

- 1) 共同発表「短大生の朝食習慣と健康」阿部清子・河野弘美・中居由香・寺川夫央・原映子, 平成20年度四国公衆衛生研究発表会 愛媛県県民文化会館 平成21年2月
- 2) 講演「糖質の話——この歴史ある栄養素の重要性を代謝から考える」 愛媛県栄養士会松山支部研修会 平成20年4月

藤田豊子

- 1) 本学公開講座「歩き遍路のためのやさしい栄養学」 本学 平成20年5月

向井久幸

- 1) 書評 「ダロウェイ夫人 ヴァージニア・ウルフ」 愛媛新聞広告面 平成20年8月

森四郎

- 1) 今治市児童館運営委員会(委員長) 平成20年6月

渡部英機

- 1) 翻訳『今すぐここでの解脱』 原著『Liberation Here Itself Right Now!』Vasantha Sai 著 日本サイババ研究会 平成20年9月
- 2) 翻訳『ウパニシャドを越えて』 原著『Beyond the Upanishads』Sri Vasantha Sai 著 日本サイババ研究会 平成20年10月

編集委員

渡部英機
野口敦子
土岐敦子

執筆者紹介(執筆順)

伊月知子	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	准教授
武田秀敏	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	教授
寺川夫央	今治明德短期大学	幼児教育学科	講師
徳永英幸	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	教授
中居由香	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	講師
阿部清子	今治明德短期大学	幼児教育学科	准教授
河野弘美	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	教授
原映子	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	教授
野口学	今治明德短期大学	幼児教育学科	教授
濱田亮輔	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	准教授
向井久幸	今治明德短期大学	幼児教育学科	教授
渡部英機	今治明德短期大学	ライフデザイン学科	教授

平成21年3月26日 印刷
平成21年3月29日 発行

編集発行者 今治明德短期大学
今治市矢田甲688

印刷所 原印刷株式会社
今治市喜田村1-2-1

REPORTS OF RESEARCH

IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

No. 33

CONTENTS

The Consciousness about Japan of Japanese Major Students : Investigation for Japanese Learners of Chinese UniversitiesTomoko ITSUKI	1
Study on a Possible Application of Citrus Fruits to SweetsHidetoshi TAKEDA	13
A Study on the Survey about Body-Consciousness in AdolescenceFUO TERAGAWA	31
To Obtain the Sound Farmland Producing Healthful Foods for the Future V Influence of frequency of wind direction at the point of clean center—refuse incineration plant—on the germination of aquatic crustaceans in submerged paddy fieldsHideyuki TOKUNAGA.....	45
Consideration and Reality about Food in Students of Junior College Yuka NAKAI, FUO TERAGAWA, Kiyoko ABE, Hiromi KOUNO and Eiko HARA.....	59
Running morning meeting and its reality in the second decade of the Showa eraManabu NOGUCHI.....	69
A quantative analysis of the semantic structure of Korean particle lo, based on similarity rating by native speakersRyosuke HAMADA.....	79
《Papa》 et 《Taatan》 — La relecture d'essais de SUZUKI TakaoHisayuki MUKAI.....	89
The Psychic Dollis Collins' Clairvoyance and Healing, and her View of LifeHideki WATANABE.....	95

March 2009

IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE